PENTAX

レンズ交換式デジタル一眼カメラ

K-01

使用説明書

カメラの正しい操作のため、ご使用前に必ずこの使用説明書をご覧ください。

はじめに

このたびは、ペンタックス・レンズ交換式デジタル一眼カメラ K-01をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本製品の機能を十分活用していただくために、ご使用になる前に本書をよくお読みください。また本書をお読みになった後は必ず保管してください。使用方法がわからないときや、機能についてもっと詳しく知りたいときにお役に立ちます。

使用できるレンズについて

本機で使用できるレンズは、基本的にDA・DA L・D FA・FA Jまたは絞り **A**（オート）位置があるレンズです。それ以外のレンズやアクセサリーを使用するときは、本書のp.47・p.232をご覧ください。

著作権について

本製品を使用して撮影した画像は、個人で楽しむなどの他は、著作権法により、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物の中には、個人として楽しむ目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

商標について

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。Windows Vistaは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Macintosh、Mac OS、QuickTimeは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
SDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。
この製品はAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の許可のもと、DNG技術を取り入れています。
DNG ロゴは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
SILKYPIXは、株式会社市川ソフトラボラトリーの登録商標です。

その他、記載の商品名、会社名は各社の商標もしくは登録商標です。なお、本文中にはTM、®マークは明記していません。

本製品はPRINT Image Matching IIIに対応しています。PRINT Image Matching対応プリンターでの出力および対応ソフトウェアでの画像処理において、撮影時の状況や撮影者の意図を忠実に反映させることが可能です。なお、PRINT Image Matching IIIより前の対応プリンターでは、一部機能が反映されません。
PRINT Image Matching、PRINT Image Matching II、PRINT Image Matching IIIに関する著作権はセイコーエプソン株式会社が所有しています。

AVC Patent Portfolio Licenseについて

本製品は、お客様が個人使用または報酬を受けないその他の利用で次の行為を行うために使用される場合に限り、AVC Patent Portfolio Licenseに基づきライセンスされているものです。

(i) AVC規格に従い動画をエンコードすること（以下、エンコードしたものをAVCビデオといいます）
(ii) 個人利用の消費者によりエンコードされたAVCビデオ、またはAVCビデオを供給することについてライセンスを受けている供給者から入手したAVCビデオをデコードすること

上記以外の使用については、黙示のライセンスを含め、いかなるライセンスも許諾されていません。
詳細情報につきましては、MPEG LA, LLCから取得することができます。
http：//www.mpegla.comをご参照ください。

本機を使用するにあたって

- テレビ塔など強い電波や磁気を発生する施設の周囲や、強い静電気が発生する場所では、記録データが消滅したり、撮影画像へのノイズ混入等、カメラが誤作動を起こす場合があります。
- 画像モニターに使用されている液晶パネルは、非常に高度な精密技術で作られています。99.99％以上の有効画素数がありますが、0.01％以下の画素で点灯しないものや常時点灯するものがありますので、あらかじめご了承ください。なお、記録される画像には影響ありません。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って、正しい取り扱いをしてください。

本文中のイラストおよび画像モニターの表示画面は、実際の製品と異なる場合があります。
本書では、SDメモリーカードならびにSDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことをSDメモリーカードと表現しています。

ご注意ください

この製品の安全性については十分注意を払っておりますが、下記マークの内容については特に注意をしてお使いください。

 警告 このマークの内容を守らなかった場合、人が重大な傷害を受ける可能性があることを示すマークです。

 注意 このマークの内容を守らなかった場合、人が軽傷または中程度の傷害を受けたり、物的損害の可能性があることを示すマークです。

本体について

警告

- カメラの分解・改造などをしないでください。カメラ内部に高電圧部があり、感電の危険があります。
- 落下などにより、カメラ内部が露出したときは、絶対に露出部分に手を触れないでください。感電の危険があります。
- 太陽などの強い光に向けての撮影や、レンズキャップを外した状態で直射日光のあたる場所に放置しないでください。カメラの故障や火災の原因になる場合があります。
- カメラから外したレンズを太陽に向けてのぞかないでください。失明や視力障害の原因になります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、バッテリーまたはACアダプターを取り外した上、サービス窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

注意

- ストロボの発光部に手を密着させたまま発光させないでください。やけどのおそれがあります。
- ストロボの発光部を衣服などに密着させたまま発光させないでください。変色などのおそれがあります。
- 本機には、使用していると熱を持つ部分があります。その部分を長時間持ち続けると、低温やけどを起こすおそれがありますのでご注意ください。
- 万一液晶が破損した場合、ガラスの破片には十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付いたり、口に入らないよう十分にご注意ください。
- お客様の体質や体調によっては、かゆみ、かぶれ、湿疹などが生じることがあります。異常が生じた場合は、直ちに使用をやめ、医師の診察を受けてください。

バッテリー充電器とACアダプターについて

警告

- バッテリー充電器とACアダプターは、必ず専用品を指定の電源・電圧でご使用ください。専用品以外をご使用になったり、指定以外の電源・電圧でご使用になると、火災・感電・故障の原因になります。AC指定電圧は、100-240Vです。
- 分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因となります。
- 使用中に煙が出ている・変なにおいがするなどの異常が発生した場合、すぐに使用を中止し、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 万一、内部に水などが入った場合は、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 使用中に雷が鳴り出したら、電源プラグを外し、使用を中止してください。機器の破損、火災・感電の原因となります。
- 電源プラグにほこりが付着している場合は、よく拭いてください。火災の原因となります。

注意

- ACコードの上に重いものを載せたり、落としたり、無理に曲げたりしてコードを傷めないでください。もしACコードが傷んだら、弊社修理センター、またはお客様窓口にご相談ください。
- コンセントに差し込んだまま、ACコードの接続部をショートさせたり、触ったりしないでください。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。故障の原因となります。
- バッテリー充電器D-BC90Pで充電式リチウムイオンバッテリーD-LI90P以外のバッテリーは充電しないでください。他のバッテリーを充電しようとすると、発熱や爆発、充電器の故障の原因となります。

バッテリーについて

警告

- バッテリーの液が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。

注意

- 本機では、決められたバッテリー以外は使用しないでください。バッテリーの爆発、発火の原因となることがあります。
- バッテリーは分解しないでください。無理に分解をすると、爆発や液漏れの原因となります。
- 万一、カメラ内のバッテリーが発熱・発煙を起こしたときは、速やかにバッテリーを取り出してください。その際は、やけどに十分注意してください。
- バッテリーの「+」と「−」の接点に、針金やヘアピンなどの金属類が触れないようにご注意ください。
- バッテリーをショートさせたり、火の中へ入れないでください。爆発や発火の原因となります。
- バッテリーの液が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。
- 発熱・発火・破裂のおそれがありますので、バッテリー使用の際は、下記注意事項を必ずお守りください。
  1. 専用充電器以外では絶対に充電しないこと。
  2. 火中投入、加熱、高温での充電・使用・放置をしないこと。
  3. 変形や、ショートさせたり分解・改造をしないこと。

カメラや付属品は乳幼児の手の届かない場所に

警告

- カメラや付属品を、乳幼児の手の届く場所には置かないでください。
  1. 製品の落下や不意の動作により、傷害を受けるおそれがあります。
  2. ストラップを首に巻き付け、窒息するおそれがあります。
  3. バッテリーや SD メモリーカードなどの小さな付属品を飲み込むおそれがあります。
     万一、飲み込んだと思われる場合は、直ちに医師にご相談ください。

取り扱い上の注意

お使いになる前に

- 海外旅行にお出かけの際は、国際保証書をお持ちください。また、旅行先での問い合わせの際に役立ちますので、製品に同梱しておりますワールドワイド・サービス・ネットワークも一緒にお持ちください。
- 長時間使用しなかったときや、大切な撮影（結婚式、旅行など）の前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能しているかを確認してください。万一、カメラや記録媒体（SDメモリーカード）などの不具合により、撮影や再生、パソコン等への転送がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の保証についてはご容赦ください。

バッテリー・充電器について

- バッテリーをフル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。特に高温下での保管は避けてください。
- バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電になり、バッテリー寿命を縮める原因となります。
- 充電は使用する当日か前日にすることをお勧めします。
- 本製品に付属しているACコードは、バッテリー充電器D-BC90P専用です。他の機器に接続してお使いにならないでください。

持ち運びとご使用の際のご注意

- 高温多湿の所は避けてください。特に車の中は高温になりますのでカメラを車内に放置しないでください。
- 強い振動、ショック、圧力などを加えないでください。オートバイ、車、船などの振動からは、クッションなどでくるんで保護してください。
- カメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 高温では液晶表示が黒くなることがありますが、常温に戻れば正常になります。
- 低温下では、液晶の表示応答速度が遅くなることもありますが、これは液晶の性質によるもので、故障ではありません。
- 急激な温度変化を与えると、カメラの内外に結露し水滴が生じます。カメラをバッグやビニール袋などに入れ、温度差を少なくしてから取り出してください。
- ゴミや泥、砂、ほこり、水、有害ガス、塩分などがカメラの中に入らないようにご注意ください。故障の原因になります。雨や水滴などが付いたときは、よく拭いて乾かしてください。
- 破損や故障の原因になりますので、画像モニターの表面を強く押さないでください。
- 三脚使用時は、ねじの締め過ぎに十分ご注意ください。

お手入れについて

- 汚れ落としに、シンナーやアルコール、ベンジンなどの有機溶剤は使用しないでください。
- レンズのほこりは、きれいなレンズブラシで取り去ってください。スプレー式のブロアーは、レンズを破損させるおそれがありますので、使用しないでください。
- CMOS センサーの清掃につきましては、できるだけ弊社修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。（有料）

保管について

- 防腐剤や有害薬品がある場所では保管しないでください。また高温多湿の場所での保管は、カビの原因となりますので、乾燥した風通しのよい場所に、カメラケースから出して保管してください。
- 静電気や電気ノイズの発生しやすい場所での使用・保管は避けてください。
- 急激な温度変化や、結露が発生する場所、直射日光のあたる場所での使用・保管は避けてください。
- 高性能を保つため、1～2年ごとに定期点検にお出しいただくことをお勧めします。

その他

- SDメモリーカードには、ライトプロテクトスイッチが付いています。スイッチをLOCK側に切り替えると、新たにデータを記録できなくなり、カメラやパソコンで削除やフォーマットができなくなります。

- カメラを使用した直後にSDメモリーカードを取り出すと、カードが熱くなっている場合があります。
- SDメモリーカードへのアクセス中は、カードを取り出したり電源を切ったりしないでください。データやカードの破損の原因となります。
- SDメモリーカードは、曲げたり強い衝撃を与えないでください。また、水に濡らしたり、高温になる場所に放置しないでください。
- SDメモリーカードのフォーマット中は絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- SDメモリーカードに保存したデータは、以下の条件で失われる場合がありますので、ご注意ください。消去されたデータについては、当社では一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
  1. 使用者がSDメモリーカードの取り扱いを誤ったとき
  2. SDメモリーカードを静電気や電気ノイズがある場所に置いたとき
  3. 長期間SDメモリーカードを使用しなかったとき
  4. SDメモリーカードのアクセス中にカードを取り出したり、バッテリーを抜いたとき
- 長期間使用しない場合は、保存したデータが読めなくなることがあります。必要なデータは、パソコンなどへ定期的にバックアップを取るようにしてください。
- SDメモリーカードをご購入の際は、あらかじめ動作確認済みのものであるかを当社ホームページでご確認いただくか、お客様相談センターにお問い合わせください。

- 未使用品や他のカメラで使用したSDメモリーカードは、必ずフォーマットしてからご使用ください。
- フォーマットしたカードでも、市販の修復ソフトを使用すると、データを再び取り出せることがあります。廃棄にはSDメモリーカード本体を物理的に破壊し、譲渡の際は市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってSDメモリーカード内のデータを完全に消去することをお勧めします。
- SDメモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。
付属のCD-ROMと当社ホームページから登録が可能です。p.213を参照してください。

目次

撮影のための設定 125

いろいろな再生と画像編集　153

その他の設定を変更する 183

パソコンと接続する 207

ストロボの活用 215

付録 225

本書の構成

本書は、次の章で構成されています。

1 お使いになる前に

付属品や各部の名称、機能について説明しています。

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでの準備操作について説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に操作を行ってください。

3 使ってみよう

基本の撮影方法と再生方法を説明しています。

4 いろいろな撮影

撮影に関するさまざまな機能を説明しています。

5 撮影のための設定

保存形式など、撮影時の設定を説明しています。

6 いろいろな再生と画像編集

さまざまな再生方法や画像の編集について説明しています。

7 その他の設定を変更する

画面表示やフォルダー命名規則など、カメラ全般とファイル管理に関する設定を説明しています。

8 パソコンと接続する

カメラとパソコンのつなぎ方や、付属ソフトウェアのインストール方法と概要を説明しています。

9 ストロボの活用

内蔵ストロボと外付けストロボの使用方法を説明しています。

10付録

困ったときの対処のしかたや別売品のご紹介、各種資料を掲載しています。

本書で使用している表記の意味は次のようになっています。

☞	関連する操作の説明が記述されているページを記載しています。
メモ	知っておくと便利な情報などを記載しています。
注意	操作上の注意事項などを記載しています。

1 お使いになる前に

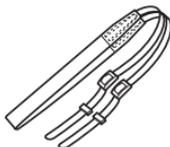
お使いになる前に、同梱品と各部の名称や機能を確認してください。

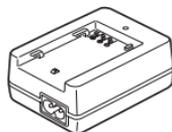
主な同梱品の確認

本機には以下の付属品が同梱されています。
お使いになる前に、付属品に不足がないかお確かめください。

ホットシューカバー Fк
（カメラ装着）

ボディマウントカバー
（カメラ装着）

USBケーブル
I-USB7

ストラップ
O-ST120

充電式リチウムイオン
バッテリーD-LI90P

バッテリー充電器
D-BC90P

ACコード
D-CO2J

ソフトウェア（CD-ROM）
S-SW120

使用説明書（本書）

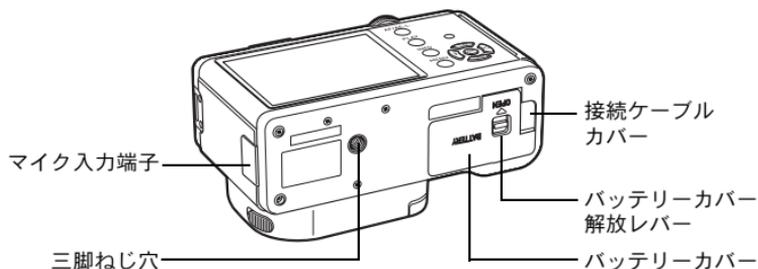
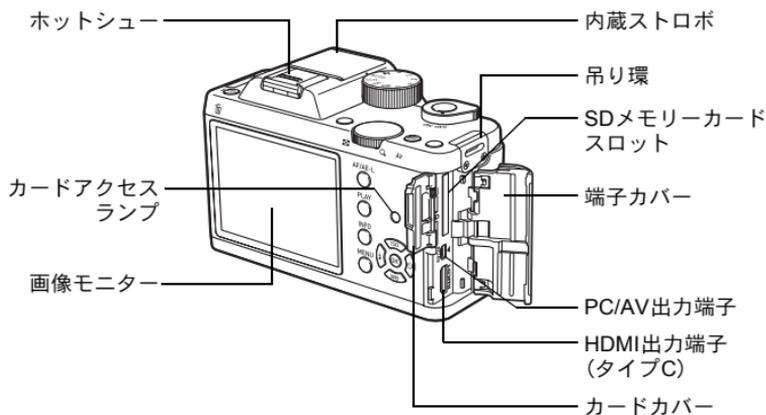
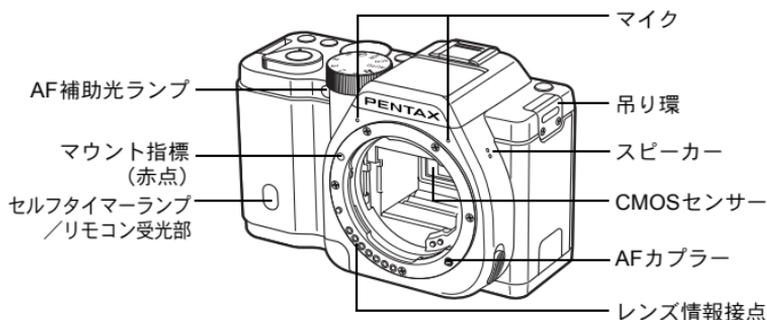
保証書

別売のアクセサリーについては、p.240を参照してください。

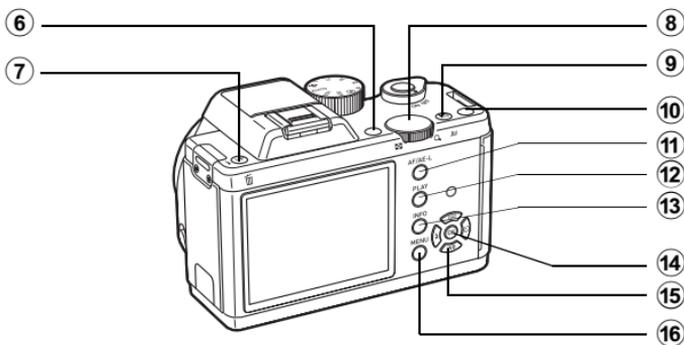
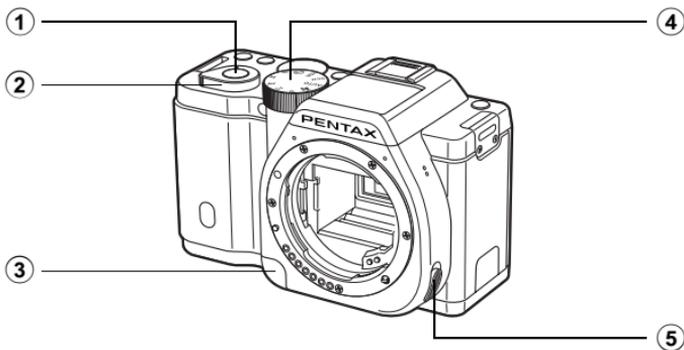
各部の名称と機能

マイク
AF補助光ランプ
吊り環
マウント指標
（赤点）
スピーカー
セルフタイマーランプ
／リモコン受光部
CMOSセンサー
AFカプラー
レンズ情報接点
PENTAX

ホットシュー
内蔵ストロボ
吊り環
SDメモリーカード
スロット
カードアクセス
ランプ
端子カバー
画像モニター
PC/AV出力端子
HDMI出力端子
（タイプC）
カードカバー
AF/AE-L
PLAY
INFO
MENU
ISO
OK
WB
ON OFF
AV

接続ケーブル
カバー
マイク入力端子
バッテリーカバー
解放レバー
三脚ねじ穴
バッテリーカバー
OPEN
BATTERY

撮影時

撮影時に使用するボタンやダイヤル、レバーの機能を示します。

メモ ここでは工場出荷時の状態の機能を説明します。ボタンによっては、機能を変更することができます。

① **シャッターボタン**
画像を撮影します。（p.57）

② **電源レバー**
電源のON／OFFを行います。（p.49）

③ **レンズ取り外しボタン**
レンズを取り外すときに押します。（p.48）

④ **モードダイヤル**
撮影モードを切り替えます。（p.74）

⑤ **フォーカスモードレバー**
フォーカスモードを切り替えます。（p.92）

⑥ **⦿（緑）ボタン**
機能を割り当てて使用します。（p.147）

⑦ **UP/🗑（ストロボポップアップ）ボタン**
内蔵ストロボをポップアップします。（p.63）

⑧ **電子ダイヤル**
シャッター速度／絞り値／露出補正値を設定します。（p.81）
メニュー画面が表示されているときは、メニューを切り替えます。（p.34）
コントロールパネルが表示されているときは、設定を切り替えます。（p.33）

⑨ **/Avボタン**
露出補正値や絞り値を変更するときに押します。（p.82、p.84）
/Avボタンを押してから、または押しながら電子ダイヤルを回して設定を変更します。

⑩ **⦿（赤）ボタン**
動画を撮影したり、機能を割り当てて使用します。（p.118、p.147）

⑪ **AF/AE-Lボタン**
ピントを合わせたり、露出値を記憶するように設定できます。（p.87、p.96、p.152）

⑫ **PLAYボタン**
再生モードに切り替えます。（p.64）

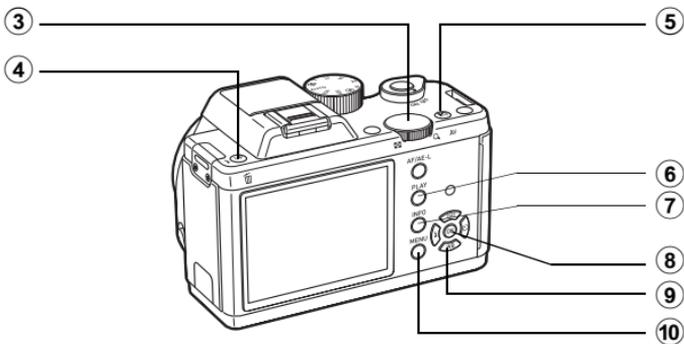
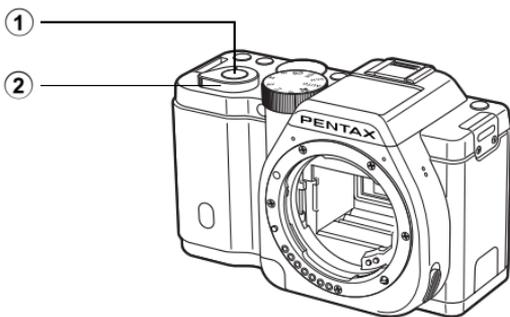
⑬ **INFOボタン**
コントロールパネルを表示します。もう一度押すと、撮影待機画面の表示情報を設定できます。（p.22）

⑭ **OKボタン**
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときに、選択した項目を決定します。
AF方式が（セレクト）に設定されているときは、AF領域の設定の開始／終了を切り替えます。（p.94）また、フォーカスロック時や**MF**モードのときは、画像モニターを拡大表示します。（p.95）

⑮ **十字キー（▲▼◀▶）**
ISO感度／ホワイトバランス／ストロボモード／ドライブモードの設定画面を呼び出します。（p.68）
コントロールパネルやメニュー画面が表示されているときは、カーソルの位置や項目を変更します。

⑯ **MENUボタン**
「撮影1」メニュー（p.69）を表示します。メニューが表示されているときに押すと、1つ前の画面に戻ります。（p.33）

再生時

再生時に使用するボタンやダイヤルの機能を示します。

① **シャッターボタン**
半押しすると撮影モードに切り替わります。

② **電源レバー**
電源のON／OFFを行います。（p.49）

③ **電子ダイヤル**
再生画像を拡大表示（p.157）、または複数画像を表示（p.158）します。

④ **UP/（消去）ボタン**
画像を消去します。（p.65）

⑤ **/Avボタン**
JPEG形式で撮影した直前の画像がカメラ内の撮影バッファに残っている場合に、RAW形式の画像を追加保存します。（p.64）

⑥ **PLAYボタン**
撮影モードに切り替えます。

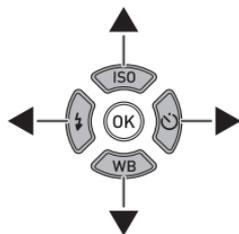
⑦ **INFOボタン**
再生画面の表示情報を設定できます。（p.25）

⑧ **OKボタン**
メニュー画面や再生画面で選択した項目を決定します。

⑨ **十字キー（▲▼◀▶）**
メニュー画面や再生画面でカーソルの位置や項目を変更します。
1画像表示で十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットを表示します。（p.154）

⑩ **MENUボタン**
「再生1」メニュー（p.155）を表示します。

キーの表記について

本書では、十字キーを次のように表記します。

画像モニターの表示

画像モニターには、カメラの状態によってさまざまな情報が表示されます。

画像モニターの明るさと色味を調整することができます。（p.192）

撮影時

撮影待機中は、撮影機能の設定内容が表示されます。
INFOボタンを押すと「コントロールパネル」が表示され、設定が変更できます。（p.24）
「コントロールパネル」が表示された状態で**INFO**ボタンを押すと、撮影待機中の表示情報を選択できます。十字キー（▲▼◀▶）で画面の種類を選択して**OK**ボタンを押すと、撮影待機中の画面が選択されます。

撮影待機中
（標準情報表示）

コントロールパネル

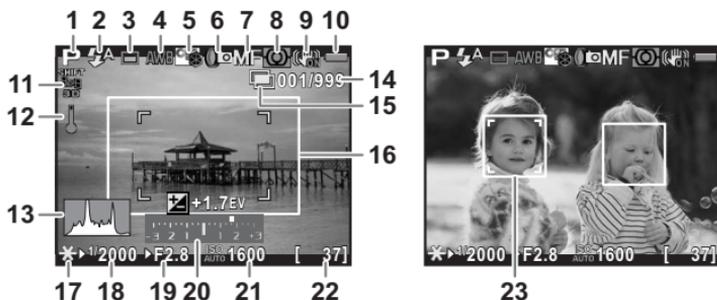
撮影待機画面選択

画面の種類	表示情報
標準情報表示	ライブビュー画像と撮影機能の設定を表示します。（p.23）
情報表示なし	ライブビュー画像のみ表示します。シャッターボタンを半押しすると、シャッタースピード／絞り値／ISO感度／撮影可能枚数のみ表示されます。
画像モニターオフ	画像モニターを表示しません。電子ダイヤルで露出設定を変更しているときは、シャッタースピード／絞り値／ISO感度が表示されます。 モードダイヤルが🎥になっているときは選択できません。
電子コンパス	現在地の緯度・経度・高度とカメラの向き（方位）、協定世界時を表示します。シャッターボタンを半押しすると、「標準情報表示」に戻ります。 別売のGPSユニット O-GPS1（p.244）を装着し、GPSユニットが動作しているときのみ選択できます。

- 標準情報表示／情報表示なしのときに、グリッド表示／ヒストグラム表示／白とび黒つぶれ警告を表示することができます。（p.190）
- 画像モニターオフ／電子コンパスに設定した場合、電源を切ると「標準情報表示」に戻ります。

● 標準情報表示

（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

23

1	撮影モード（p.74）	**13**	ヒストグラム（p.29）
2	ストロボモード（p.59）／録音レベル（p.114）	**14**	インターバル撮影枚数／多重露出撮影枚数／**HDR**モード露出幅
3	ドライブモード（p.68）	**15**	インターバル撮影（p.108）／多重露出（p.111）
4	ホワイトバランス（p.130）	**16**	AF枠（p.57）
5	カスタムイメージ（p.140）	**17**	AEロック（p.87）
6	**HDR**モード（p.137）／HDR 撮影（p.135）／デジタルフィルター（p.144）	**18**	シャッター速度（p.82）
7	フォーカスモード（p.92）	**19**	絞り値（p.82）
8	測光方式（p.88）	**20**	露出バー（p.84）
9	Shake Reduction（p.100）／Movie SR（p.114）	**21**	ISO感度（p.79）
10	バッテリー残量（p.41）	**22**	撮影可能枚数
11	GPS測位状態	**23**	AF方式「顔検出」の顔検出枠（p.93）
12	温度警告		

※ 11は別売のGPSユニット O-GPS1を装着し、GPSユニットが動作している場合のみ表示されます。（p.244）
※ 16のAF枠は白で表示され、ピントが合うと緑になります。ピントが合わなかったときは、赤になります。**MF**モードのときは表示されません。
※ 23は、「AF方式」を［顔検出アイコン］（顔検出）に設定していて顔を検出した場合に、メイン顔検出枠は黄色、その他は白で表示されます。

● コントロールパネル

撮影待機状態で**INFO**ボタンを押すと表示され、設定を変更することができます。（p.32）

静止画撮影モード

1				
2				
3	4	5	6	7
8	9	10	11	12
13	14	15	16	
17	18		19	20

🎥モード

1				
2				
21	3	4	6	7
10	11	15	23	16
22	12			
17	18		19	20

1 機能名称
2 設定
3 カスタムイメージ（p.140）／SCNモード（p.76）
4 デジタルフィルター（p.144）
5 HDR撮影（p.135）
6 測光方式（p.88）
7 AF方式（p.93）
8 ディストーション補正（p.138）
9 倍率色収差補正（p.138）
10 ハイライト補正（p.133）
11 シャドー補正（p.134）
12 Shake Reduction（p.100）／Movie SR（p.114）
13 アスペクト比（p.126）
14 記録形式（p.127）
15 JPEG記録サイズ（p.128）／動画記録サイズ（p.114）
16 JPEG画質（p.129）／動画画質（p.114）
17 目的地設定（p.187）
18 現在の日時（p.52）
19 SDメモリーカードの状態
20 撮影可能枚数／録画可能時間
21 露出設定（p.113）
22 録音レベル（p.114）
23 フレームレート（p.114）

- カメラの設定状況により変更できない項目は、選択できません。
- コントロールパネルは何も操作しないと、1分で撮影待機画面に戻ります。

再生時

再生モードの1画像表示では、撮影した画像と撮影時の情報が表示されます。

☞撮影した画像を再生する （p.64）

INFOボタンを押すと、1画像表示中の表示情報を選択できます。十字キー（▲▼◀▶）で画面の種類を選択して**OK**ボタンを押すと、再生情報の表示画面が選択されます。

1画像表示
（標準情報表示）

再生情報表示選択

画面の種類	表示情報
標準情報表示	撮影画像と記録形式、操作ガイドを表示します。
詳細情報表示	撮影時の詳細情報を2ページで表示します。（p.26）
ヒストグラム表示	画像と輝度ヒストグラムを表示します。動画のときは、選択できません。（p.28）
RGBヒストグラム表示	画像とRGBヒストグラム表示します。動画のときは、選択できません。（p.28）
情報表示なし	撮影画像のみを表示します。

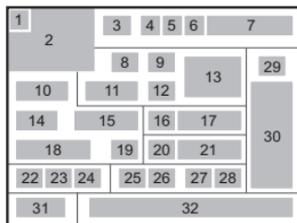
次に再生モードにしたときには、ここで選択した情報が表示されます。

「撮影3」メニューの「モードメモリ」で「再生情報表示」を□（オフ）に設定すると、電源を入れるたびに「標準情報表示」から表示されます。（p.195）

● **詳細情報表示**

十字キー（▲▼）でページを切り替えます。
（説明のため全項目を表示しています。実際に表示される画面とは異なります。）

1ページ目

静止画

動画

2ページ目

静止画／動画

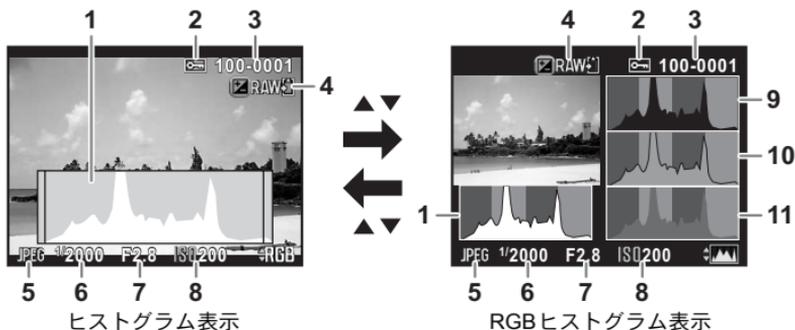
1	回転情報（p.162）	**7**	フォルダー No.-ファイルNo.（p.201）
2	撮影画像	**8**	ドライブモード（p.68）
3	撮影モード（p.74）	**9**	測光方式（p.88）
4	デジタルフィルター（p.144）	**10**	シャッター速度（p.82）
5	DPOF設定（p.204）	**11**	レンズ焦点距離
6	プロテクト（p.200）		

12 Shake Reduction（p.100）／ Movie SR（p.114）
13 フォーカスモード（p.92）
14 絞り値（p.82）
15 露出補正（p.84）
16 ストロボモード（p.59）
17 ストロボ光量補正（p.61）
18 ISO感度（p.79）
19 HDR撮影（p.135）／ 多重露出（p.111）
20 ホワイトバランス（p.130）
21 ホワイトバランス微調整（p.131）
22 記録形式（p.127）
23 JPEG記録サイズ（p.128）／ 動画記録サイズ（p.114）
24 JPEG画質（p.129）／ 動画画質（p.114）
25 ハイライト補正（p.133）
26 シャドー補正（p.134）
27 ディストーション補正（p.138）
28 倍率色収差補正（p.138）
29 画像仕上（p.140）
30 カスタムイメージパラメーター（p.141）
31 色空間（p.129）
32 撮影日時
33 記録時間
34 録音レベル（p.114）
35 フレームレート（p.114）
36 方位
37 撮影者名（p.202）
38 情報改ざん警告
39 著作権者名（p.203）
40 緯度
41 高度
42 経度
43 協定世界時

※ 36・40～43はGPS情報が記録されている場合のみ表示されます。

● **ヒストグラム表示／RGBヒストグラム表示**

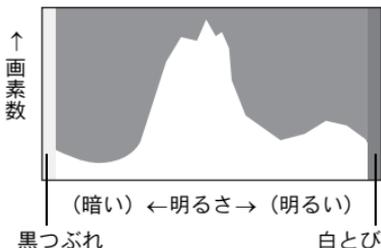
十字キー（▲▼）でヒストグラム表示とRGBヒストグラム表示が切り替えられます。

ヒストグラム表示　　RGBヒストグラム表示

1	ヒストグラム（輝度）	**7**	絞り値
2	プロテクト	**8**	ISO感度
3	フォルダー No.-ファイルNo.	**9**	ヒストグラム（R）
4	RAW形式追加保存可能	**10**	ヒストグラム（G）
5	記録形式	**11**	ヒストグラム（B）
6	シャッター速度		

※ 4は直前に撮影した画像がJPEG 形式で、RAW画像の追加保存ができる場合のみ表示されます。（p.64）

「▶再生1」メニューの「白とび黒つぶれ警告」（p.156）を☑（オン）にすると、白とび部分は赤、黒つぶれ部分は黄色で点滅表示されます。詳細情報表示／RGBヒストグラム表示のときは表示されません。

ヒストグラムの見かた

ヒストグラムとは、画像の明るさの分布を表したグラフです。横軸は明るさ（左端は黒、右端は白）を、縦軸は各明るさの画素数を積み上げて示します。
撮影の前後にヒストグラムの形状や分布を見ることで、露出レベルと明暗差が適正かどうかを確認し、露出補正や撮り直しの判断に利用できます。

☞露出を補正する （p.84）
☞明るさを補正する （p.133）

画像の明るさを見る

極端な明暗部がない適正な明るさの画像の場合、グラフは中間域に分布します。暗い画像ではグラフの分布は左側に偏り、明るい画像では右側に偏ります。

暗い画像

明部暗部の少ない画像

明るい画像

画像の中で、暗すぎてヒストグラムの左端よりも左になる部分は真っ黒になり（黒つぶれ）、明るすぎてヒストグラムの右端よりも右になる部分は真っ白になってしまいます（白とび）。
本機では、撮影時または再生時に、黒つぶれ・白とび部分を警告表示することができます。

☞再生モードの表示を設定する （p.156）
☞撮影待機画面の表示を設定する （p.190）
☞クイックビューの表示を設定する （p.191）

色のバランスを見る

「RGBヒストグラム表示」では各色の強度分布を表示します。ホワイトバランスがうまく調整されている画像は、各色のグラフ右部分が似た形になります。1色だけ左に偏っている場合などは、色がかぶっているといえます。

☞ホワイトバランスを設定する （p.130）

操作ガイド

画像モニターには、その状態で操作できるボタン等を示すガイドが表示されます。

（表示例）

▲	十字キー（▲）	◉（緑）	⦿（緑）ボタン
▼	十字キー（▼）	◉（赤）	⦿（赤）ボタン
◀	十字キー（◀）	INFO	INFOボタン
▶	十字キー（▶）	⊠	⊠/Avボタン
MENU	MENUボタン	🗑	⚡UP/🗑ボタン
OK	OKボタン	AF/AE-L	AF/AE-Lボタン
⊖	電子ダイヤル	SHUTTER	シャッターボタン

注意

- 低輝度または高輝度の撮影条件の場合、画像モニターの表示と撮影結果が異なる場合があります。
- 撮影中に光源が変化すると、画面がちらつくことがあります。「🔧詳細設定1」メニューの「フリッカー低減」（p.184）でご使用の地域の電源周波数に設定することで、ちらつきを抑えることができます。
- 撮影中にカメラの向きを変えるなどの急激な変化があると、適切な明るさで表示されない場合があります。表示が安定するのを待ってから撮影してください。
- 暗い場所では画像モニターにノイズが生じる場合があります。
- ISO感度を高くすると、ノイズや色ムラが生じる場合があります。
- 長時間連続して撮影を行うとカメラ内部の温度が上がり、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに電源を切るようにしてください。画質低下を軽減するため、長時間露光や動画撮影時は撮影の間隔をあけ、カメラ内の温度が上昇しないようにしてください。
- カメラ内部の温度が高いと 🌡（温度警告）が画像モニターに表示されます。その場合は撮影を中断するか、画像モニターをオフにしてください。温度警告が表示されたまま撮影を続けると、電源が切れます。

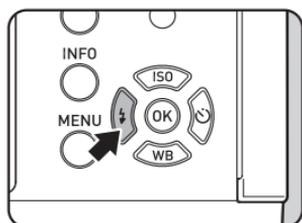
機能の設定方法

機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／メニューのいずれかで設定します。
ここでは、基本的な機能の設定方法を説明します。

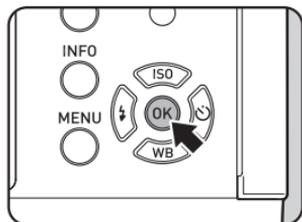
ダイレクトキーで設定する

撮影待機状態で十字キー（▲▼◀▶）を押すと、ISO感度／ホワイトバランス／ストロボモード／ドライブモードが設定できます。（p.68）
ここでは「ストロボモード」を設定する場合を例に説明します。

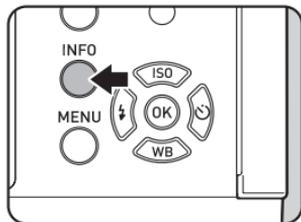
1 撮影待機状態で十字キー（◀）を押す

ストロボモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選ぶ

3 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

コントロールパネルで設定する

撮影待機中にコントロールパネルに切り替えて設定が変更できます。
ここでは「JPEG画質」を設定する場合を例に説明します。

1 撮影待機状態で INFO ボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で変更する項目を選ぶ

変更できない項目は選択できません。

3 OK ボタンを押す

選択した項目の設定画面が表示されます。

4 **十字キー（◀▶）または電子ダイヤルで設定値を選ぶ**

5 **OKボタンを押す**

コントロールパネルに戻ります。
続けて他の項目が設定できます。

6 **MENUボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする**

撮影できる状態になります。

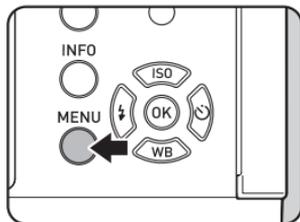
メモ：手順2で変更する項目を選択している状態で、電子ダイヤルを回して設定を変更することもできます（動画モードの「録音レベル」は、手順4の画面は表示されないため、この操作で設定します）。カスタムイメージ／デジタルフィルターの詳細設定は、**OK**ボタンを押してから変更します。

メニューで設定する

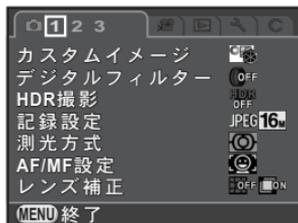
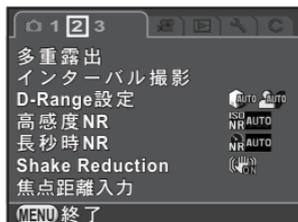
「撮影」／「動画」／「再生」／「詳細設定」／「**C**カスタム」メニューの操作方法を説明します。
ここでは「撮影2」メニューの「長秒時NR」を設定する場合を例に説明します。

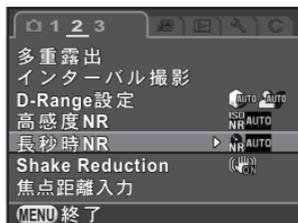
1 **撮影待機状態でMENUボタンを押す**

画像モニターに「撮影1」メニューが表示されます。
次のときは、それぞれ以下のメニューが表示されます。

モードダイヤル動画	「動画1」メニュー
再生モード	「再生1」メニュー

2 十字キー（▶）を押す

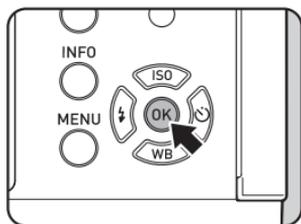
1回押すごとに「📷撮影2」→「📷撮影3」→「🎥動画1」・・・と順に切り替わります。

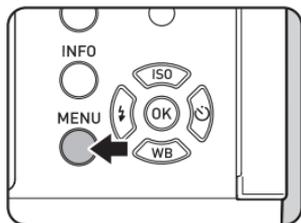
電子ダイヤルを回して切り替えることもできます。

3 十字キー（▲▼）で項目を選ぶ

4 十字キー（▶）を押す

ポップアップまたはサブメニューに設定できる項目が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で設定を選ぶ

MENUボタンを押すと、ポップアップの取り消し、または1つ前の画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

設定が決定されます。
サブメニューが表示されていたときは、**MENU**ボタンを押します。
続けて他の項目が設定できます。

7 MENUボタンを押す

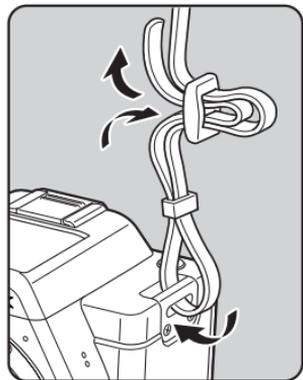
メニュー選択前の画面に戻ります。

MENUボタンを押してメニュー画面を閉じても、電源を入れたままバッテリーを取り出したりするなど誤った操作で電源を切ると、設定は保存されません。

- 次にメニューを表示したときに、直前に選択したメニューのページから表示するか、常に「撮影1」から表示するかを設定できます。(p.193)
- 各メニューの設定内容については、以下を参照してください。
  - 「撮影」メニュー ☞p.69
  - 「動画」メニュー ☞p.71
  - 「再生」メニュー ☞p.155
  - 「詳細設定」メニュー ☞p.184
  - 「Cカスタム」メニュー ☞p.72

2 準備編

お買い上げ後、画像を撮影するまでに必要な準備を説明しています。必ずお読みになり、撮影を始める前に、操作をしてください。

ストラップを取り付ける

1 ストラップの先端をカメラの吊り環に通し、留め具の内側に固定する

2 もう一方も同様に取り付ける

バッテリーをセットする

カメラにバッテリーをセットします。バッテリーは専用のD-LI90Pを使用します。

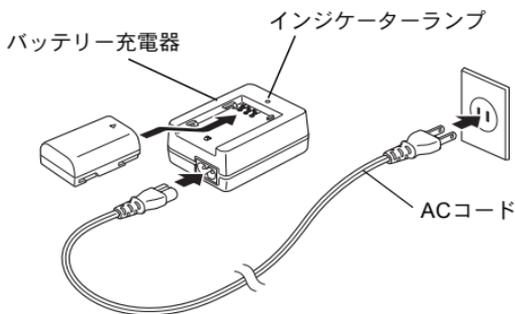
バッテリーを充電する

初めて使用するときや長時間使用しなかったとき、「電池容量がなくなりました」というメッセージが表示されたときは、バッテリーを充電してください。

1 バッテリー充電器にACコードを接続する

2 ACコードをコンセントに差し込む

3 バッテリーを▲マークがある面を上にしてセットする

充電中はインジケーターランプが点灯します。
充電が完了すると、インジケーターランプが消灯します。

4　充電終了後、バッテリー充電器からバッテリーを取り外す

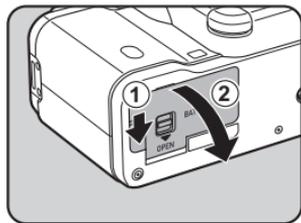
- 付属のバッテリー充電器D-BC90Pでは、専用の充電式リチウムイオンバッテリー D-LI90P以外は充電しないでください。充電器の破損や発熱の原因となります。
- 次の場合は、新しいバッテリーと交換してください。
  - バッテリー充電器に正しくセットしてもインジケーターランプが点滅する、または点灯しない
  - 正しく充電しても使用できる時間が短い（バッテリーの寿命）

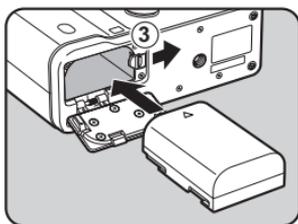
充電時間は、最大で約320分です（周囲の温度や充電状態によって異なります）。周囲の温度が0～40℃の範囲で充電してください。

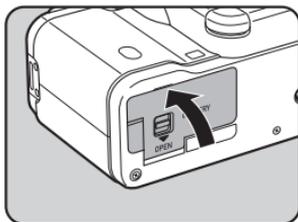
バッテリーを入れる／取り出す

- バッテリーは正しく入れてください。間違った向きに入れると、取り出せなくなる場合があります。また、バッテリーの電極は、乾いた柔らかい布でよく拭いてから入れてください。
- 電源が入っているときは、バッテリーカバーを開けたり、バッテリーを取り出したりしないでください。
- カメラを長時間連続で使用した場合、本体やバッテリーが熱くなっていることがありますので、ご注意ください。
- 長い間使わないときは、バッテリーを取り出しておいてください。長期間入れたままにしておくと、バッテリーが液漏れをすることがあります。
- 長期間バッテリーをセットしていないと、日時がリセットされることがあります。その場合は、「日時を設定する」（p.52）の手順に従って設定し直してください。

1　バッテリーカバー開放レバーをOPEN（①）の方向に押す

バッテリーカバーが開きます（②）。

2 バッテリーの ▲ マークをカメラのレンズ側に向けてロックするまで挿入する

バッテリーを取り出すときは、バッテリーロックレバー（③）を矢印の方向に押します。

3 バッテリーカバーを閉じる

バッテリーカバーがロックされます。

バッテリー容量の確認

画像モニターでバッテリーの残量を確認することができます。

画像モニターの表示	バッテリーの状態
▮▮▮（緑）	バッテリーが十分に残っています。
◢（緑）	少し減っています。
◢（黄）	だいぶ減っています。
▮▮▮（赤）	残量がほとんどありません。
「電池容量がなくなりました」	メッセージ表示後、電源が切れます。

低温下や連続撮影を続けた場合、容量が十分に残っていても◢／▮▮▮（赤）が点灯することがあります。電源を入れ直してみて▮▮▮（緑）が表示された場合は、そのまま使用できます。

リサイクルについて

このマークは小型充電式電池のリサイクルマークです。
ご使用済みの小型充電式電池を廃棄するときは、端子部に絶縁テープを貼って、小型充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

撮影可能枚数と再生時間（バッテリーフル充電時）

バッテリー	使用温度	一般撮影	ストロボ撮影		再生時間
			使用率50％	使用率100％	
D-LI90P	23℃	約540枚	約500枚	約440枚	約320分
	0℃	約480枚	約450枚	約410枚	約300分

撮影枚数（一般撮影、ストロボ使用率50％）はCIPA規格に準じた測定条件、その他については当社の測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

- 使用環境の温度が下がると、バッテリーの性能が低下します。寒冷地で使用する場合は、予備のバッテリーを用意して、衣服の中で保温するなどしてご使用ください。なお、低温によって低下したバッテリーの性能は、常温の環境で元に戻ります。
- 海外旅行、寒冷地で撮影する場合や大量に撮影する場合は、予備のバッテリーをご用意ください。

ACアダプター（別売）を使用する

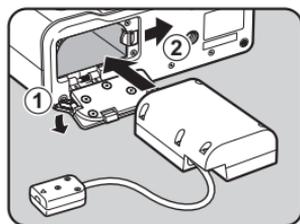
画像モニターを長時間使用するときや、パソコンやAV機器と接続するときは、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）のご使用をお勧めします。

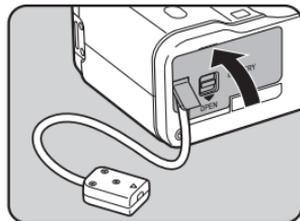
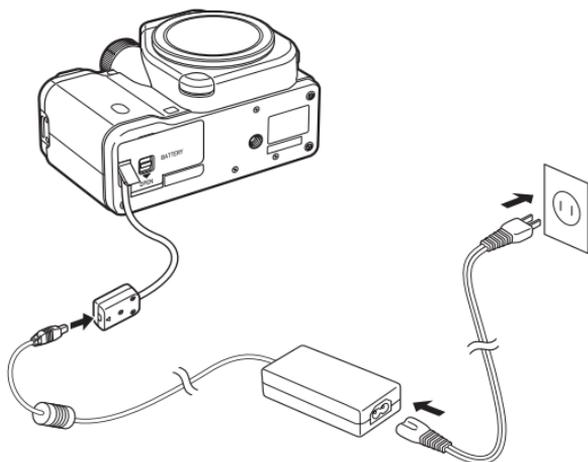
1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 バッテリーカバーを開ける

p.40の手順1を参照してください。
バッテリーがセットされていた場合は、バッテリーを取り出します。

3 バッテリーカバー左側の接続ケーブルカバー（①）を引き出してから、バッテリー室にDCカプラーをロックするまで挿入する

DCカプラーを取り出すときは、バッテリーロックレバー（②）を矢印の方向に押します。

4 バッテリーカバーを閉める

接続ケーブルカバー部分から接続ケーブルが引き出されます。

5 DCカプラーとACアダプターを接続する

6 ACアダプターをACコードに接続する

7 ACコードをコンセントに差し込む

- ACアダプターを接続または外すときは、必ずカメラの電源をOFFにしてください。
- 各端子は正しく接続してください。カメラがSDメモリーカードにアクセス中に接続部が外れると、SDメモリーカードやデータが破損するおそれがあります。
- ACアダプターを使用しているときは、バッテリーカバーから接続ケーブルが引き出された状態になります。カメラを机などに立てて置くことができませんので注意してください。
- DCカプラーを取り出したら、接続ケーブルカバーを元に戻してください。

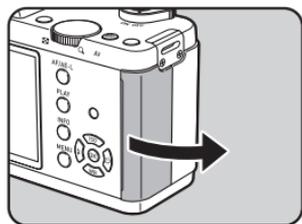
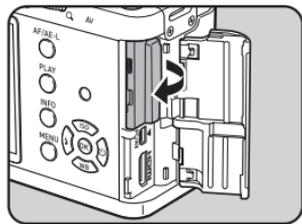
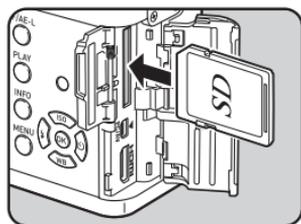
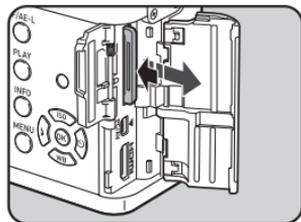
- AC アダプターを接続しているときは、バッテリー残量表示が DCIN になります。
- ACアダプターをご使用になるときは、ACアダプターキット K-AC1202Jの使用説明書を併せて参照してください。

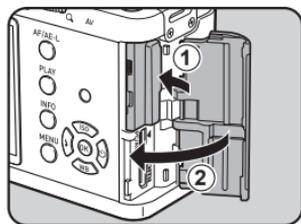
SDメモリーカードを入れる／取り出す

本機では、市販のSDメモリーカードが使用できます。
SDメモリーカードを入れるときや取り出すときは、必ず電源をOFFにしてください。

注意
- カードアクセスランプ点灯中は、絶対にSDメモリーカードを取り出さないでください。
- 使用中に端子カバーやカードカバーを開けないでください。
- 未使用または他の機器で使用したSDメモリーカードは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。フォーマットの方法については「SDメモリーカードをフォーマットする」（p.199）を参照してください。
- 動画を撮影する場合は、高速のSDメモリーカードを使用してください。書き込みが間に合わなくなると、撮影途中で終了する場合があります。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 端子カバーを矢印の方向に開く

3 カードカバーを矢印の方向に開く

4 SDメモリーカードのラベル面を画像モニター側に向け、奥まで押し込む

SDメモリーカードを取り出すときは、カードをさらに押し込みます。

5 カードカバーを閉じてからら端子カバーを閉じる（①→②）

端子カバー部分が平らになるように閉じてください。

SDメモリーカードに記録できる撮影可能枚数の目安は、「撮影可能枚数の目安」（p.255）を参照してください。

レンズを取り付ける

カメラ本体にレンズを取り付けます。
本機では、以下のレンズを使うと、カメラの撮影モードがすべて利用できます。

(a) DA・DA L・D FA・FA Jレンズ
(b) 絞り**A**（オート）位置があるレンズを**A**位置で使用

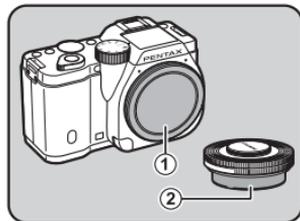
ここでは、DA 40mm F2.8 XSレンズを使用して説明します。

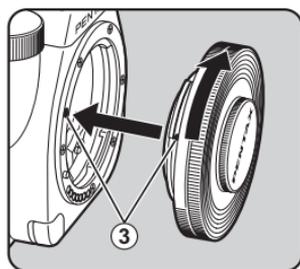
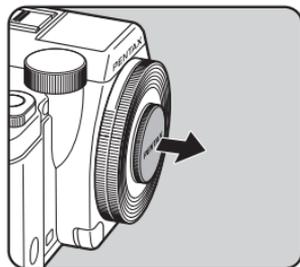
注意

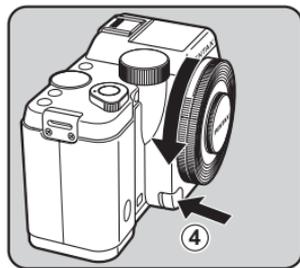
- レンズの取り付け／取り外しは、ゴミやほこりの少ない場所で行ってください。
- 持ち運ぶときなどカメラ本体にレンズを取り付けていないときは、必ずボディマウントカバーを装着してください。
- 取り外したレンズには、必ずレンズマウントカバーとレンズキャップを取り付けてください。
- カメラのマウント内に指を入れたり、シャッターや CMOS センサーを触ったりしないでください。
- カメラやレンズのマウント部分には、レンズ情報接点があります。この部分にゴミや汚れが付いたり、腐食が生じると、電気系統のトラブルの原因になる場合があります。もし汚れたときは、弊社修理センターにご相談ください。
- (b) のレンズを絞り**A** 位置以外で使用した場合や、上記以外のレンズやアクセサリーを使用する場合は、機能が制限されます。「各種レンズを組み合わせたときの機能」(p.232) を参照してください。
- 焦点距離が自動取得できないレンズを装着した場合は、電源を入れると「焦点距離入力」画面が表示されます。「レンズ焦点距離を入力する」(p.234) を参照してください。
- 本製品に他社製レンズを使用されたことによる事故、故障、不具合などにつきましては保証いたしかねます。

1 カメラの電源がOFFになっていることを確認する

2 ボディマウントカバー（①）とレンズマウントカバー（②）を取り外す

レンズマウントカバーを外したレンズは、マウント周辺を傷つけないため、カメラに取り付ける面を上にして置いてください。

3 カメラとレンズのマウント指標（赤点、③）を合わせて差し込み、「カチッ」と音がするまでレンズを右に回してレンズを取り付ける

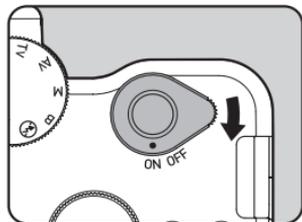
レンズ取り付け後、レンズを左に回して確実にロックされていることを確認してください。

4 レンズキャップを取り外す

レンズの取り外し

レンズキャップを取り付け、レンズ取り外しボタン（④）を押しながらレンズを左へ回します。

電源が入っているときに、レンズの着脱をしないでください。

ボディマウントカバー（①）は工場出荷時の傷やほこり防止用のものです。別売アクセサリーとしてロック機構付きのボディマウントキャップ Kをご用意しています。

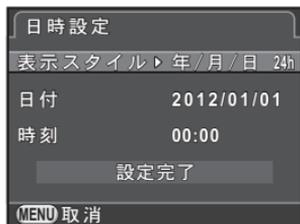
電源を入れる

1 電源レバーを「ON」に合わせる

電源が入り、起動画面が表示されます。
電源レバーを「OFF」に合わせると電源が切れます。

- カメラを使用しないときは、必ず電源を切ってください。
- 一定時間操作をしないと、自動的に電源が切れます（オートパワーオフ）。復帰するときは電源を入れ直すか、次のいずれかの操作をしてください。
  - シャッターボタンを半押しする
  - **MENU**ボタン／**INFO**ボタンのどちらかを押す
- オートパワーオフの初期設定は1分です。「🔧詳細設定2」メニューの「オートパワーオフ」で変更できます。（p.194）
- **PLAY**ボタンを押しながら電源を入れると、再生モードで起動します。
- 起動画面を表示したくない場合は、「🔧詳細設定1」メニューの「画面表示」で変更できます。（p.192）

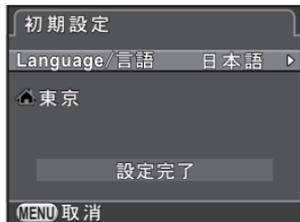
初期設定をする

工場出荷後にカメラの電源を初めて入れると、画像モニターに「Language/言語」画面が表示されます。以下の手順に従って、画像モニターに表示される言語と現在の日付や時刻を設定してください。一度設定すれば、次回電源を入れたときには、これらの設定は必要ありません。

日本語で「日時設定」画面が表示されたときは、「日時を設定する」(p.52)の手順に従って日時を設定してください。

言語を設定する

使用する言語を日本語に設定します。

1 十字キー(▲▼)で「日本語」を選択してOKボタンを押す

日本語の「初期設定」画面が表示されます。
右図のように⌂が「東京」に設定されていたら、手順6に進んでください。

2 十字キー(▼)でカーソルを⌂に移動し、十字キー(▶)を押す

「⌂現在地」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で都市を「東京」にする

電子ダイヤルを回すと、地図表示が切り替わります。

指定できる都市については、「都市名一覧」（p.189）を参照してください。

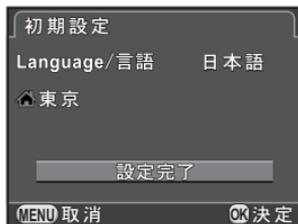
4 十字キー（▼）で「夏時間」を選び、十字キー（◀▶）で□（オフ）に設定する

5 OKボタンを押す

「初期設定」画面に戻ります。

6 十字キー（▼）で「設定完了」を選び、OKボタンを押す

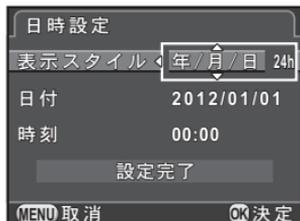
「日時設定」画面が表示されます。

メモ

現在地や日時を設定していない場合は、電源を入れ直したときに再度「初期設定」画面または「日時設定」画面が表示されます。

日時を設定する

日付の表示スタイルと現在の日付、時刻を設定します。

1 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で日付の表示スタイルを選択する**

年/月/日／月/日/年／日/月/年から選択できます。

2 **十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で24h／12hを選択する**

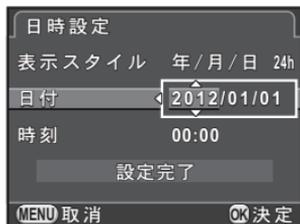
3 **OKボタンを押す**

選択枠が「表示スタイル」に戻ります。

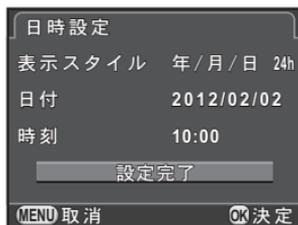
4 **十字キー（▼）を押してから十字キー（▶）を押す**

選択枠が西暦年に移動します。

5 **十字キー（▲▼）で西暦年を設定する**

同様に「月」「日」を設定します。
続いて時刻を設定します。
手順2で「12h」を選択した場合は、時刻に連動してAM／PMが切り替わります。

6 十字キー（▼）で「設定完了」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

メニュー操作で設定した場合は「🔧詳細設定1」メニューに戻るので、**MENU**ボタンを押してください。

日時設定の途中で**MENU**ボタンを押すと、それまで設定した内容がキャンセルされ、撮影できる状態になります。日時を設定しないまま次回電源を入れた場合に、初期設定が設定されていれば、最初に「日時設定」画面が表示されます。あとからメニュー操作で設定することもできます。（p.187）

メモ

- 手順6で**OK**ボタンを押したときに、秒数は0秒にセットされます。時報に合わせて**OK**ボタンを押すと、秒単位まで正確な日時設定ができます。
- 設定した言語や日時はメニュー操作で変更することができます。（p.187、p.190）

3 使ってみよう

この章では、簡単な操作で失敗のない写真が撮影できる方法として、モードダイヤルを **AUTO**（オートピクチャー）に設定した場合の基本操作を説明しています。

高度な機能や意図に合った撮影をするための設定については、4章以降を参照してください。

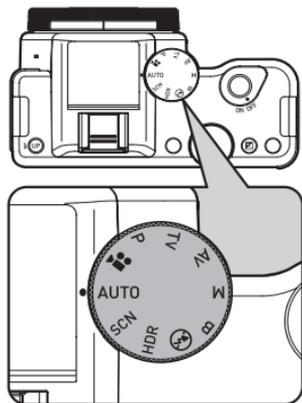
撮影の基本操作

カメラまかせで撮影する

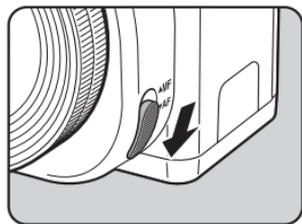
本機には、さまざまな撮影モードやフォーカスモード、ドライブモードが備わっています。ここでは、基本的にシャッターボタンを押すだけの最も簡単な撮影方法を説明します。

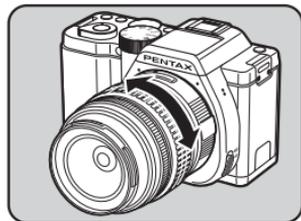
1 モードダイヤルをAUTOに合わせる

撮影モードが**AUTO**モードになります。

☞撮影モードを選ぶ（p.74）

2 フォーカスモードレバーをAFに合わせる

フォーカスモードがオートフォーカスになります。

☞フォーカスモードを設定する (p.92)

3 画像モニターで被写体を確認する

ズームレンズを装着している場合は、ズームリングを左右に回すと画角が変わります。

4 AF枠の中に被写体を入れてシャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

ピントが合うと、AF枠が緑になり、「ピピッ」と電子音が鳴ります（フォーカスロック）。

AUTOモードでは、☻（標準）／（人物）／▲（風景）／❀（マクロ）／（動体）／（夜景人物）／（夕景）／（青空）／（フォレスト）から最適な撮影モードをカメラが自動的に選択します。（p.75）

AF枠

ストロボ発光が必要な場合には、内蔵ストロボが自動的にポップアップします。

5 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

この動作を「シャッターをきる」「レリーズ」といいます。

6 画像モニターで撮影した画像を確認する

撮影直後には、画像モニターに画像が1秒間表示されます（クイックビュー）。

☞クイックビューの表示を設定する （p.191）

クイックビュー表示中は、以下の操作ができます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	拡大表示（p.157）
ϟUP/🗑ボタン	画像消去（p.65）
☒/Avボタン	RAW画像を追加保存（p.64）

- フォーカスロック中に**OK**ボタンを押すと、ピントが合った位置を中心に拡大表示することができます（AF方式▪（追尾）以外）。（p.95）
- 合焦時の電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.186）
- **AF**/**AE-L**ボタンで合焦動作を行うこともできます。（p.96）
- 撮影前に画像モニターにプレビューを表示して、被写界深度を確認できます。（p.99）

本機は、パワーズーム機能（イメージサイズ指定、ズームクリップ、露光間ズームなど）は使用できません。

内蔵ストロボを使う

周囲が暗い場合や逆光の場合は、ストロボを使用して撮影します。
内蔵ストロボは、被写体との距離がおおよそ0.7～5mの範囲のときに有効です。0.7mより近いと、ケラレ（撮影した写真の周辺部が配光不足で黒くなる現象）などが発生します。（この距離は使用するレンズや、ISO感度の設定によって多少異なります。（p.218））

注意

- 内蔵ストロボを使用する場合は、レンズフードを外してください。また、使用するレンズや撮影条件によっては、ケラレが生じることがあります。「レンズと内蔵ストロボの適合」（p.219）を参照してください。
- 絞り**A**（オート）位置のないレンズでは、内蔵ストロボは常にフル発光になります。

内蔵ストロボの特徴や外付けストロボを使った撮影など、ストロボについての詳細は「ストロボの活用」（p.215）を参照してください。

ストロボモードを設定する

ストロボモード		機能
⚡A	自動発光	周りの明るさを自動的に測定し、ストロボの発光をカメラが判断します。
⚡A👁	自動発光＋赤目軽減	自動発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
⚡	手動発光	ストロボの発光を手動で行います。ストロボをポップアップすると発光し、収納すると発光しません。
⚡👁	手動発光＋赤目軽減	ストロボの発光を手動で行います。発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW ⚡	スローシンクロ	明るさによって、遅いシャッター速度に設定されます。夕景などを背景に人物撮影をするときに利用すると、人物も背景もきれいに写すことができます。
SLOW 👁⚡	スローシンクロ＋赤目軽減	スローシンクロで発光する前に、赤目軽減のための予備発光をします。
SLOW ▶▶⚡ ▶▶⚡	後幕シンクロ	シャッターが閉じる直前に発光します。乗り物など動く被写体の光跡を、後ろに流れるように写し込むことができます。（p.217）

撮影モードによって、選択できるストロボモードが異なります。

撮影モード	選択できるストロボモード
AUTO／SCN	⚡A／⚡A◉／⚡／⚡◉
P／Av	⚡／⚡◉／SLOW⚡／SLOW◉⚡／SLOW▶▶⚡
Tv／M／B	⚡／⚡◉／▶▶⚡

以下の撮影モードではストロボは発光しません。

- HDR／⊛／🎥モード
- AUTOモードの（夕景）／（青空）
- SCNモードの（夕景）／（青空）／（夜景）／（夜景HDR）／（逆光シルエット）／（キャンドルライト）／（ステージライト）／（美術館）

1 撮影待機状態で十字キー（◀）を押す

ストロボモードを設定する画面が表示されます。
設定している撮影モードで選択できるストロボモードが表示されます。

2 十字キー（◀▶）でストロボモードを選択してOKボタンを押す

撮影できる状態になります。

ストロボの充電中は、赤の⚡が点滅表示します。

ストロボ光量を補正する

ストロボの光量を–2.0～+1.0の範囲で変えることができます。「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」（p.72）の設定によって、光量補正値は以下のように設定できます。

露出設定ステップ	設定できる光量補正値
1/3 EV	–2.0／–1.7／–1.3／–1.0／–0.7／–0.3／0.0／+0.3／+0.7／+1.0
1/2 EV	–2.0／–1.5／–1.0／–0.5／0.0／+0.5／+1.0

1 p.60の手順2の画面で十字キー（▼）を押す

2 電子ダイヤルを回す

光量補正値が設定されます。

⦿（緑）ボタンを押すと0.0にリセットされます。

- +側に補正しても、ストロボの最大発光量以上になると効果はありません。
- 被写体に近すぎる場合、絞り値が小さい場合、ISO感度を高く設定している場合などは、–側に補正をしても効果がないことがあります。
- ストロボ光量補正は、P-TTL対応の外付けストロボでも有効です。

自動発光で撮影する

手ぶれしやすいシャッター速度のときや逆光時など、ストロボの発光が必要な場合は自動的にポップアップします。ポップアップしていても、発光が不要な場合は発光しません。

メモ モードダイヤルがAUTO／SCN（🌅／🗺／🌃／HDR／⊗／✳／Ⓘ／🏛以外）になっているときだけ選択できます。

1 ストロボモードを⚡A／⚡A◉に設定する

2 シャッターボタンを半押しする

判定結果によって、ストロボモードのアイコンが変わります。

⚡／⚡◉になったときは、内蔵ストロボがポップアップしてストロボの充電が始まります。発光が不要な場合は、ストロボモードのアイコンが消えます。

3 シャッターボタンを全押しする

撮影されます。

4 内蔵ストロボを押し下げて収納する

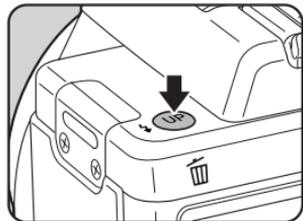
メモ 内蔵ストロボがポップアップした状態で⚡UP/🗑ボタンを押すと、自動発光／手動発光が切り替わります。

手動発光で撮影する

ストロボを常に発光させます。

1 ストロボモードを⚡／⚡◎に設定する

2 ⚡UP/🗑ボタンを押す

内蔵ストロボがポップアップし、ストロボの充電が始まります。
ストロボを発光させたくないときは、内蔵ストロボを収納しておきます。

3 シャッターボタンを全押しする

ストロボが発光し、撮影されます。

4 内蔵ストロボを押し下げて収納する

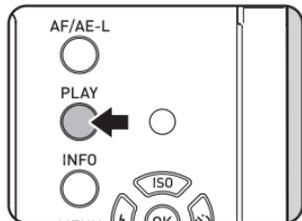
- モードダイヤルが⊛（ストロボオフ）になっているときは、**⚡UP**/🗑ボタンを押しても内蔵ストロボはポップアップしません。
- 内蔵ストロボの充電中は撮影ができません。充電中にも撮影をしたい場合は、「**C**カスタム2」メニューの「12. 充電中のレリーズ」（p.72）を「オン」に設定します。

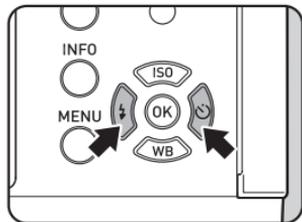
画像を確認する

撮影した画像を再生する

撮影した画像をカメラで確認します。

1 PLAYボタンを押す

再生モードの1画像表示になり、最後に撮影した画像(ファイルNo.が一番大きい画像）が画像モニターに表示されます。

2 十字キー（◀▶）を押す

◀：前の画像を表示
▶：次の画像を表示

- 再生機能の詳細は、「いろいろな再生と画像編集」(p.153）を参照してください。
- JPEG形式で撮影した直前の画像のRAW画像が撮影バッファに残っている場合は、クイックビューまたは再生時に⊠/Avボタンを押してRAW画像を追加保存することができます（「◘撮影3」メニューの「クイックビュー」の「RAW追加保存」を☑（オン）に設定している場合（p.191)）。
以下の機能を設定して撮影した場合は、それぞれ次の画像が保存されます。
  - 多重露出　　多重露出されたRAW画像
  - インターバル撮影　　最後に撮影した画像のRAW画像

  連続撮影／露出ブラケット／HDR撮影／デジタルフィルターでは、RAW画像の追加保存はできません。

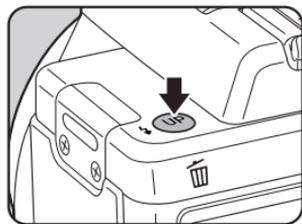
画像を消去する

画像を1つずつ消去します。

- 消去した画像は復元できません。
- プロテクトされている画像は消去できません。（p.200）

1 PLAY ボタンを押し、十字キー（◀▶）で消去したい画像を表示する

2 ϟUP/🗑ボタンを押す

消去画面が表示されます。

3 十字キー（▲）で「消去」を選ぶ

4 OK ボタンを押す

画像が消去されます。

- 複数の画像をまとめて消去することもできます。「複数画像を消去する」（p.163）を参照してください。
- 「記録形式」（p.127）がRAW+の画像の場合は、手順3で消去する記録形式が選択できます。

4 いろいろな撮影

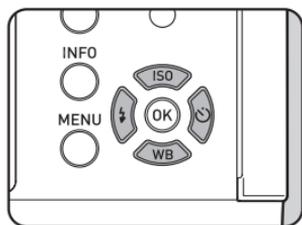
この章では、撮影の基本から応用まで、本機でできるさまざまな撮影方法を説明しています。

撮影関連機能の操作

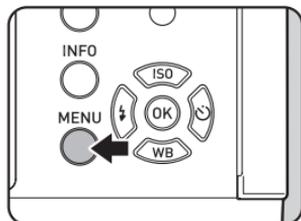
撮影に関する機能は、ダイレクトキー／コントロールパネル／「撮影」メニュー／「動画」メニュー／「Cカスタム」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.33) を参照してください。

ダイレクトキーの設定項目

撮影待機状態で十字キー（▲▼◀▶）を押すと、以下の項目が設定できます。

キー	項目	機能	参照
▲	ISO感度	ISO感度を設定します。	p.79
▼	ホワイトバランス	被写体の色を光源に合った適正な色に補正します。	p.130
◀	ストロボモード	ストロボの発光方式を設定します。	p.59
▶	ドライブモード	連続撮影／セルフタイマー／リモコン／露出ブラケットを選択します。	p.106 p.102 p.104 p.85

撮影メニューの設定項目

「撮影1～3」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影待機状態で**MENU**ボタンを押すと、「撮影1」メニューが表示されます。

メニュー	項目		機能	参照
1	カスタムイメージ [*1][*2]		色味やコントラストなどの画像の仕上がり具合を設定します。	p.140
	デジタルフィルター [*1]		フィルター効果をかけて撮影します。	p.144
	HDR撮影 [*1]		ハイダイナミックレンジ撮影を行います。	p.135
	記録設定	アスペクト比 [*1]	画像の横：縦の比率を設定します。	p.126
		記録形式 [*1]	ファイルフォーマットを設定します。	
		JPEG記録サイズ [*1]	JPEGで記録した場合の記録サイズを設定します。	
		JPEG画質 [*1]	JPEGで記録した場合の画質を設定します。	
		色空間	使用する色空間を設定します。	
	測光方式 [*1]		センサーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。	p.88
	AF／MF設定	AF方式 [*1]	**AF**モードでのオートフォーカスの方法を選択します。	p.93
		AF時の自動拡大	フォーカスロック後に測距点を中心に自動で拡大表示します。	p.95
		AF補助投光	暗い場所でオートフォーカスするときに、AF補助投光を行うかどうかを設定します。	p.92
		フォーカスアシスト	ピントが合った部分の輪郭を強調します。	p.98
	レンズ補正 [*1]		レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を軽減します。	p.138

メニュー	項目	機能	参照
2	多重露出	任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。	p.111
	インターバル撮影	指定した時刻から等間隔で自動撮影します。	p.108
	D-Range設定 *1	ダイナミックレンジを拡大し、白とび・黒つぶれを防ぎます。	p.133 p.134
	高感度NR	高感度撮影時のノイズリダクションを設定します。	p.89
	長秒時NR	低速シャッター時のノイズリダクションを設定します。	p.91
	Shake Reduction *1	手ぶれ補正機能を設定します。	p.100
	焦点距離入力	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合に、レンズ焦点距離を設定します。	p.234
3	ライブビュー	ライブビューの表示を設定します。	p.190
	クイックビュー	クイックビューの表示を設定します。	p.191
	ボタンカスタマイズ	⦿（緑／赤）ボタン／**AF**/**AE-L**ボタンの機能を割り当てます。	p.147
	モードメモリ	電源を切ったときに設定を保存しておく項目を選択します。	p.195
	GPS	別売のGPSユニットを装着したときの動作を設定します。	p.244

*1 コントロールパネルで設定することもできます。
*2 モードダイヤルがSCNになっているときは、「SCNモード」が表示されます。

動画メニューの設定項目

「🎥動画1」メニューでは、以下の設定を行います。
モードダイヤルが🎥のときに**MENU**ボタンを押すと、「🎥動画1」メニューが表示されます。

メニュー	項目		機能	参照
🎥1	露出設定 *1		動画の露出モードを**P**／**Av**／**M**から選択します。	p.113
	記録設定	記録サイズ *1	動画の記録サイズを設定します。	
		フレームレート *1	1秒あたりのコマ数を設定します。	
		画質 *1	動画の画質を設定します。	
	録音レベル *1		マイクの感度を設定します。	
	Movie SR *1		手ぶれ補正機能を設定します。	
	インターバル動画		指定した時刻から一定間隔で静止画を撮影し、1つの動画ファイルとして記録します。	p.119

*1 コントロールパネルで設定することもできます。

カスタムメニューの設定項目

「C カスタム1～3」メニューでは、本機の機能を生かして撮影するための設定を行います。

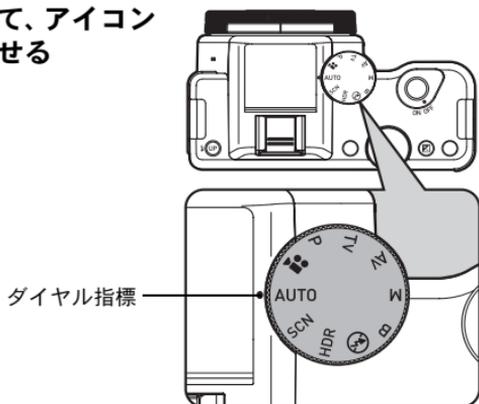
メニュー	項目	機能	参照
C1	1. 露出設定ステップ	露出設定の調整ステップを設定します。	p.84
	2. ISO感度ステップ	ISO 感度の調整ステップを設定します。	p.80
	3. 拡張感度	ISO 感度の下限と上限を拡張します。	p.80
	4. AFロック時のAE-L	フォーカスロック時に露出値も固定するかどうかを設定します。	p.87
	5. 測距点と露出の関連付	測光方式が（分割）のときに露出値とAF 領域内の測距点を関連付けるかどうかを設定します。	p.88
	6. ブラケット撮影順	露出ブラケット撮影時の撮影順を設定します。	p.85
	7. B時の撮影方法	**B** モードのシャッターボタンの動作を設定します。	p.83
C2	8. ストロボ発光時のWB	ストロボ発光時のホワイトバランスの設定を行います。	p.131
	9. 白熱灯下のAWB	ホワイトバランスが **AWB** のときに、白熱灯の色味を残すか補正するかを設定します。	—
	10. AFの動作	**AF** モードでシャッターボタンを全押ししたときの優先動作を設定します。	p.93
	11. リモコン時のAF	リモコン撮影するときに、オートフォーカスするかどうかを設定します。	p.105
	12. 充電中のレリーズ	内蔵ストロボの充電中に撮影可能にするかどうかを設定します。	p.63
	13. 回転情報の記録	撮影時に回転情報を記録するかどうかを設定します。	p.156
	14. メニュー選択の記憶	直前に操作したメニューを記憶し、次に **MENU** ボタンを押したときも同じ画面を表示するかどうかを設定します。	p.193

メニュー	項目	機能	参照
C3	15. Shake Reductionの動作	撮影待機中も手ぶれ補正するかどうかを設定します。	p.101
	16. 絞りリングの使用	レンズの絞りリングが **A** 位置以外のときに撮影可能にするかどうかを設定します。	p.235
	カスタムのリセット	「**C** カスタム1～3」メニューの各項目の設定内容を初期状態に戻します。	p.197

撮影モードを選ぶ

本機には多彩な撮影モードがあります。用途に合わせて、撮影モードを選択してください。
本書では撮影モードを以下のように呼びます。

撮影モード	特徴	参照
AUTO（オートピクチャー）モード	カメラが自動的に最適な撮影モードを選択します。	p.75
SCN（シーン）モード	さまざまな撮影シーンから撮影モードを選択します。	p.76
HDRモード	3枚の画像を合成して幅広い階調を表現します。	p.137
⓼（ストロボオフ）モード	ストロボを発光禁止にします。	—
露出モード（**P**／**Tv**／**Av**／**M**／**B**）	シャッター速度と絞り値を設定して撮影します。	p.78
（動画）モード	動画を撮影します。	p.116

1 モードダイヤルを回して、アイコンをダイヤル指標に合わせる

画像モニターに選択した撮影モードが表示されます（ガイド表示）。

- ガイド表示を表示したくない場合は、「詳細設定 1」メニューの「画面表示」で変更できます。（p.192）
- モードダイヤルをSCNに合わせたときは、シーンモードを選択する画面が表示されます。（p.77）

オートピクチャーモード

AUTO（オートピクチャー）モードでは、カメラが以下の撮影モードの中から最適なモードを自動的に選択します。

モード	特徴
標準	以下のモードに該当しない場合に選択されます。
人物	人物の撮影時に選択されます。肌の色が健康的に仕上がります。
風景	風景の撮影時に選択されます。木々の緑の彩度が強調され、鮮やかな色の画像に仕上がります。
マクロ	被写体に近づいた撮影で選択されます。花などが鮮やかに撮影されます。
動体	スポーツなど動きのある被写体に適しています。
夜景人物	夕暮れや夜景を背景とした人物の撮影時に選択されます。ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ（p.216））。「Shake Reduction」（p.100）を（オン）に設定するか、三脚などを使用して手ぶれを起こさないように注意してください。
夕景	夕焼けや朝焼けの撮影時に選択されます。
青空	青空の撮影時に選択されます。青空が深い青で印象的に表現されます。
フォレスト	木漏れ日や木々の緑を鮮やかに表現します。

シーンモード

SCN（シーン）モードでは、次の撮影シーンから選択して撮影ができます。

モード	特徴
人物	人物の撮影に適しています。肌の色を健康的に仕上げます。
風景	木々の緑の彩度を強調して鮮やかな色に仕上げます。
マクロ	近くにある花などを鮮やかに撮影できます。
動体	スポーツなど動きのある被写体に適しています。 ドライブモードは（連続撮影（Hi））固定です。
夜景人物	夕暮れや夜景を背景とした人物撮影に適しています。ストロボを使用しても、ストロボの光が届かない背景を写し込むためにシャッター速度が遅くなります（スローシンクロ（p.216））。「Shake Reduction」（p.100）を（オン）に設定するか、三脚などを使用して手ぶれを起こさないように注意してください。
夕景	夕焼けや朝焼けの写真を美しく仕上げます。
青空	青空を深い青で印象的に表現します。
フォレスト	木漏れ日や木々の緑を鮮やかに表現します。
夜景	夜景撮影に最適です。三脚などで固定して撮影してください。
夜景HDR	暗いところでスナップ写真を撮影するときに、標準／-3 EV／+3 EVの画像を合成してノイズを抑えて仕上げます。 記録形式はJPEG固定です。
ナイトスナップ	暗いところでスナップ写真を撮影するのに適しています。
料理	料理の撮影に適しています。彩度をやや高めにし、色鮮やかに仕上げます。
ペット	動き回るペットを撮影するのに適しています。 ドライブモードは（連続撮影（Hi））固定です。
キッズ	動きの多い子供を撮影するのに適しています。肌の色を健康的に仕上げます。 ドライブモードは（連続撮影（Hi））固定です。
サーフ＆スノー	砂浜や雪山など背景の明るい場所での写真をきれいに仕上げます。
逆光シルエット	逆光時に被写体がシルエットになるように仕上げます。
キャンドルライト	キャンドルライトの雰囲気を生かして撮影します。

モード	特徴
ステージライト	暗いところで動きのある被写体を撮影するのに適しています。
美術館	美術館などストロボを発光させたくない場所での撮影に適しています。

注意

／／／／／／／では、ストロボは発光しません。「Shake Reduction」（p.100）を（オン）に設定するか、三脚などを使用して手ぶれを起こさないように注意してください。

撮影シーンを選ぶ

1 モードダイヤルをSCNに合わせる

SCNモードになり、シーンモードを選択する画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）または電子ダイヤルでシーンを選択し、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

- シーンモードを変更するときは**INFO**ボタンを押し、コントロールパネルで「シーンモード」を選択します。
- モードダイヤルを SCN に合わせて **MENU** ボタンを押すと、「撮影1」メニューに「シーンモード」が表示されます。十字キー（▶）を押すと、手順2と同じ画面が表示され、シーンが選択できます。

露出モード

シャッター速度と絞り値を任意に変更して撮影します。

モード		特徴	参照
P	プログラム自動露出	プログラムラインに従ってシャッター速度と絞り値が自動的に設定され、適正露出で撮影できます。	p.81
Tv	シャッター優先自動露出	シャッター速度を任意の値に設定して、被写体の動きを表現したいときに使用します。	
Av	絞り優先自動露出	絞り値を任意の値に設定して撮影します。	
M	マニュアル露出	任意に設定したシャッター速度と絞り値を組み合わせて、より撮影意図に合った画作りをしたいときに使用します。	
B	バルブ露出	長時間シャッターを開いたままで花火や夜景などを撮影したいときに使用します。	p.83

露出を設定する

ISO感度を設定する

撮影する場所の明るさに応じて、ISO感度を設定します。
ISO感度は、「ISO AUTO（自動調整）」か、ISO 100～12800相当の間で設定できます。初期設定は「ISO AUTO」です。

1 撮影待機状態で十字キー（▲）を押す

ISO感度を設定する画面が表示されます。

2 十字キー(▲▼)でISO AUTO／ISOを選択する

ISO AUTO	自動調整する範囲を設定
ISO	固定値を設定

3 電子ダイヤルでISO感度を変更する

4 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

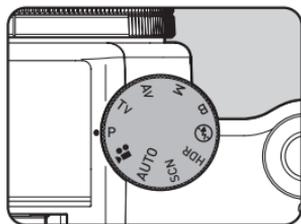
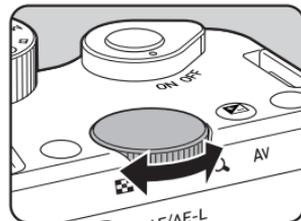
- SCNモードの（夜景HDR）／（ナイトスナップ）／（ステージライト）を選択しているときは、「ISO AUTO（上限ISO 6400）」固定です。
- **B**モードのときは、「ISO AUTO」は表示されません。また、「ISO AUTO」の設定でモードダイヤルを**B**にした場合は、最後に設定した固定値に設定されます。
- ISO感度を高感度に設定するほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「撮影2」メニューの「高感度NR」（p.70）でノイズ軽減について設定できます。
- ISO感度の設定ステップを1 EVにするか、露出設定ステップ（p.84）に合わせるかを「**C**カスタム1」メニューの「2. ISO感度ステップ」（p.72）で設定できます。
- 「**C**カスタム1」メニューの「3. 拡張感度」（p.72）を「オン」に設定すると、ISO感度の範囲がISO 100～25600まで拡張されます。

露出モードを切り替える

本機には、以下の露出モードがあります。
各露出モードで設定できる項目は以下のとおりです。

露出モード	シャッター速度変更	絞り値変更	ISO感度変更	露出補正
P プログラム自動露出	△*1	△*1	○	○
Tv シャッター優先自動露出	○	×	○	○
Av 絞り優先自動露出	×	○	○	○
M マニュアル露出	○	○	○*2	×
B バルブ露出	×	○	ISO AUTO 不可	×

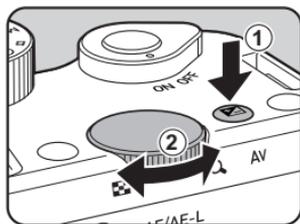
*1「撮影3」メニューの「ボタンカスタマイズ」で、電子ダイヤルでシャッター速度または絞り値が変更できるように設定できます。（p.150）
*2 ISO感度を「ISO AUTO」に設定すると、**TAv**（シャッター＆絞り優先自動露出）モードとして動作し、設定したシャッター速度と絞り値で適正露出になるように、ISO感度が自動的に設定されます。ISO感度を固定値で設定すると、設定したISO感度で撮影されます。

1 モードダイヤルをP／Tv／Av／M／Bに合わせる

2 電子ダイヤルを回して設定を変更する

画像モニターには、変更できる数値の前に▶が表示されます。

選択した露出モードによって、以下の設定が調整できます。

P	「撮影3」メニューの「ボタンカスタマイズ」で設定した項目（p.150）
Tv／M／TAv	シャッター速度
Av／B	絞り値

3 M／TAvモードの場合は、/Avボタン（①）を押してから電子ダイヤル（②）を回して絞り値を変更する

P／Tv／Avモードでは、この操作で露出補正ができます。（p.84）

- ISO感度を固定値で設定する（p.79）と、設定したシャッター速度／絞り値で適正露出が得られない場合があります。
- Mモードでは、シャッター速度／絞り値調整中に適正露出との差がバーグラフで表示されます。適正露出との差が±3.0 以上になると、数字が赤で点滅表示されます。
- M／TAvモードのときの⦿（緑）ボタンの機能を、「撮影3」メニューの「ボタンカスタマイズ」で設定できます。（p.151）

バルブ撮影を利用する

花火や夜景などの撮影で、長時間露光したいときに利用します。

1 モードダイヤルをBに合わせる

2 シャッターボタンを押す

シャッターボタンを押している間、シャッターが開きます。

3 シャッターボタンから指を放す

露光が終了します。

- **B**モードでは、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影
  - 露出補正
  - インターバル撮影
  - Shake Reduction
  - 露出ブラケット
  - AEロック
  - HDR撮影

- **B**モードでのシャッターボタンの動作については、「**C**カスタム1」メニューの「7. B時の撮影方法」（p.72）で設定します。

1	Mode1	シャッターボタンを押している間に露光します。（初期設定）
2	Mode2	シャッターボタンを押すと露光を開始し、もう一度押すと終了します。

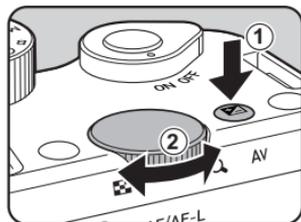
- シャッター速度を遅くするほど、撮影画像にノイズが発生しやすくなります。「撮影2」メニューの「長秒時NR」でノイズ軽減について設定できます。（p.91）
- バルブ撮影を行うときは、ぶれ防止のため三脚を使用してください。
- バルブ撮影ではバッテリーを消費しますので、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）のご使用をお勧めします。（p.42）

露出を補正する

意図的に露出オーバー（明るい画像）や露出アンダー（暗い画像）で撮影することができます。
補正値は-3～+3 EV（動画モードは-2～+2 EV）の範囲で設定できます。「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」（p.72）の設定によって、設定できる値が異なります。

露出設定ステップ	露出補正値
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0

1 露出補正/Avボタン（①）を押してから電子ダイヤル（②）を回す

露出が補正されます。

補正中は画像モニターに露出バーと補正値が表示されます。

露出バー

ボタン・ダイヤル等の操作

露出補正/Avボタン	設定の開始／終了
◉（緑）ボタン	補正値をリセット

- **M**／**B**モードのときは、露出補正はできません。
- 電源を切ったり、他の撮影モードにしても露出補正は解除されません。

露出を自動的に変化させて撮影する（露出ブラケット）

シャッターボタンを押したときに、露出が異なる画像を連続して3枚撮影できます。1回のレリーズで3枚の画像が保存されます。

標準露出

アンダー露出

オーバー露出

撮影される順番は「**C** カスタム1」メニューの「6. ブラケット撮影順」（p.72）で設定します。

1	0－＋	標準 → アンダー → オーバー（初期設定）
2	－0＋	アンダー → 標準 → オーバー
3	＋0－	オーバー → 標準 → アンダー
4	0＋－	標準 → オーバー → アンダー

以下のときは、露出ブラケット撮影はできません。

- **B**／**HDR** モード、または **SCN** モードの（動体）／（夜景HDR）／（ペット）／（キッズ）を選択しているとき
- インターバル撮影／多重露出／HDR撮影を設定しているとき

1 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で を選ぶ

3 十字キー（▼）を押してから電子ダイヤルを回し、ブラケット幅を設定する

「**C**カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」(p.72) の設定によって、設定できる値が異なります。

露出設定ステップ	ブラケット幅
1/3 EV	±0.3／±0.7／±1.0／±1.3／±1.7／±2.0／±2.3／±2.7／±3.0
1/2 EV	±0.5／±1.0／±1.5／±2.0／±2.5／±3.0

ボタン・ダイヤル等の操作

露出補正/**Av**ボタン→電子ダイヤル	露出補正（オーバー方向またはアンダー方向で露出ブラケット撮影を行う場合）
⦿（緑）ボタン	補正値をリセット

4 OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

- フォーカスは、1枚目のピント位置に固定されます。
- 露出ブラケットを解除するときは、ドライブモードの設定画面で□（1コマ撮影）を選択します。「撮影3」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」を□（オフ）に設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。(p.195)
- 内蔵ストロボ、または外付けストロボ（P-TTLオートの場合のみ）と露出ブラケット撮影を併用することで、ストロボ光量だけを連続的に変化させて撮影することができます。(p.221)

露出を記憶する（AEロック）

AEロックは、撮影前の露出（明るさ）を記憶する機能です。撮りたいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときや、逆光撮影のときなどに利用してください。

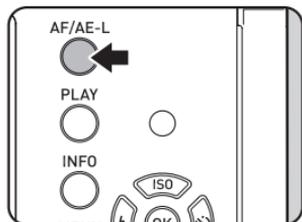
1 AF/AE-Lボタンに「AEロック」を割り当てる

「**AF**/**AE-L**ボタンの動作を設定する」（p.152）を参照してください。

2 露出を設定し、AF/AE-Lボタンを押す

その時点の露出をカメラが記憶します。

AEロック中は、画像モニターに✱が表示されます。

もう一度**AF**/**AE-L**ボタンを押すと解除されます。

- AEロック時と解除時は電子音が鳴ります。電子音を鳴らないように設定することもできます。（p.186）
- **B**モードのときは、AEロックは利用できません。
- フォーカスロック時にAEロックさせたい場合は、「**C**カスタム1」メニューの「4. AFロック時のAE-L」（p.72）を「オン」に設定します。
- **M**モードのときは、AEロックした状態でシャッター速度／絞り値を変更すると、露出値を保持したままシャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。たとえばシャッター速度1/125秒・絞り値F 4でAEロックし、シャッター速度を1/30秒に変更した場合、絞り値はF 8に変化します。
- 焦点距離によって開放F値が変化するズームレンズでは、AEロック中でもズームを動かすことで、シャッター速度と絞り値の組み合わせが変化します。ただし露光量は変わらないので、AEロックした時点の明るさで撮影されます。

測光方式を選択する

センサーのどの部分で明るさを測り、露出を決めるのかを設定します。

分割	センサーを分割して明るさを測定します。（初期設定） 逆光などで人物が暗くなるときでも、どの部分にどんな明るさのものがあるかを自動的に判断し、補正します。
中央重点	センサー中央部分に重点を置いて測光します。 中央部分ほど感度が高く、逆光の場合でも自動補正は行われません。
スポット	センサー中央の限られた範囲の明るさだけを測光します。 撮影したいものが小さくて適正な露出を得るのが難しいときは、AEロック機能（p.87）と組み合わせて利用すると便利です。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「測光方式」を選択し、OKボタンを押す

「測光方式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で測光方式を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「撮影1」メニューで設定します。
- 「Cカスタム1」メニューの「5. 測距点と露出の関連付」（p.72）で、分割のときに露出値とAF領域内の測距点（ピントを合わせた位置）を関連付けることができます。

1	オフ	測距点に関係なく分割測光の露出が決定します。（初期設定）
2	オン	測距点によって分割測光の露出を調整します。

ノイズを減らす（ノイズリダクション）

デジタルカメラは、次のときに画像にノイズ（画像のざらつきやムラ）が目立つようになります。

- ISO感度を高く設定しているとき
- 長時間露光のとき
- CMOSセンサーが高温になっているとき

ノイズリダクションを設定すると、ノイズを低減させることができます。

注意 ノイズリダクション処理中は、次の撮影はできません。特に、長秒時NRは処理に時間がかかる場合があるので注意してください。

高感度NR

ISO高感度時のノイズリダクション処理を設定します。

1 「撮影2」メニューの「高感度NR」を選び、十字キー（▶）を押す

「高感度NR」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押してから十字キー（▲▼）で設定を選択する

オート	ISO感度の設定に応じて最適なノイズリダクションを行います。（初期設定）
弱／中／強	ISO感度の設定に関係なく、一定のノイズリダクションを行います。
カスタム	ISO感度別にノイズリダクション処理を設定できます。
オフ	ノイズリダクションを行いません。

3 OKボタンを押す

オート／オフ／弱／中／強を選んだ場合は、手順7に進みます。

4 十字キー（▲▼）で「設定」を選び、十字キー（▶）を押す

ISO感度別に設定する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でISO感度を選び、十字キー（◀▶）で強度を選択する

表示されるISO感度は、「**C** カスタム1」メニューの「1. 露出設定ステップ」「2. ISO感度ステップ」（p.72）の設定によって異なります。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	高感度NR 1／高感度NR 2画面切り替え
⦿（緑）ボタン	設定をリセット

6 MENUボタンを押す

手順2の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

長秒時NR

長時間露光したときのノイズリダクション処理を設定します。

1 「▲撮影2」メニューの「長秒時NR」を選び、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）でオート／オン／オフを選択し、OKボタンを押す

オート	シャッター速度・ISO感度・カメラ内部温度等を判断して、自動的にノイズリダクションを行います。（初期設定）
オン	シャッター速度が1秒を超えた場合にノイズリダクションを行います。
オフ	ノイズリダクションを行いません。

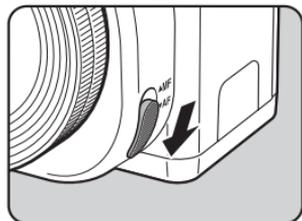
3 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

ピントを合わせる

フォーカスモードを設定する

AF オートフォーカス	シャッターボタンを半押しすると自動的にピントを合わせます。
MF マニュアルフォーカス	マニュアルでピントを合わせます。

1 フォーカスモードレバーで AF ／ MFを切り替える

AFモードの撮影方法は、「カメラまかせで撮影する」（p.56）を参照してください。

MFモードの撮影方法は、「マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）」（p.98）を参照してください。

AFモードでは、被写体が暗い場合にシャッターボタンを半押しすると、AF補助光が発光します。補助光を発光させたくない場合は、「撮影1」メニューの「AF／MF設定」の「AF補助投光」（p.69）を□（オフ）に設定します。

オートフォーカスの方法を設定する

AFモードでのオートフォーカスの方法を以下から選択できます。

	顔検出	人物の顔を検出し、追尾します。（初期設定）AF・AEの対象となるメインの顔検出枠は黄色で表示されます。
	追尾	シャッター半押しでピントが合った被写体を追尾します。
	セレクト	任意の領域にピントを合わせます。 センサーを100分割（横10×縦10）し、AF領域を任意の範囲に設定します。AF領域の大きさは、100分割中の4／16／36個のサイズが選択できます。（p.94）
	スポット	中央の限られた範囲にピントを合わせます。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「AF方式」を選択し、OKボタンを押す

「AF方式」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でAF方式を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「撮影1」メニューの「AF／MF設定」の「AF方式」（p.69）で設定します。
- AUTOモード、またはSCNモードの（人物）／（夜景人物）／（キッズ）を選択しているときは、固定です。
- ピントが合っていなくても撮影したいときは、「C カスタム2」メニューの「10. AFの動作」（p.72）で「レリーズ優先」に設定します。

任意の範囲にピントを合わせる

オートフォーカスする範囲（AF領域）を任意の領域に設定します。

1 p.93の手順3で を選択し、OKボタンを押す

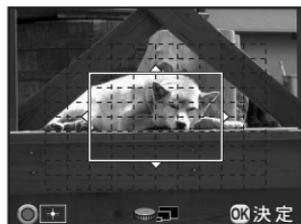
コントロールパネルに戻ります。

2 MENUボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

撮影できる状態になります。

3 OKボタンを押す

設定できる範囲が破線で表示され、AF領域が変更できる状態になります。

4 AF領域を指定する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	AF領域を移動
電子ダイヤル	AF領域の大きさを変更
⦿（緑）ボタン	AF領域を中央に戻す

5 OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

AF領域が確定します。

設定したAF領域は、AF方式を変更したり、電源を切っても記憶されています。

ピントを確認する

フォーカスロックした位置（測距点）を中心に拡大表示して確認することができます。

1 画像モニターで被写体を確認し、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

2 シャッターボタンを半押ししたまま OK ボタンを押す

シャッターボタンを半押ししている間、測距点を中心に拡大表示されます。

3 電子ダイヤルで拡大倍率を変更する

2～6倍に拡大できます。

4 OK ボタンを押すか、シャッターボタン半押しを解除する

撮影待機画面に戻ります。

- 「撮影1」メニューの「AF／MF設定」の「AF時の自動拡大」を☑（オン）に設定しているときは、フォーカスロックから1秒経過すると自動的に拡大表示になります。
- **MF** モードのときは、**OK** ボタンを押すだけで拡大表示ができます。（p.98）

「AF方式」を（追尾）に設定しているときは、拡大表示はできません。

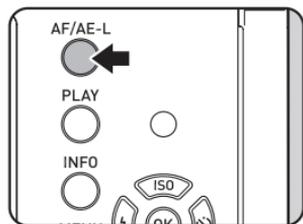
AF/AE-Lボタンでピントを合わせる

シャッターボタン半押しの代わりに **AF**/**AE-L** ボタンを押して合焦動作を行うことができます。

1 AF/AE-LボタンにAF作動1／AF作動2を割り当てる

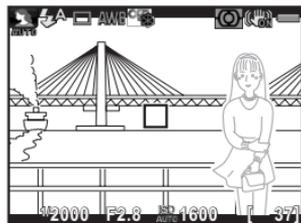
「**AF**/**AE-L** ボタンの動作を設定する」(p.152) を参照してください。初期設定ではシャッターボタン半押し、**AF**/**AE-L** ボタンのどちらでもオートフォーカスができるように設定されています。

2 画像モニターで被写体を確認し、AF/AE-Lボタンを押す

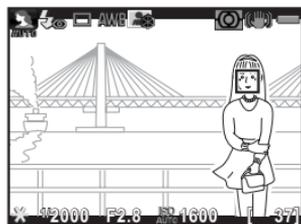
合焦動作が行われます。

ピントを固定する（フォーカスロック）

AFモードでピントが合ったときに、シャッターボタン半押しを保持するとフォーカスロックされ、構図の調整ができます（AF方式▪を除く）。ここでは、AF方式を▪に設定したときのフォーカスロックを使った撮影例を説明します。

1　フォーカスモードをAF、AF方式を▪に設定する

2　撮りたい画像の構図を画像モニターで確認する

3　ピントを合わせたい被写体を画像モニターの中心にして、シャッターボタンを半押しする

ピントが合うとAF枠が緑になります。AF枠が緑になっている間は、フォーカスロックされます。

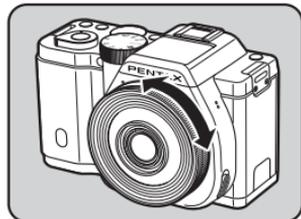
4　シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい画像の構図に戻す

メモ　フォーカスロックの状態で、ズームリングを回すとピントがずれることがあります。

マニュアルでピントを調整する（マニュアルフォーカス）

マニュアルでピントを調整します。

1 フォーカスモードをMFに設定する

2 画像モニターを見ながらレンズのピントリングを回す

ピントが合っていなくても、シャッターボタンを全押しすると撮影できます。

3 ピントが確認しづらいときは、OKボタンを押す

画面が拡大表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	表示範囲を移動
⦿（緑）ボタン	中央を表示

4 OKボタンを押すか、シャッターボタンを半押しする

撮影待機画面に戻ります。

「📷撮影1」メニューの「AF／MF設定」の「フォーカスアシスト」をオンに設定すると、ピントが合った部分の輪郭が強調され、確認しやすくなります。また、⦿（緑／赤）ボタンに「フォーカスアシスト」を割り当てている場合は、⦿（緑／赤）ボタンでフォーカスアシスト機能のオン／オフができます。（p.147）

被写界深度を確認する（プレビュー）

設定した絞り値まで絞って被写界深度を確認します。

1 ⦿（緑／赤）ボタンに「プレビュー」を割り当てる

どちらかのボタンに割り当てます。
「⦿ボタンの動作を設定する」（p.147）を参照してください。

2 画像モニターで被写体を確認し、シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

3 ⦿（緑／赤）ボタンを押す

手順1で「プレビュー」を割り当てたボタンを押します。
ボタンを押している間、被写界深度が確認できます。

4 ⦿（緑／赤）ボタンから指を放す

プレビューが終了し、撮影待機画面に戻ります。

手ぶれを防いで撮影する

手ぶれ補正機能を使って撮影する

手ぶれ補正機能（Shake Reduction）とは、シャッターボタンを押す瞬間に起こりやすい手ぶれを補正しながら撮影できる機能です。手ぶれしやすいシーンでの撮影に効果的です。
手ぶれ補正機能は、次のようなシーンでの撮影に適しています。

- 室内、夕方、曇り、日陰など薄暗い環境で撮影するとき
- 望遠で撮影するとき

注意

- 手ぶれ補正機能は、被写体が動くことによるぶれには効果がありません。動いている被写体を撮影するときには、シャッター速度を速くして撮影してください。
- 近距離での撮影では、手ぶれ補正しきれないことがありますので、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用することをお勧めします。
- 流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件では、手ぶれ補正の効果が十分に現れないことがあります。その場合は、手ぶれ補正機能をオフにして三脚などを利用して撮影することをお勧めします。
- 本機に装着できる当社製レンズであれば、手ぶれ補正機能が使用できます。ただし、焦点距離が自動取得できないレンズを使用している場合は、焦点距離を設定する必要があります。「各種レンズを組み合わせたときの機能」（p.232）を参照してください。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「Shake Reduction」を選択し、OKボタンを押す

「Shake Reduction」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で(ON)／(OFF)を選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

(ON) オン	手ぶれ補正を行います（初期設定）
(OFF) オフ	手ぶれ補正を行いません。

4 シャッターボタンを半押しする

画像モニターに(手ぶれ補正アイコン)が表示され、手ぶれ補正機能が有効になります。

三脚を使用する場合は、(OFF)（オフ）に設定してください。

メモ
- メニューから設定するときは、「撮影2」メニュー（p.70）で設定します。
- 以下のときは、(OFF)（オフ）固定です。
  - セルフタイマー撮影
  - リモコン撮影
  - **B**モードのとき
  - HDR撮影が設定されていて、「自動位置調整」が□（オフ）の場合
- SCNモードの(HDR)（夜景HDR）を選択しているときは、(ON)（オン）固定です。
- 撮影時だけ手ぶれ補正するか、撮影待機中も手ぶれ補正するかを「**C**カスタム3」メニューの「15. Shake Reductionの動作」（p.73）で設定できます。
- 電源を入れた直後やオートパワーオフからの復帰直後（約2秒間）は、手ぶれ補正機能が安定していません。手ぶれ補正機能の安定を待ってから撮影してください。

セルフタイマーで撮影する

セルフタイマー（12秒）	約12秒後にシャッターがきれます。撮影者も入って記念撮影などをするときに使います。
セルフタイマー（2秒）	シャッターボタンを押してから約2秒後にシャッターがきれます。シャッターボタンを押すことで生じるカメラぶれを防いで撮影するときに使います。

SCNモードの（動体）／（ペット）／（キッズ）を選択しているときは、セルフタイマー撮影はできません。

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でを選ぶ

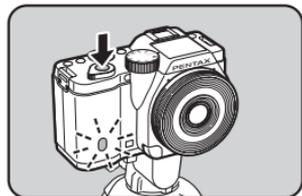
4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／を選択してOKボタンを押す

撮影できる状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

6 シャッターボタンを全押しする

⏱の場合、カメラ正面のセルフタイマーランプが点滅し、シャッターがきれる約2秒前から速い点滅に変わり、電子音も速い「ピッピッピッ」という継続音に変わります。シャッターボタンを全押ししてから、約12秒後にシャッターがきれます。
⏱2sの場合は、約2秒後にシャッターがきれます。

- セルフタイマー撮影を解除するときは、ドライブモードの設定画面で□（1コマ撮影）を選択します。「📷撮影3」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」を□（オフ）に設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。（p.195）
- 「Shake Reduction」は(SR OFF)（オフ）固定です。
- セルフタイマーの電子音が鳴らないように設定できます。（p.186）

リモコン（別売）を使って撮影する

別売のリモコン（p.242）を使うと、カメラから離れたところから撮影することができます。

i	リモコン	リモコンのシャッターボタンを押すと、すぐにシャッターがきれます。
i3s	リモコン（3秒後レリーズ）	リモコンのシャッターボタンを押すと、約3秒後にシャッターがきれます。

注意

以下のときは、リモコン撮影はできません。

- **B**モード、またはSCNモードの（動体）／（ペット）／（キッズ）を選択しているとき
- インターバル撮影を設定しているとき

1 カメラを三脚などで固定する

2 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で i を選ぶ

4 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で i ／ i3s を選択してOKボタンを押す

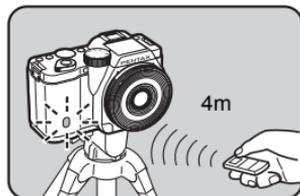
カメラ正面のリモコン受光部が点滅し、リモコン待機状態になります。

5 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

リモコンをカメラ正面のリモコン受光部に向け、リモコンのシャッターボタンを押す

リモコン撮影できる距離はカメラ正面から約4mです。

撮影が終了すると、リモコン受光部が2秒間点灯し、その後点滅に戻ります。

- 初期設定では、リモコンの操作でピント合わせはできません。あらかじめカメラ側でピント合わせをしてから、リモコン操作をしてください。「**C** カスタム2」メニューの「11. リモコン時のAF」（p.72）を「オン」に設定すると、リモコンでピント合わせができます。
- リモコン撮影を解除するときは、ドライブモードの設定画面で□（1コマ撮影）を選択します。「撮影3」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」を□（オフ）に設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。（p.195）
- 「Shake Reduction」は（オフ）固定です。
- 逆光時はリモコン撮影ができないことがあります。
- 防水リモートコントロール O-RC1を使用した場合は、ボタンでAF動作ができます。**Fn**ボタンは機能しません。
- リモートコントロール Fは、約30,000回のリモコン送信ができます。電池の交換（有料）については当社の修理センター、またはお客様窓口にご依頼ください。

連続して撮影する

連続撮影

連続撮影では、シャッターボタンを全押ししている間、連続的にシャッターがきれます。

連続撮影（Hi）	最高約6コマ/秒で連続撮影します。（JPEG時） 「記録形式」がRAW／RAW+に設定されているときは、選択できません。
連続撮影（Lo）	最高約3コマ/秒で連続撮影します。（JPEG時）

注意
- 以下のときは、連続撮影はできません。
  - **B**／**HDR**モード、またはSCNモードの（夜景HDR）を選択しているとき
  - インターバル撮影／HDR撮影を設定しているとき
- ／を選択した場合、クイックビューまたは再生時にRAW画像を追加保存することはできません。

1 撮影待機状態で十字キー（▶）を押す

ドライブモードを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でを選ぶ

3 十字キー（▼）を押し、十字キー（◀▶）で／を選択してOKボタンを押す

撮影できる状態になります。

4 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

5 シャッターボタンを全押しする

シャッターボタンを押し込んでいる間、連続して撮影できます。シャッターボタンから指を放すと、連続撮影は終了します。

- SCNモードの（動体）／（ペット）／（キッズ）を選択しているときは、固定です。
- フォーカスは1枚目のピント位置に固定されます。
- を選択した状態で「記録形式」をRAW／RAW+に変更すると、で動作します。
- 内蔵ストロボを使用している場合は、充電が完了してからシャッターがきれます。「C カスタム2」メニューの「12. 充電中のレリーズ」を「オン」に設定すると、ストロボが充電中でもシャッターがきれます。（p.63）
- 連続撮影を解除するときは、ドライブモードの設定画面で □（1 コマ撮影）を選択します。「撮影3」メニューの「モードメモリ」で「ドライブモード」を□（オフ）に設定しておくと、カメラの電源を切ったときに自動的に解除されます。（p.195）

インターバル撮影

指定した時刻から一定間隔で自動撮影をします。
以下の設定を行います。

撮影間隔	1秒間～24時間で設定します。
撮影枚数	2～999枚で設定します。 SDメモリーカードの空き容量によって設定できる枚数が異なります。
開始トリガー	1枚目を撮影するタイミングを選択します。「即時」はすぐに撮影が開始され、「時刻指定」の場合は「撮影開始時刻」を設定します
撮影開始時刻	撮影を開始する時刻を設定します。

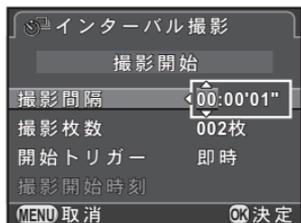
注意
以下のときは、インターバル撮影はできません。
- B／動画モードのとき
- 多重露出を設定しているとき

1 「撮影2」メニューの「インターバル撮影」を選び、十字キー（▶）を押す

「インターバル撮影」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。

4 十字キー（▲▼）で「撮影枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（◀▶）を押し、十字キー（▲▼）で枚数を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。

6 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を選択してOKボタンを押す

「即時」を選んだ場合は、手順10に進みます。

8 十字キー（▲▼）で「撮影開始時刻」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（◀▶）で時／分を選び、十字キー（▲▼）で時刻を設定する

設定が終わったら、**OK**ボタンを押します。

10 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

11 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

インターバル撮影中は、このときのピント位置にフォーカスロックされます。

12 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、1枚目が撮影されます。「時刻指定」の場合は、設定した時刻に撮影が開始されます。

2枚以上撮影する場合は、手順3で設定した撮影間隔で撮影されます。

撮影を途中で終了する場合は、**MENU**ボタンを押します。

インターバル撮影
待機中
残り撮影枚数 5枚
撮影間隔 00:01'00"
MENU 終了

設定した枚数の撮影が終了すると、「インターバル撮影を終了しました」と表示され、通常の撮影待機状態に戻ります。

- 🎥 モードでのインターバル撮影については、「インターバル動画」（p.119）を参照してください。
- 撮影の途中でモードダイヤルまたは電源レバーを回すと、それまで撮影した画像が保存されてインターバル撮影が終了します。
- ドライブモードの設定にかかわらず、□（1コマ撮影）になります。
- 撮影されるごとにクイックビューが画像モニターに表示されますが、拡大表示／消去／RAW追加保存はできません。
- 撮影の待機中は、画像モニターはオフになります。
- オートパワーオフで電源が切れた場合は、撮影時刻が近づくと自動的に電源が入ります。

注意

インターバル撮影を行う場合は、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）を使用するか、十分に充電したバッテリーを使用してください。十分に充電されていないと、インターバル撮影中にバッテリーが消耗し、撮影が途中で終了することがあります。

多重露出

任意の枚数を1枚の画像に合成しながら撮影します。

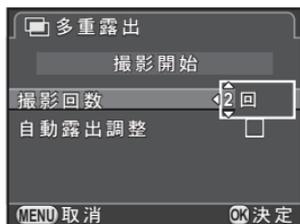
以下のときは、多重露出はできません。
- **HDR**／動画モード、またはSCNモードの夜景HDR（夜景HDR）を選択しているとき
- 露出ブラケット／インターバル撮影／ディストーション補正／倍率色収差補正／デジタルフィルター／HDR撮影を設定しているとき

1 「撮影2」メニューで「多重露出」を選び、十字キー（▶）を押す

「多重露出」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「撮影回数」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で撮影回数を選択してOKボタンを押す

2～9回が選択できます。

4 十字キー（▲▼）で「自動露出調整」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑（オン）にすると撮影回数に応じて露出が補正されます。

5 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

6 撮影する

シャッターボタンを1回押すごとに、合成された画面がクイックビューで表示されます。クイックビュー表示中に⚡UP/🗑ボタンを押すと、それまでに撮影した画像を破棄して、1回目から撮影をやり直すことができます。

撮影を途中で終了する場合は、**MENU**ボタンを押します。

設定した回数の撮影が終了すると画像が保存され、手順3の画面に戻ります。

動画を撮影する

本機では、以下の形式の動画が撮影できます。

- 音声　　　　　　　ステレオ
- ファイル形式　　　MPEG-4 AVC/H.264（拡張子：.MOV）

動画の設定を変更する

「動画」メニューまたはコントロールパネルで動画の設定を行います。ここでは、「動画1」メニューから設定する手順を説明します。

1 モードダイヤルをに合わせてMENUボタンを押す

「動画1」メニューが表示されます。
他の撮影モードでMENUボタンを押したときは、十字キー（▶）を1回押します。

2 十字キー（▲▼）で「露出設定」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）でP／Av／Mを選択し、OKボタンを押す

P	露出は自動で設定されます。露出補正が設定できます。（初期設定）
Av	絞り値／露出補正が設定できます。
M	シャッター速度／絞り値／ISO感度が設定できます。

4 十字キー（▲▼）で「記録設定」を選び、十字キー（▶）を押す

「記録設定」画面が表示されます。

5 「記録サイズ」を選択する

記録サイズ	画素数	アスペクト比	フレームレート
FullHD（初期設定）	1920×1080	16:9	30fps／25fps／24fps
HD	1280×720	16:9	60fps ／50fps ／30fps ／25fps／24fps
VGA	640×480	4:3	30fps／25fps／24fps

設定を変更すると、その設定で撮影できる時間が画面右上に表示されます。

6 「フレームレート」を選択する

記録サイズによって、選択できるフレームレートが異なります。

7 「画質」を★★★／★★／★から選択する

8 MENUボタンを押す

「動画1」メニューに戻ります。

9 十字キー（▲▼）で「録音レベル」を選び、十字キー（▶）を押す

「録音レベル」画面が表示されます。

10 十字キー（▲▼）で内蔵マイク／外部マイクを選び、十字キー（◀▶）で録音レベルを選択する

内蔵マイクは0～5、外部マイクは0～10の範囲で設定します。
（0）を選択すると、音声は録音されません。

11 十字キー（▲▼）で「Movie SR」を選び、十字キー（▶）を押す

12 十字キー（▲▼）で／を選択してOKボタンを押す

オン	手ぶれ補正を行います（初期設定）
オフ	手ぶれ補正を行いません。

13 MENUボタンを押す

撮影できる状態になります。

上記の設定は、コントロールパネルで設定することもできます。

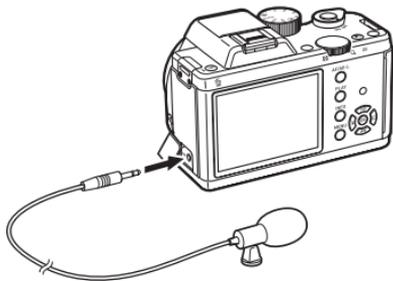
マイクを接続する

マイク入力端子に市販のステレオマイクを接続することができます。外部マイクを利用すると、カメラの動作音などが録音されることを軽減できる場合があります。

外部マイクは、以下の仕様を推奨します。

- プラグ　ステレオミニ（ø3.5mm）
- 形式　ステレオエレクトレットコンデンサー
- 電源　プラグインパワー方式（動作電圧2.0V以下）
- インピーダンス　2.2kΩ

1 カメラの電源を切る

2 マイク入力端子のカバーを開け、マイク入力端子にマイクのプラグを接続する

3 カメラの電源を入れる

撮影中に外部マイクを外すと、撮影が強制終了します。

動画を撮影する

1 モードダイヤルを 🎥 に合わせる

動画撮影画面が表示されます。

2 画像モニターで被写体を確認する

必要に応じて露出を設定します。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	（露出設定 **Av**）絞り値設定 （露出設定 **M**）シャッター速度設定
☒/**Av** ボタン →電子ダイヤル	（露出設定 **P** ／ **Av**）露出補正 （露出設定 **M**）絞り値設定
十字キー（▲）	（露出設定 **M**）ISO感度設定
⦿（緑／赤）ボタン	「📷撮影3」メニューの「ボタンカスタマイズ」で設定している動作（p.147） 「グリーンボタン」に設定しているときは、露出設定をリセット

3 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

MF モードに設定しているときは、レンズのピントリングを回してピントを合わせます。

4 シャッターボタンを全押しする

動画の撮影が開始されます。

撮影中は、画面右上に赤の●が点滅表示されます。

5 もう一度シャッターボタンを押す

撮影が終了します。

- 「録音レベル」を 🎙（0）以外に設定している場合、カメラの動作音なども録音されます。動画を撮影するときは三脚や外部マイクを使用し、撮影中はなるべくカメラを操作しないようにしてください。
- ストロボは使用できません。
- デジタルフィルターなどの画像処理を設定して撮影した場合、部分的にコマが抜けて記録されることがあります。
- 動画撮影中にカメラ内部が高温になったときは、回路保護のため強制終了する場合があります。

- 動画撮影時は、フォーカスモードの設定にかかわらず、ピントが合っていなくてもシャッターボタンを全押しすると撮影が開始されます。
- 動画は最大4GB、または最長25分まで連続して撮影できます。SDメモリーカードがいっぱいになると撮影が中断し、保存されます。
- 🎥モード中の画面表示は「📷撮影3」メニューの「ライブビュー」の設定に従います。（p.190）
- 🎥モード中の**AF**/**AE-L**ボタンの動作を設定できます。「**AF**/**AE-L**ボタンの動作を設定する」（p.152）を参照してください。
- 長時間撮影するときは、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）のご使用をお勧めします。（p.42）
- 別売のリモコンで動画撮影を開始することもできます。（p.104）🎥 モードで十字キー（▶）を押すと、通常のドライブモードの設定画面ではなく、リモコンのオン／オフを選択する画面が表示されます。

⦿ボタンで撮影する

⦿（赤）ボタンを使用すると、モードダイヤルの位置に関係なくすぐに動画が撮影できます。

注意
- 露出設定は、**P** 固定です。
- HDR撮影／デジタルフィルターは、オフになります。
- インターバル撮影／多重露出の撮影待機中は、撮影できません。

1 ⦿（赤）ボタンに「動画記録」を割り当てる

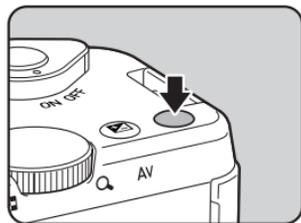
「⦿ボタンの動作を設定する」（p.147）を参照してください。初期設定では「動画記録」に設定されています。

2 画像モニターで被写体を確認する

3 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

4 ⦿（赤）ボタンを押す

動画の撮影が開始されます。

5 もう一度⦿（赤）ボタンを押す

撮影が終了します。

インターバル動画

設定した時刻から一定間隔で静止画を撮影し、1つの動画ファイル（Motion JPEG、拡張子：.AVI）として記録します。
以下の設定を行います。

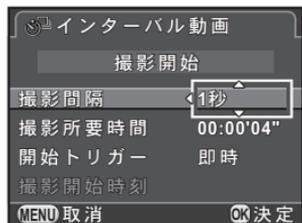
撮影間隔	撮影する間隔を1秒／5秒／10秒／30秒／1分／5分／10分／30分／1時間から選択します。
撮影所要時間	撮影を開始してから終了するまでの所要時間を4秒～99時間で設定します。「撮影間隔」によって、設定できる時間が異なります。
開始トリガー	1枚目を撮影するタイミングを即時／時刻指定から選択します。「即時」はすぐに撮影が開始されます。「時刻指定」の場合は「撮影開始時刻」を設定します。
撮影開始時刻	撮影を開始する時刻を設定します。

モードダイヤルが🎥になっているときだけ選択できます。

1 **「🎥動画1」メニューの「インターバル動画」を選び、十字キー（▶）を押す**

「インターバル動画」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で「撮影間隔」を選び、十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で撮影間隔を選択してOKボタンを押す**

4 **十字キー（▲▼）で「撮影所要時間」を選び、十字キー（▶）を押す**

5 十字キー（◀▶）で時／分／秒を選び、十字キー（▲▼）で時間を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。

6 十字キー（▲▼）で「開始トリガー」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で即時／時刻指定を選択して OK ボタンを押す

「即時」を選んだ場合は、手順10に進みます。

8 十字キー（▲▼）で「撮影開始時刻」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（◀▶）で時／分を選び、十字キー（▲▼）で時刻を設定する

設定が終わったら、**OK** ボタンを押します。

10 十字キー（▲▼）で「撮影開始」を選び、OK ボタンを押す

撮影できる状態になります。

11 シャッターボタンを半押しする

合焦動作が行われます。

12 シャッターボタンを全押しする

「開始トリガー」が「即時」の場合は、すぐに撮影されてクイックビューが表示されてから画像モニターの表示が消えます。設定した枚数の撮影が終了すると、「インターバル撮影を終了しました」と表示された後、電源が切れます。

注意

インターバル動画を撮影する場合は、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）を使用するか、十分に充電したバッテリーを使用してください。十分に充電されていないと、インターバル動画撮影中にバッテリーが消耗し、撮影が途中で終了することがあります。

撮影した動画を再生する

撮影した動画は、静止画と同様に再生モードで再生できます。

1 再生モードの1画像表示で十字キー（◀▶）を押し、再生する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が表示されます。

2 十字キー（▲）を押す

動画が再生されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	一時停止／再開
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	早送り再生
十字キー（◀）	（一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	早戻し再生
十字キー（▼）	停止 （停止中）再生モードパレットを表示（p.154）
電子ダイヤル	音量調節（6段階）
INFOボタン	標準情報表示／情報表示なし切り替え
☒/**Av**ボタン	（一時停止中）表示中の画像をJPEG形式で保存（p.122）

再生が終わると停止し、1コマ目の画像が表示されます。

- 別売のビデオケーブル I-VC28／AVケーブル I-AVC7や市販のHDMIケーブルを利用すると、テレビなどのAV機器で動画を再生することができます。（p.178）音声は、ビデオ出力ではモノラル、HDMI出力ではステレオで再生されます。
- パソコンに転送して動画を再生する場合は、QuickTimeが必要です。（p.208）

動画から静止画を切り出す

動画の1コマをJPEG形式の静止画として保存することができます。

1 p.121の手順2の画面で十字キー（▲）を押して一時停止させる

2 十字キー（◀▶）を押して静止画で保存する1コマを表示する

フレーム番号/総フレーム数

3 ☑/Avボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

動画から切り出された画像がJPEG形式で保存されます。

動画を編集する

動画を分割したり、不要な範囲を消去することができます。

1 1画像表示で十字キー（◀▶）を押し、編集する動画を選ぶ

動画の1コマ目の画像が表示されます。

2 十字キー（▼）を押す

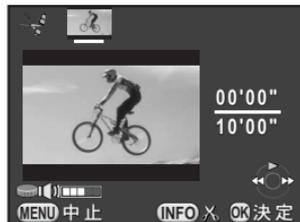
再生モードパレットが表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で ✂（動画編集）を選び、OK ボタンを押す

動画を編集する画面が表示されます。

4 分割する箇所を指定する

画面上部に分割位置の先頭のコマが表示されます。

4箇所（5分割）まで指定できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲）	再生／一時停止
十字キー（▶）	（一時停止中）コマ送り
十字キー（▶）長押し	早送り再生
十字キー（◀）	（一時停止中）コマ戻し
十字キー（◀）長押し	早戻し再生
電子ダイヤル	音量調節（6段階）
INFOボタン	分割位置指定／解除

消去しない場合は、手順8に進みます。

5 ⚡UP/🗑 ボタンを押す

消去範囲を指定する画面が表示されます。

6 十字キー（◀▶）で選択枠を移動し、OKボタンを押す

消去する範囲が選択されます。複数の範囲が選択できます。

もう一度**OK**ボタンを押すと、選択が解除されます。

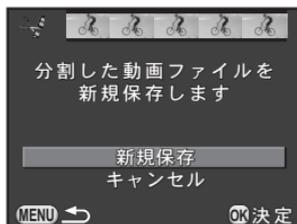
7 MENUボタンを押す

手順4の画面に戻ります。

8 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

9 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選択し、OKボタンを押す

指定した箇所が分割／消去された画像が新規保存され、1画像表示に戻ります。

- 分割位置は、動画の時系列に沿って先頭から順に指定します。分割位置を解除するときは、逆方向（後ろから前）に順に指定します。分割指定している途中に分割位置を追加したり、途中の分割指定を解除することはできません。
- 録画時間が短い動画は分割できません。

5 撮影のための設定

この章では、画像の保存形式や撮影時の動作の設定を説明しています。

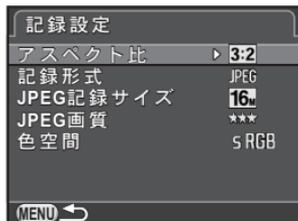
画像の記録形式を設定する

静止画の縦横比／ファイルフォーマット／記録サイズ／画質／色空間を設定します。

1 「撮影1」メニューの「記録設定」を選択し、十字キー（▶）を押す

「記録設定」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）でアスペクト比／記録形式／JPEG 記録サイズ／JPEG画質／色空間を選択し、十字キー（▶）を押す

各設定の詳細は、p.127〜p.129を参照してください。

3 十字キー（▲▼）で設定を変更し、OK ボタンを押す

4 MENU ボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- アスペクト比／記録形式／JPEG記録サイズ／JPEG画質は、コントロールパネルで設定することもできます。
- 記録形式／JPEG記録サイズ／JPEG画質を変更すると、その設定で撮影できる枚数が画像モニターに表示されます。

アスペクト比

画像の横：縦の比率を、16:9／3:2（初期設定）／4:3／1:1から選択します。

記録形式

画像のファイルフォーマットを設定します。

JPEG	JPEG形式で記録します。（初期設定） 画像の記録サイズは「JPEG記録サイズ」、画質は「JPEG画質」の設定によって変わります。
RAW	CMOSセンサーからの出力を加工せずに記録するデータ形式です。Adobe Systems社が提唱する汎用フォーマットのDNG（Digital Negative）形式のRAWファイルで記録します。 ホワイトバランス／カスタムイメージ／色空間の設定は画像に反映されず、情報として記録されます。「RAW展開」（p.174）や、付属ソフトウェア（p.211）を使用して展開処理を行う場合には、これらの設定を使ってJPEG画像を作成します。
RAW+	JPEG形式とRAW形式の両方で記録します。 ⦿（緑／赤）ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときは、⦿（緑／赤）ボタンを押すと、一時的に両形式で記録することができます。（p.149）

- デジタルフィルター／HDR撮影を設定しているときは、「JPEG」から変更できません。変更するときは、これらの機能をオフに設定してください。
- **HDR**モード、または**SCN**モードの（夜景HDR）を選択しているときは、設定にかかわらず「JPEG」で撮影されます。

JPEG記録サイズ

「記録形式」がJPEGのときの記録サイズを選択します。「アスペクト比」の設定によって選択できる記録サイズが異なります。

アスペクト比	記録サイズ	画素数
16:9	13M	4928×2776
	10M	4224×2376
	6M	3456×1944
	4M	2688×1512
3:2	16M	4928×3264（初期設定）
	12M	4224×2816
	8M	3456×2304
	5M	2688×1792
4:3	14M	4352×3264
	11M	3840×2880
	7M	3072×2304
	4M	2304×1728
1:1	10M	3264×3264
	8M	2880×2880
	5M	2304×2304
	3M	1728×1728

- 画素数が多くなるほど画像の容量が大きくなります。また、「JPEG画質」の設定によっても容量が異なります。
- 撮影した画像の美しさや鮮明さは、露出制御などの撮影時の設定や使用するプリンターの解像度等によって異なります。

JPEG画質

JPEG画像の画質（圧縮比）を設定します。初期設定は、★★★（スーパーファイン）です。

★★★	スーパーファイン	↑ 画質：鮮明　容量：大
★★	ファイン	
★	エコノミー	↓ 画質：粗　容量：小

色空間

使用する色空間を設定します。

sRGB	パソコンを中心とした機器で広く使われています。（初期設定）
AdobeRGB	sRGB色空間よりも広い色再現範囲を持っており、主に商業印刷などの業務用途で使われています。

メモ

色空間の設定によって、ファイル名の付け方が次のようになります（「xxxx」は4桁の連番）。
sRGBのとき:　IMGPxxxx.JPG
AdobeRGBのとき:_IGPxxxx.JPG

ホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスとは、白いものが白く写るように撮影時の光の状態に応じて画像の色合いを調整する機能です。ホワイトバランス **AWB**（オート）で撮影した色合いに納得がいかないときや、意図的に効果を出したいときなどに、ホワイトバランスを設定してください。

項目	設定	色温度 *1
AWB オート	カメラが自動調整します。（初期設定）	約4000～8000K
太陽光	太陽の下で撮影するときに設定します。	約5200K
日陰	日陰で撮影するときに設定します。青みを抑えます。	約8000K
曇天	曇りの日に撮影するときに設定します。	約6000K
蛍光灯	蛍光灯で照明されたものを撮影するときに設定します。蛍光灯の種類が選択できます。 **D** 昼光色蛍光灯 **N** 昼白色蛍光灯 **W** 白色蛍光灯 **L** 電球色蛍光灯	 約6500K 約5000K 約4200K 約3000K
白熱灯	電球など白熱灯で照明されたものを撮影するときに設定します。赤みを抑えます。	約2850K
WB ストロボ	内蔵ストロボを使用して撮影するときに設定します。	約5400K
CTE *2	光源の特徴を誇張し、色味を残します。	—
マニュアル	撮影時の光の状態で、手動でホワイトバランスを調整します。	—

*1 色温度（K）は目安です。正確な色を示すものではありません。
*2 CTE ＝ Color Temperature Enhancement

AUTO／**SCN** モードのときは、**AWB** 固定です。

1 撮影待機状態で十字キー（▼）を押す

ホワイトバランスを設定する画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）でホワイトバランスを選択する

![]の場合は、十字キー（▼）を押してから十字キー（◀▶）で**D**／**N**／**W**／**L**を選択します。

設定に応じて背景画像が変化します。

微調整が必要ないときは、手順6に進みます。

3 INFOボタンを押す

微調整画面が表示されます。

4 微調整をする

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼）	G-M（グリーン－マゼンタ）間
十字キー（◀▶）	B-A（ブルー－アンバー）間
⦿（緑）ボタン	調整値をリセット

5 OKボタンを押す

手順2の画面に戻ります。

6 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

メモ

ストロボを発光すると光源が変化するため、ストロボを発光したときのホワイトバランスについて設定できます。「**C**カスタム1」メニューの「8. ストロボ発光時のWB」（p.72）で、**AWB**／変更しない／ストロボから選択します。

マニュアルでホワイトバランスを調整する

撮影時の光源に合わせて任意の場所のホワイトバランスを測定します。カメラに用意されたホワイトバランスでは調整しきれない微妙な色合いをカメラに記憶させて、撮影状況に最適なホワイトバランスで撮影できます。

1 p.131の手順2の画面で□を選ぶ

2 ホワイトバランスを測定する照明の下で白く写したい被写体を選ぶ

または、白い紙等を画像モニター中央に入れます。

3 AF/AE-Lボタンを押す

合焦動作が行われます。

4 シャッターボタンを全押しする

手順1の画面に戻ります。
必要に応じて微調整をしてください。
測定がうまくいかなかったときは、「正しく処理できませんでした」と表示されます。**OK**ボタンを押すと、再測定ができます。

5 OKボタンを押す

撮影できる状態になります。

注意
極端な露出オーバーや露出アンダーの状態では、ホワイトバランス調整ができない場合があります。その場合は、適正露出に調整した上で、ホワイトバランス調整を行ってください。

画像を補正して撮影する

明るさやレンズ特性を補正して撮影することができます。

明るさを補正する

明るさを補正し、白とび・黒つぶれを防ぎます。

ハイライト補正

ダイナミックレンジを拡大し、表現できる階調の幅を広げて白とびを防ぎます。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「ハイライト補正」を選択し、OKボタンを押す

「ハイライト補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオート／オン／オフを選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

ハイライト補正を「オン」に設定すると、最低感度はISO 200になります。

シャドー補正

ダイナミックレンジを拡大し、表現できる階調の幅を広げて黒つぶれを防ぎます。

1　撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2　十字キー（▲▼◀▶）で「シャドー補正」を選択し、OKボタンを押す

「シャドー補正」画面が表示されます。

3　十字キー（◀▶）でオート／弱／中／強／オフを選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メモ　ハイライト補正／シャドー補正をメニューから設定するときは、「📷撮影2」メニューの「D-Range設定」（p.70）で設定します。

ハイダイナミックレンジ撮影を行う

「ハイダイナミックレンジ撮影」とは、標準／アンダー／オーバーの画像を合成して暗部から明部までを1枚の画像で表現する撮影方法です。
本機は、以下のハイダイナミックレンジ撮影ができます。

HDR撮影	コントロールパネル、または「撮影1」メニューで設定します。
（夜景HDR）	SCNモードから選択します。（p.76）
HDRモード	モードダイヤルを合わせるだけで撮影ができます。（p.137）

ここでは、HDR撮影と**HDR**モードの設定方法を説明します。

注意
- HDR撮影／**HDR**モードでは、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影
  - 露出ブラケット
  - ストロボ
  - 多重露出
  - デジタルフィルター
- ハイダイナミックレンジ撮影では画像を合成するため、保存に時間がかかります。

HDR撮影

モードダイヤルの位置にかかわらず設定ができます（一部の撮影モードを除く）。標準／-3 EV／+3 EVの画像を合成します。

注意
- 以下のときは、HDR撮影は選択できません。
  - 「記録形式」をRAW／RAW+に設定しているとき
  - **B**モードのとき
- **HDR**モード、またはSCNモードの（夜景HDR）を選択しているときは、撮影モードの設定が優先されます。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「HDR撮影」を選択し、OKボタンを押す

「HDR撮影」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオート／Type1／Type2／Type3／オフを選択し、OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- 「撮影1」メニューの「HDR撮影」で設定する場合は、「自動位置調整」が設定できます。

□	自動位置調整を行いません。「Shake Reduction」もオフになります。（初期設定）
☑	自動位置調整を行います。「Shake Reduction」の設定に従って、手ぶれ補正を行います。

- 「Shake Reduction」と「自動位置調整」が両方ともオンの場合、次の点に注意してください。
  - 3コマの撮影中に構図がずれないように撮影してください。コマ間の構図のずれが大きいと、自動位置調整ができない場合があります。
  - 手ぶれや被写体ぶれの影響を受けやすいため、シャッタースピードを速めに、ISO感度を高めに設定してください。
  - ISO感度を「ISO AUTO」に設定している場合、通常より感度が上がりやすくなります。
  - 焦点距離が100mmを超えるレンズや、被写体全体が格子模様や単調な面の場合は、自動位置調整ができない場合があります。
- SCNモードの（夜景HDR）を選択しているときのHDR撮影の設定は「オート」、「自動位置調整」は☑（オン）固定です。
- ⦿（緑／赤）ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときに⦿（緑／赤）ボタンを押すと、一時的にHDRオフとなりRAW+で記録されます。

HDRモード

モードダイヤルを合わせるだけで、すぐにハイダイナミックレンジ撮影ができます。露出を変化させる幅が選択できます。

注意 記録形式はJPEG固定です。また、⦿（緑／赤）ボタンによるワンタッチRAW+操作は無効です。

1 モードダイヤルをHDRに合わせる

HDRモードになり、ハイダイナミックレンジ撮影ができるようになります。

タイプを変更する必要がないときは、手順6に進みます。

2 「📷撮影1」メニューの「HDR撮影」を選び、十字キー（▶）を押す

HDRモード専用の「HDR撮影」画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でオート／ Type1／Type2／Type3を選択し、OKボタンを押す

4 十字キー（▲▼）で「自動位置調整」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

設定内容は、p.136を参照してください。

5 MENUボタンを2回押す

撮影できる状態になります。

6 電子ダイヤルで露出を変化させる幅を設定する

±1／±2（初期設定）／±3が設定できます。

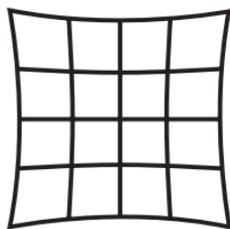
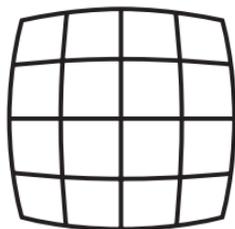
7 撮影する

手順3の設定は、コントロールパネルで設定することもできます。

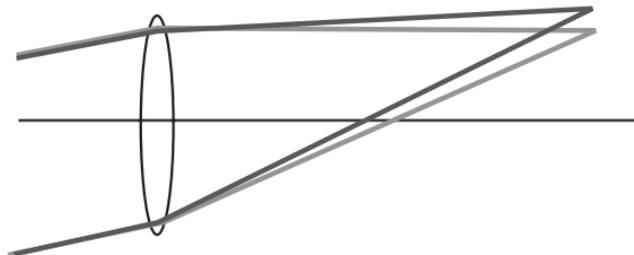
レンズ特性を補正する

レンズの特性によって生じる歪曲収差と倍率色収差を軽減します。

● **歪曲収差（ディストーション）**

画像の両端が縮まり、中央部分が膨らんだように写ったり（樽型歪曲）、逆に中央部分が縮まったように写る（糸巻型歪曲）現象をいいます。歪曲収差はズームレンズや小口径のレンズに発生しやすい現象で、壁や水平線が曲がったように写ります。

糸巻型歪曲

樽型歪曲

● **倍率色収差**

画像を写す際に色（光の波長）によって画像の倍率が異なり、画像がずれてしまう現象をいいます。焦点距離が短くなると、色収差が起こりやすくなります。

- DA・DA L・D FAレンズと一部のFAレンズを使用したときのみ、補正できます。対応レンズ以外を装着している場合は、ディストーション補正／倍率色収差補正は選択できません。（p.232）
- DA 10-17mm FISH-EYE を使用時は、ディストーション補正は無効です。
- 接写リングやリアコンバーターなどレンズとカメラの間に装着するアクセサリーを使用すると、レンズ補正機能は無効になります。
- ディストーション補正を使用すると、連続撮影の撮影速度が遅くなる場合があります。
- 撮影条件等により、レンズ補正の効果がほとんど感じられない場合があります。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）でディストーション補正／倍率色収差補正を選択し、OKボタンを押す

「ディストーション補正」「倍率色収差補正」画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）でオフ／オンを切り替える

4 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- 対応レンズを装着し、「記録形式」がRAW／RAW+の場合は、RAWファイルのパラメーターとして補正情報が記録され、RAW展開時にオン／オフが選択できます。（p.175）
- ディストーション補正／倍率色収差補正をメニューで設定するときは、「📷 撮影1」メニューの「レンズ補正」（p.69）で設定します。

仕上がりイメージを設定して撮影する

どのような雰囲気の画像にしたいかを設定して撮影します。

カスタムイメージを設定する

画像の仕上がりイメージ（画像仕上）を設定して撮影することができます。
以下の画像仕上が選択できます。

画像仕上	イメージ
鮮やか	彩度・色相・コントラストを高めにし、メリハリのある画像に仕上げます。（初期設定）
ナチュラル	実際の色合いに近い自然な仕上がりです。
人物	肌色を健康的に仕上げます。
風景	木々の緑や青空などの輪郭・彩度を強調して鮮やかな色に仕上げます。
雅（MIYABI）	色合いを変化させて古風な雰囲気に仕上げます。
ポップチューン	艶やかさを強調し、華やかに仕上げます。
ほのか	彩度を低めにして柔らかな雰囲気に仕上げます。
銀残し	彩度を低くし、コントラストを高めにして古い写真のような雰囲気に仕上げます。
リバーサルフィルム	リバーサルフィルムで撮影したような、明暗差を強調した仕上がりです。
モノトーン	モノクロ用の色フィルターを使用して撮影します。
クロスプロセス	色合いやコントラストを故意に変化させます。撮影するたびに異なった処理結果が得られます。

AUTO／**SCN**モードのときは、それぞれの撮影モードに合った画像仕上が自動的に設定されるため、設定を変更することはできません。

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「カスタムイメージ」を選択し、OKボタンを押す

カスタムイメージを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）で画像仕上を選択する

設定に応じて背景画像が変化します。
パラメーターを変更する必要がないときは、手順8に進みます。

4 INFOボタンを押す

パラメーターを調整する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する

選択した画像仕上によって以下のパラメーターが変更できます。

画像仕上	パラメーター
鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ポップチューン	彩度：-4～+4
	色相：-4～+4
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4
ほのか／銀残し	彩度：-4～+4
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4

画像仕上	パラメーター
リバーサルフィルム	シャープネス：-4～+4
モノトーン	フィルター効果：なし／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／赤外調
	調色：オフ／グリーン／イエロー／オレンジ／レッド／マゼンタ／パープル／ブルー／シアン
	キー：-4～+4
	コントラスト：-4～+4
	シャープネス：-4～+4
クロスプロセス	シャッフル／プリセット1～3／お気に入り1～3 *1

*1 再生モードパレットで撮影済み画像の設定が登録できます。（p.143）

6 十字キー（◀▶）で値を調整する

彩度／色相は、レーダーチャートで確認できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル	シャープネス／ファインシャープネス切り替え
⦿（緑）ボタン	設定値をリセット

7 OKボタンを押す

手順3の画面に戻ります。

8 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

メニューから設定するときは、「📷撮影1」メニュー（p.69）で設定します。

撮影済み画像のクロスプロセス設定を登録する

クロスプロセスは、撮影するたびに処理結果が異なります。気に入ったクロスプロセス画像が撮影できたときは、その設定を登録しておくことができます。3つまで登録できます。

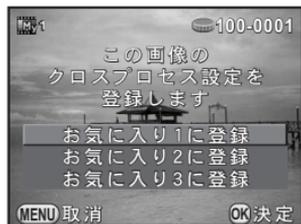
1 再生モードの1画像表示で十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で My（クロスプロセス登録）を選び、OK ボタンを押す

最新の画像から順にクロスプロセス画像を検索します（検索中は砂時計のアイコンが表示されます）。クロスプロセス画像が見つかると、登録の画面が表示されます。

クロスプロセス画像がない場合は、「クロスプロセス撮影画像がありません」と表示されます。

3 電子ダイヤルでクロスプロセス画像を選択する

4 十字キー（▲▼）でお気に入り1～3を選択し、OK ボタンを押す

指定した画像の設定がお気に入り1～3に登録され、最後に表示していた画像が再生されます。

デジタルフィルターを設定する

フィルターをかけて撮影します。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
色抽出	特定の1色または2色だけを抽出し、他の部分を白黒で撮影します。	抽出色1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：1～5
		抽出色2：OFF／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：1～5
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像を撮影します。	シェーディング強度：OFF／弱／中／強（動画モードは無効）
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
レトロ	古い写真のような画像を撮影します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太（動画モードは無効）
ハイコントラスト	コントラストを強くして撮影します。	強度：1～5
シェーディング *1	周辺を暗くした画像を撮影します。	シェーディングタイプ：4種類
		シェーディング強度：-3～+3
ネガポジ反転	画像を反転して撮影します。	OFF／ON
カラー	選択したカラーフィルターをかけて撮影します。	色：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：薄／中／濃

*1 動画モードでは選択できません。

- 以下のときは、デジタルフィルターは選択できません。
  - HDRモード、またはSCNモードの（夜景HDR）を選択しているとき
  - 「記録形式」をRAW／RAW+に設定しているとき
- デジタルフィルターを設定すると、以下の機能は使用できません。
  - 連続撮影
  - 多重露出
  - HDR撮影
- フィルターによっては、画像の保存に時間がかかることがあります。

5 撮影のための設定

1 撮影待機状態でINFOボタンを押す

コントロールパネルが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で「デジタルフィルター」を選択し、OKボタンを押す

デジタルフィルターを設定する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択する

設定に応じて背景画像が変化します。
パラメーターを変更する必要がないときは、手順7に進みます。

4 INFOボタンを押す

パラメーターを調整する画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する

6 OKボタンを押す

手順3の画面に戻ります。

7 OKボタンを押す

コントロールパネルに戻ります。

- メニューから設定するときは、「撮影1」メニュー（p.69）で設定します。
- デジタルフィルター撮影を終了するときは、手順3で「フィルターオフ」を選択します。
- JPEG／RAW画像は、撮影後にデジタルフィルターで加工することもできます。（p.167）
- トイカメラ／シェーディングの「シェーディング強度」は、ライブビューでは確認できません。

ボタンの機能をカスタマイズする

⦿（緑／赤）ボタン／**AF**/**AE-L**ボタンは、機能を割り当てて使用することができます。

⦿（緑／赤）ボタン／**AF**/**AE-L**ボタンの現在の機能は、ガイド表示（p.75）で確認できます。

⦿ボタンの動作を設定する

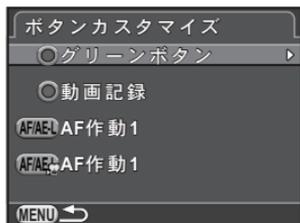
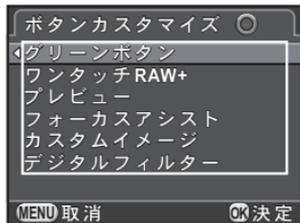
⦿（緑／赤）ボタンには、次のいずれかの機能が割り当てられます。

グリーンボタン	調整中の値をリセットします。（緑ボタン初期設定） ⦿（緑）ボタンにのみ設定できます。
動画記録	動画撮影の開始／終了を行います。（p.118）（赤ボタン初期設定） ⦿（赤）ボタンにのみ設定できます。
ワンタッチRAW+	「記録形式」の設定にかかわらず、JPEG形式とRAW形式を同時に記録します。撮影ごとに解除するかどうかと、ボタンを押したときの記録形式を選択します。（p.149）
プレビュー	ボタンを押している間、設定した絞り値まで絞って被写界深度の確認ができます。（p.99）
フォーカスアシスト	ピントが合った部分の輪郭を強調します。（p.98）
カスタムイメージ	カスタムイメージを設定します。（p.140） モードダイヤルがSCNのときは、SCNモードが選択できます。（p.77）
デジタルフィルター	デジタルフィルターを設定します。（p.144）

1 「◘撮影3」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選択し、十字キー（▶）を押す

「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で⦿（緑／赤）を選択し、十字キー（▶）を押す

⦿ボタンの機能を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で機能を選択してOKボタンを押す

4 MENUボタンを3回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ワンタッチRAW+を設定する

⦿（緑／赤）ボタンの機能を「ワンタッチRAW+」に設定しているときの記録形式を設定します。

1 p.148の手順3で「ワンタッチRAW+」を選択する

2 十字キー（▲▼）で「撮影毎に解除」を選択し、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	1回撮影するたびに「記録形式」の設定に戻ります。（初期設定）
□	次の場合に設定が解除されます。 ・再度⦿（緑／赤）ボタンを押す ・**PLAY**ボタン／**MENU**ボタンのどちらかを押す ・モードダイヤルを回す

3 十字キー（▲▼）で設定したい記録形式を選ぶ

左側が「記録形式」（p.127）の設定、右側が⦿（緑／赤）ボタンを押したときの記録形式になります。

4 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で記録形式を選択してOKボタンを押す

5 MENUボタンを3回押す

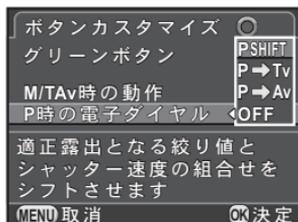
メニュー選択前の画面に戻ります。

P 時の電子ダイヤルの動作を設定する

P モードのときに、電子ダイヤルで変更する値を設定します。

1 **p.148 の手順 3 で ⦿（緑）ボタンの機能を「グリーンボタン」に設定する**

2 **十字キー（▲▼）で「P 時の電子ダイヤル」を選択し、十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）で電子ダイヤルの動作を選択し、OK ボタンを押す**

P SHIFT	シャッター速度と絞り値の組み合わせが適正露出になるようシフトします（プログラムシフト）。（初期設定）
P ➡ Tv	シャッター優先自動露出になります。電子ダイヤルでシャッター速度が設定できます。
P ➡ Av	絞り優先自動露出になります。電子ダイヤルで絞り値が設定できます。
OFF	**P** モード中の電子ダイヤル操作を無効にします。

4 **MENU ボタンを3回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

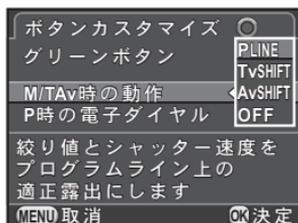
メモ **P** モードで電子ダイヤルを操作後に⦿（緑）ボタンを押すと、通常の **P** モードの設定に戻ります。

M時のグリーンボタンの動作を設定する

Mモードのときの⦿（緑）ボタンの機能を設定します。この設定は、**TAv**（シャッター＆絞り優先自動露出）モード（**M**モードでISO感度を「ISO AUTO」に設定したとき）でも有効です。

1 p.148の手順3で⦿（緑）ボタンの機能を「グリーンボタン」に設定する

2 十字キー（▲▼）で「M/TAv時の動作」を選択し、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で⦿（緑）ボタンの動作を選択し、OKボタンを押す

P LINE	絞り値とシャッター速度をプログラムライン上の適正露出にします。（初期設定）
Tv SHIFT	絞り値を固定のままシャッター速度をシフトし、適正露出にします。
Av SHIFT	シャッター速度を固定のまま絞り値をシフトし、適正露出にします。
OFF	**M**／**TAv**モード中の⦿（緑）ボタン操作を無効にします。

4 MENUボタンを3回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

AF/AE-Lボタンの動作を設定する

AF/**AE-L**ボタンには、次のいずれかの機能が割り当てられます。静止画撮影時と動画撮影時の動作がそれぞれ設定できます。

AF作動1	**AF**/**AE-L**ボタンとシャッターボタンのどちらでもオートフォーカスができます。(p.96)(初期設定)
AF作動2	シャッターボタン半押しを無効にし、**AF**/**AE-L**ボタンを押したときだけオートフォーカスを行います。
AFキャンセル	**AF**/**AE-L**ボタンを押している間は、シャッターボタンを押してもオートフォーカスしません。**AF**/**AE-L**ボタンを放すと、通常のオートフォーカス動作に戻ります。
AEロック	**AF**/**AE-L**ボタンを押すと、露出を記憶します。(p.87)

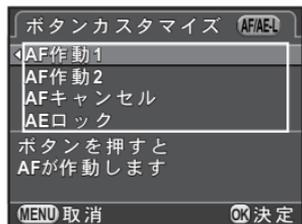
1 **「撮影3」メニューの「ボタンカスタマイズ」を選択し、十字キー(▶)を押す**

「ボタンカスタマイズ」画面が表示されます。

2 **十字キー(▲▼)でAF/AE-Lを選択し、十字キー(▶)を押す**

マークは動画撮影時の設定です。

AF/**AE-L**ボタンの機能を選択する画面が表示されます。

3 **十字キー(▶)を押し、十字キー(▲▼)で機能を選択してOKボタンを押す**

4 **MENUボタンを3回押す**

撮影できる状態になります。

6 いろいろな再生と画像編集

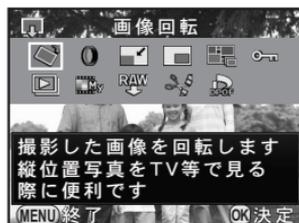
さまざまな再生方法と画像編集についてご紹介します。

再生・編集関連機能の操作

再生や編集に関する機能は、再生モードパレット／「▶再生」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」(p.33) を参照してください。

再生モードパレットの設定項目

1画像表示で十字キー（▼）を押すと、再生モードパレットが表示されます。
動画再生の停止中も、再生モードパレットを表示することができます。

項目	機能	参照
画像回転 *1	画像の回転情報を変更します。	p.162
デジタルフィルター *1	画像の色調を変えたり、ソフトやスリムに加工します。	p.167
リサイズ *1 *2	画像の記録サイズを変更し、新規保存します。	p.165
トリミング *1	画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。	p.166
インデックス *1	複数の画像を1枚に貼り付けて、新たな画像を作成します。	p.172
プロテクト	画像を誤って消去しないように保護します。	p.200
スライドショウ	画像を連続して再生します。	p.161
クロスプロセス登録	カスタムイメージの「クロスプロセス」で撮影された画像の設定をお気に入りとして登録します。	p.143
RAW展開 *1	RAW画像をJPEG形式に変換して新規保存します。	p.174

項目	機能	参照
動画編集 *3	動画を分割したり、不要な範囲を消去します。	p.123
DPOF *1 *2	SDメモリーカード内の画像に印刷枚数や日付を設定します。	p.204

*1 動画を表示しているときは実行できません。
*2 RAW画像を表示しているときは実行できません。
*3 動画を表示しているときのみ実行できます。

再生メニューの設定項目

「▶再生」メニューでは、以下の設定を行います。
再生モードで**MENU**ボタンを押すと、「▶再生1」メニューが表示されます。

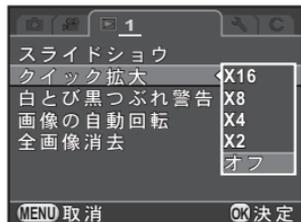
メニュー	項目	機能	参照
▶1	スライドショウ	画像を連続して再生します。スライドショウの表示の設定を行います。	p.160
	クイック拡大	拡大表示するときの最初の拡大率を設定します。	p.156
	白とび黒つぶれ警告	再生時に白とび黒つぶれ警告を表示するかどうかを設定します。	
	画像の自動回転	縦位置で撮影した画像や回転情報を縦に変更した画像を再生時に回転して表示するかどうかを設定します。	
	全画像消去	保存されているすべての画像を消去します。	p.164

再生モードの表示を設定する

1画像表示で拡大表示（p.157）するときの最初の拡大率と、白とび黒つぶれ警告、縦位置画像の自動回転について設定します。

1 「▶再生1」メニューの「クイック拡大」を選択し、十字キー（▶）を押す

2 十字キー（▲▼）で倍率を選択してOKボタンを押す

×16／×8／×4／×2／オフ（初期設定）から選択します。

3 十字キー（▲▼）で白とび黒つぶれ警告／画像の自動回転を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

白とび黒つぶれ警告	白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。（p.29）
画像の自動回転	「**C** カスタム2」メニューの「13. 回転情報の記録」（p.72）が「オン」の設定で撮影した場合、回転情報に従って再生時に回転して表示します。

4 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

注意 「白とび黒つぶれ警告」は、詳細情報表示／RGBヒストグラム表示のときは表示されません。（p.25）

画像を拡大表示する

再生した画像を約16倍まで拡大して表示できます。

1 1画像表示で十字キー（◀▶）を押し、画像を選択する

2 電子ダイヤルを右（🔍）に回す

1クリック回すごとに画像が1.2～16倍に拡大表示されます。

ボタン・ダイヤル等の操作

電子ダイヤル右（🔍）	拡大（16倍まで）
電子ダイヤル左（▦）	縮小（1倍まで）
十字キー（▲▼◀▶）	拡大位置を移動
⦿（緑）ボタン	（拡大位置移動中）表示を中央に戻す
INFO ボタン	標準情報表示／情報表示なし切り替え
OK ボタン	1画像表示に戻る

- クイックビュー（p.57）中も、同じ操作で拡大表示ができます。
- 1クリック目の倍率は、初期設定では1.2倍です。「▶再生1」メニューの「クイック拡大」で変更できます。（p.156）
- 縦画像は、最初の全体表示が横画像に比べて0.75倍のため、拡大1クリック目は0.75倍で表示されます。

再生方法を選択する

画像を一覧表示したり、保存されている画像を連続して再生することができます。

複数画像を表示する

1 **1画像表示で電子ダイヤルを左（⊞）に回す**

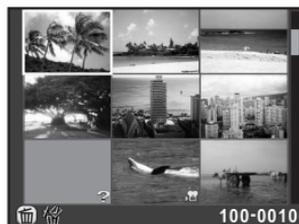
複数画像表示になります。
表示方法を変更しないときは、手順5に進みます。

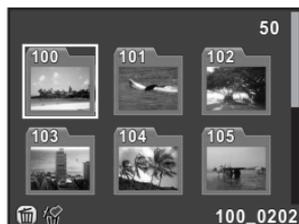
2 **INFOボタンを押す**

複数画像の表示を選択する画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼◀▶）で表示方法を選択する**

4画像表示／9画像表示／16画像表示／36画像表示／81画像表示

画面を分割して表示します。
サムネイル上に🎥や?などのアイコンが表示されます（81画像表示を除く）。

フォルダー表示

画像が保存されているフォルダーごとに表示します。

撮影日別表示

撮影した日付ごとに画像を表示します。

4 OKボタンを押す

複数画像の表示方法が選択されます。

次に1画像表示で電子ダイヤルを左（▦）に回したときは、手順3で選択した画面が表示されます。

5 表示する画像を選択する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
十字キー（▲▼）	（撮影日別表示）撮影日を選択
十字キー（◀▶）	（撮影日別表示）撮影日の画像を選択
電子ダイヤル右（Q）	（撮影日別表示）選択画像を1画像表示 電子ダイヤル左（▦）で撮影日別表示に戻る
ϟUP/🗑ボタン	画像消去
OKボタン	選択画像を1画像表示 （フォルダー表示）フォルダー内画像を1画像表示

6 電子ダイヤルを右（Q）に回す

1画像表示に戻ります。

連続して再生する

SDメモリーカードに保存された全画像を、スライドショウで連続して再生します。

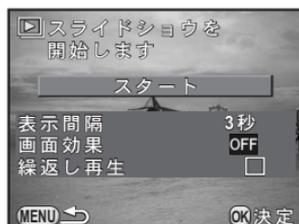
スライドショウの表示方法を設定する

スライドショウでの表示のしかたを設定します。

1 「▶ 再生 1」メニューの「スライドショウ」を選択し、十字キー（▶）を押す

スライドショウの設定画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で設定する項目を選ぶ

次の項目が設定できます。

項目	内容	設定値
表示間隔	画像を切り替える間隔を選択します。	3（初期設定）／5／10／30秒
画面効果	画面を切り替えるときの効果を設定します。	OFF（初期設定）／フェード／ワイプ／ストライプ
繰返し再生	最後の画像を再生した後に、また最初から再生を繰り返すかどうか設定します。	□（初期設定）／☑

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で設定を選択してOKボタンを押す

スライドショウを開始する

1 p.160の手順2の画面で「スタート」を選択し、OKボタンを押す
または再生モードパレットで▣（スライドショウ）を選択し、OKボタンを押す

スタート画面が表示され、スライドショウが始まります。

ボタン・ダイヤル等の操作

OKボタン	一時停止／再開
十字キー（◀）	前の画像を表示
十字キー（▶）	次の画像を表示

2 十字キー（▼）を押す

スライドショウが停止し、1画像表示に戻ります。
スライドショウの再生が終わったときは、十字キー（▼）を押さなくても1画像表示に戻ります。

メモ
動画は1コマ目の画像が表示され、表示間隔の設定時間が過ぎると次の画像が再生されます。スライドショウ中に動画を再生するときは、1コマ目が表示されているときに**OK**ボタンを押します。動画の再生が終わると、スライドショウの続きに戻ります。

画像を回転する

画像の回転情報を変更して再保存します。回転情報を変更した画像は、再生時にその向きで表示されます。

「▶再生1」メニューの「画像の自動回転」(p.156)を☑(オン)に設定すると、回転情報が付加された画像は再生時に回転して表示されます。

注意
- プロテクトされた画像は、回転情報を変更できません。
- 動画は回転表示できません。

1 1画像表示で回転する画像を選択し、十字キー(▼)を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー(▲▼◀▶)で◇(画像回転)を選び、OK ボタンを押す

選択した画像を90°ずつ回転させた画像が表示されます。

3 十字キー(▲▼◀▶)で回転方向を選択し、OK ボタンを押す

画像の回転情報が保存されます。

複数画像を消去する

複数の画像をまとめて消去します。消去した画像は復元できないので、注意してください。

☞画像を消去できないようにする（プロテクト）（p.200）

選択して消去する

複数の画像を選択し、一括して消去します。

- プロテクトされている画像は選択できません。
- 一度に選択できるのは、100枚までです。

1 1画像表示で電子ダイヤルを左（⊞）に回す

複数画像表示になります。

2 4画像表示／9画像表示／16画像表示／36画像表示にする

「複数画像を表示する」（p.158）を参照してください。

3 ϟUP/🗑ボタンを押す

消去画像を選択する画面になります。

4 消去する画像を選択する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
OKボタン	画像を選択／解除
電子ダイヤル	選択画像を1画像表示 十字キー（◀▶）で画像切り替え

5 ⚡UP/🗑ボタンを押す

消去の確認画面が表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「選択消去」を選び、OKボタンを押す

選択した画像が消去されます。

手順2で「フォルダー表示」に設定すると、フォルダーごと画像を消去することができます。フォルダー内にプロテクトした画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。「すべて消去」を選ぶと、プロテクトした画像も消去されます。

まとめて消去する

SDメモリーカードに保存されているすべての画像を消去します。

1 「▶ 再生 1」メニューの「全画像消去」を選択し、十字キー（▶）を押す

全画像消去の確認画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「全画像消去」を選び、OKボタンを押す

全画像が消去されます。
プロテクトされた画像があった場合は、確認画面が表示されます。十字キー（▲▼）ですべて消去／すべて残すを選び、**OK**ボタンを押します。「すべて消去」を選ぶと、プロテクトした画像も消去されます。

画像を加工する

記録サイズを変更する（リサイズ）

画像の記録サイズを変更して新規保存します。

注意
- リサイズできるのは、本機で撮影したJPEG画像のみです。
- 本機でリサイズした 0.3M ／ 0.2M の画像はリサイズできません。

1 1画像表示でリサイズする画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で （リサイズ）を選び、OK ボタンを押す

記録サイズを選択する画面が表示されます。

3 十字キー（◀▶）で記録サイズを選択し、OK ボタンを押す

元の画像より1つ小さいサイズから選択できます。選択できるサイズは、元の画像のサイズ・アスペクト比によって異なります。

4 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

リサイズされた画像が新規保存されます。

画像の一部を切り取る（トリミング）

画像の必要な部分だけを切り取って、新規保存します。

注意
- トリミングできるのは、本機で撮影したJPEG画像のみです。
- 本機でリサイズした 0.3M ／ 0.2M の画像はトリミングできません。

1 1画像表示でトリミングする画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で （トリミング）を選び、OK ボタンを押す

トリミング範囲を指定する画面が表示されます。

3 トリミングする大きさと範囲を指定する

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	トリミング範囲を移動
電子ダイヤル	トリミングサイズを変更
INFO ボタン →十字キー（▲▼◀▶）	アスペクト比変更 画像回転（最大±45°）
/Av ボタン	トリミング範囲を回転（回転可能なときのみ）

4 OK ボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

5 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

トリミングされた画像が新規保存されます。

デジタルフィルターで加工する

撮影した画像を、デジタルフィルターで加工します。
以下のフィルターが選択できます。

フィルター名	効果	パラメーター
モノトーン	白黒写真のような単色の画像に加工します。	フィルター効果：OFF／レッド／グリーン／ブルー／赤外調
		調色（B-A）：7段階
色抽出	特定の1色または2色だけを抽出し、他の部分を白黒に加工します。	抽出色 1：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色1の感度：1～5
		抽出色2：OFF ／レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		抽出色2の感度：1～5
トイカメラ	トイカメラで撮影したような画像に加工します。	シェーディング強度：OFF ／弱／中／強
		ぼかし：弱／中／強
		トーンブレイク：レッド／グリーン／ブルー／イエロー
レトロ	古い写真のような画像に加工します。	調色（B-A）：7段階
		縁取り：なし／細／中／太
ハイコントラスト	コントラストを強くします。	強度：1～5
シェーディング	周辺を暗くした画像に加工します。	シェーディングタイプ：4種類
		シェーディング強度：-3～+3
ネガポジ反転	画像を反転します。	OFF／ON
カラー	選択したカラーフィルターをかけた画像に加工します。	色：レッド／マゼンタ／ブルー／シアン／グリーン／イエロー
		濃淡：薄／中／濃
ドラマチックアート	独特なコントラストの画像に加工します。	弱／中／強
デッサン	鉛筆で下書きしたような画像に加工します。	コントラスト：低／中／高
		スクラッチ：OFF／ON
水彩画	絵の具で描いたような画像に加工します。	強度：弱／中／強
		彩度：OFF ／弱／中／強

フィルター名	効果	パラメーター
パステル	クレヨンで描いたような画像に加工します。	弱／中／強
ポスタリゼーション	画像の階調を落として手描きのような雰囲気を表現します。	強度：1～5
ミニチュア	画像のボケ具合を操作してミニチュア風の写真に加工します。	芯の位置：-3～+3
		幅：狭／中／広
		角度：横／縦／右上がり／右下がり
		ぼかし：弱／中／強
ソフト	全体をぼかしたようなやわらかい画像に加工します。	ソフトフォーカス：弱／中／強
		シャドーぼかし：OFF／ON
クロス	夜景や水面の光の輝きなど、ハイライト部に光条を表現し、キラキラした雰囲気を強調します。	個数：少／中／多
		大きさ：小／中／大
		角度：0／30／45／60°
フィッシュアイ	魚眼レンズで撮影したような画像に加工します。	弱／中／強
スリム	画像の縦横比を変更します。	-8～+8
ベースメイク	各パラメーターを調整し、お好みの画像に加工します。	明るさ：-8～+8
		彩度：-3～+3
		色相：-3～+3
		コントラスト：-3～+3
		シャープネス：-3～+3

デジタルフィルターで加工できるのは、本機で撮影したJPEG／RAW画像のみです。

1 1画像表示でデジタルフィルターを設定する画像を選択し、十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で （デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

フィルターを選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼◀▶）でフィルターを選択する

設定に応じて背景画像が変化します。
電子ダイヤルを回して画像を切り替えることもできます。
パラメーターを変更する必要がないときは、手順6に進みます。

4 INFOボタンを押す

パラメーターを調整する画面が表示されます。

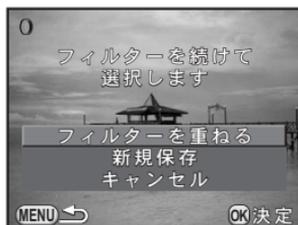
5 十字キー（▲▼）でパラメーターを選択し、十字キー（◀▶）で値を調整する

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）でフィルターを重ねる／新規保存を選択し、OKボタンを押す

続けて他のフィルターを重ねて指定する場合は「フィルターを重ねる」を選択します。手順3の画面に戻ります。

「新規保存」を選んだ場合は、フィルター処理された画像が新規保存されます。

フィルターは撮影時デジタルフィルター（p.144）も含めて、通算20回まで重ねることができます。

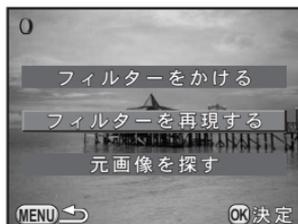
フィルターを再現する

デジタルフィルターを指定した画像の設定を呼び出し、他の画像に同じフィルターを適用します。

1 1画像表示でデジタルフィルターが設定された画像を選択する

2 再生モードパレットで（デジタルフィルター）を選び、OKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で「フィルターを再現する」を選び、OKボタンを押す

選択した画像に設定されているフィルターの履歴が表示されます。

4 詳細を確認する場合は INFO ボタンを押す

フィルターのパラメーターが確認できます。

MENU ボタンを押すと、元の画面に戻ります。

5 OK ボタンを押す

画像を選択する画面が表示されます。

6 電子ダイヤルでデジタルフィルターを設定する画像を選択し、OK ボタンを押す

フィルター処理されていない画像のみ選択できます。

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OK ボタンを押す

フィルターが適用された画像が保存されます。

メモ

p.170の手順3で「元画像を探す」を選択すると、デジタルフィルターを設定する前の画像を呼び出すことができます。元の画像がSDメモリーカード内に残っていない場合は、「フィルター処理前の画像が見つかりません」と表示されます。

複数画像を貼り付ける（インデックス）

複数の画像を1画面に貼り付けてインデックスプリントのように表示します。表示された画像は、新規保存することができます。貼り付ける画像を選択したり、ランダムに貼り付けることもできます。

1 1画像表示で十字キー（▼）を押す

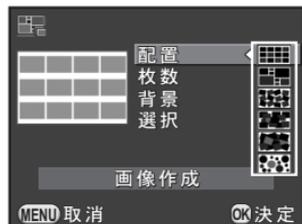
再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（インデックス）を選び、OKボタンを押す

インデックスの設定画面が表示されます。

3 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で配置の種類を選択してOKボタンを押す

（サムネイル）／（スクエア）／（ランダム1）／（ランダム2）／（ランダム3）／（バブル）が選択できます。

はファイルNo.の小さい順、それ以外はランダムに画像が配置されます。

4 十字キー（▲▼）で「枚数」を選び、十字キー（▶）を押す

5 十字キー（▲▼）で貼り付ける枚数を選択し、OKボタンを押す

12／24／36枚から選択します。

保存されている画像の数が選択した枚数より少ない場合、「配置」が（サムネイル）のときは空欄、それ以外のときは画像が重複して表示されます。

6 十字キー（▲▼）で「背景」を選び、十字キー（▶）を押す

7 十字キー（▲▼）で背景色を選択し、OKボタンを押す

白または黒を選択します。

8 十字キー（▲▼）で「選択」を選び、十字キー（▶）を押す

9 十字キー（▲▼）で画像の選択方法を選択し、OKボタンを押す

全画像	保存されているすべての画像から自動的に選択します。
手動	貼り付ける画像を1つずつ選択します。続けて「画像選択」を選び、貼り付ける画像を指定します。
フォルダー	指定したフォルダーから自動的に選択します。続けて「フォルダー選択」を選び、フォルダーを指定します。

10 十字キー（▲▼）で「画像作成」を選び、OKボタンを押す

インデックス画像が作成され、確認の画面が表示されます。

11 十字キー（▲▼）で保存／再シャッフルを選び、OKボタンを押す

保存	インデックス画像を 3:2・6M（3072×2048）・★★★ のファイルとして保存します。
再シャッフル	貼り付ける画像を選び直して、新たなインデックス画像を表示します。「配置」で ▦（サムネイル）を選択した場合は、表示されません。

保存が完了すると再生モードに戻り、インデックス画像が再生されます。

インデックス画像の作成は、処理に時間がかかることがあります。

RAW展開する

撮影したRAW画像をJPEG形式に変換して新規保存します。

RAW展開できるのは、本機で撮影したRAW画像のみです。他のカメラで撮影したRAW画像やJPEG画像はRAW展開できません。

1画像ずつRAW展開する

1 **1画像表示でRAW画像を選択し、十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）でRAW（RAW展開）を選び、OKボタンを押す**

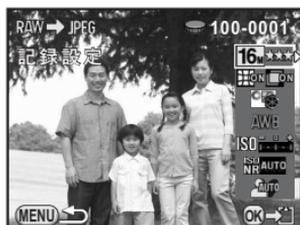
展開方法を選択する画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で「1 画像展開」を選び、OKボタンを押す**

画像に記録されているパラメーターが表示されます。

パラメーターを変更しない場合は、手順6に進みます。

4 **十字キー（▲▼）で変更したいパラメーターを選択する**

電子ダイヤルを回して画像を切り替えることもできます。

以下のパラメーターが変更できます。

パラメーター	値	参照
アスペクト比	16:9／3:2／4:3／1:1	p.126
JPEG記録サイズ *1	アスペクト比に対応したJPEG記録サイズ	p.128
JPEG画質	★★★／★★／★	p.129
色空間	sRGB／AdobeRGB	p.129
ディストーション補正 *2	オフ／オン	p.138
倍率色収差補正 *2	オフ／オン	
カスタムイメージ	鮮やか／ナチュラル／人物／風景／雅（MIYABI）／ポップチューン／ほのか／銀残し／リバーサルフィルム／モノトーン／クロスプロセス	p.140
ホワイトバランス	AWB／☼／☗／☁／D／N／W／L／☀／WB／CTE／☐	p.130
増減感	–2.0～+2.0	—
高感度NR	オフ／オート／弱／中／強	p.89
シャドー補正	オフ／オート／弱／中／強	p.134

*1「一括展開」時はLL／L／M／Sから選択します。（p.176）
*2 対応レンズを使用したときのみ選択できます。（p.232）

5 十字キー（◀▶）で値を変更する

カスタムイメージ／ホワイトバランスは、十字キー（▶）を押すと設定画面が表示されます。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

画像がRAW展開され、JPEG画像が新規保存されます。

8 十字キー（▲▼）で継続／終了を選び、OKボタンを押す

他の画像も展開する場合は、「継続」を選びます。手順4の画面に戻ります。

まとめてRAW展開する

複数の画像を同じ設定でRAW展開します。

1 p.174の手順3の画面で「一括展開」を選び、OKボタンを押す

4画像表示／9画像表示／16画像表示／36画像表示（直前に設定したいずれか）になります。

2 RAW展開する画像を選択する

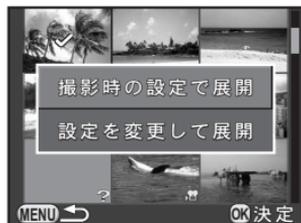
ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	選択枠を移動
OKボタン	画像を選択／解除
電子ダイヤル	選択画像を1画像表示 十字キー（◀▶）で画像切り替え

3 ☑/Avボタンを押す

展開の確認画面が表示されます。

4 十字キー（▲▼）で撮影時の設定で展開／設定を変更して展開を選択し、OKボタンを押す

パラメーターを変更する場合は､「設定を変更して展開」を選びます。

5 十字キー（▲▼◀▶）でJPEG記録サイズ／JPEG画質を設定する

JPEG記録サイズは、LL／L／M／Sから選択します。

手順4で「設定を変更して展開」を選択した場合は、p.175を参照してその他のパラメーターを変更してください。

6 OKボタンを押す

保存の確認画面が表示されます。

7 十字キー（▲▼）で「新規保存」を選び、OKボタンを押す

選択した画像がRAW展開され、JPEG画像が新規保存されます。

AV機器と接続する

ビデオ端子またはHDMI端子を備えたテレビなどと接続し、画像を再生することができます。

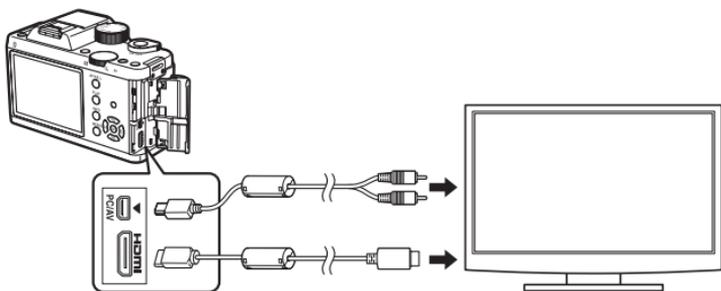
- 複数の映像入力端子があるAV機器で画像を見る場合は、ご使用の機器の使用説明書をご確認の上、カメラを接続する映像入力端子を選択してください。
- 長時間使用するときは、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）のご使用をお勧めします。（p.42）

ビデオ端子／HDMI端子に接続する

ビデオ端子またはHDMI端子を備えた機器に接続します。
接続する機器の端子によって、以下のケーブルを用意してください。

AV機器の端子	使用するケーブル
ビデオ端子	ビデオケーブル I-VC28（別売）／AVケーブル I-AVC7（別売）
HDMI端子	HDMI端子（タイプC）を備えたHDMIケーブル（市販品）

1　AV機器とカメラの電源を切る

2　カメラの端子カバーを開け、ケーブルをPC/AV出力端子または HDMI出力端子に接続する

3 **ケーブルのもう一方の端子を AV 機器の映像入力端子に接続する**

4 **AV機器とカメラの電源を入れる**

カメラがビデオモード／HDMIモードで起動し、AV機器にカメラの情報が表示されます。

注意
- ビデオ出力とHDMI出力を同時に行うことはできません。
- AV機器と接続中は、カメラで音量調節はできません。AV機器側で音量を調節してください。
- ビデオ出力では、音声はモノラルで再生されます。
- ビデオ出力は、AV機器の対応解像度にかかわらず、通常の解像度になります。ハイビジョンで出力する場合は、HDMI出力を利用するか、パソコンへ転送して再生してください。

出力方式を設定する

接続した端子に応じて、出力方式を設定します。
通常は初期設定の状態で使用できますが、うまく映らない場合は、設定を変更してください。

ビデオ出力方式を選択する

初期設定（p.50）で現在地を設定すると、その地域に合ったビデオ出力方式が設定されます。国や地域によっては、初期設定のビデオ出力方式では、うまく映らない場合があります。その場合は、設定を変更してください。

1 **「🔧詳細設定2」メニューの「外部接続」を選び、十字キー（▶）を押す**

「外部接続」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で「ビデオ出力」を選び、十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）でNTSC／PALを選択し、OKボタンを押す**

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

ビデオ出力方式は地域によって異なります。「ワールドタイム」（p.187）を✈（目的地）に切り替えると、その都市の出力方式に切り替わります。日本国内では、NTSC方式です。現在地／目的地で設定できる都市のビデオ出力方式は、「都市名一覧」（p.189）を参照してください。

HDMI出力方式を選択する

HDMI出力方式は、AV機器とカメラが対応する最大のサイズが自動選択されます。うまく映らない場合は、設定を変更してください。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「外部接続」を選び、十字キー（▶）を押す

「外部接続」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で「HDMI出力」を選び、十字キー（▶）を押す

3 十字キー（▲▼）で出力方式を選択し、OKボタンを押す

オート	AV機器とカメラが対応する最大のサイズを自動で選択します。（初期設定）
1080i	1920×1080i
720p	1280×720p
480p 576p	720×480p（ビデオ出力が「NTSC」のとき） 720×576p（ビデオ出力が「PAL」のとき）

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 1080i／720pでの出力は、カメラとは一部異なる画面デザインで表示されます。
- HDMI出力中に**MENU**ボタンを押すと「HDMI」メニューが表示され、以下の設定が変更できます。
  - HDMI出力
  - スライドショウ（p.160）
  - 白とび黒つぶれ警告（p.156）
  - 画像の自動回転（p.156）

HDMIケーブルが接続されているときは、再生モード専用となります。撮影を行うときは、HDMIケーブルを抜いてください。

7 その他の設定を変更する

その他の設定変更のしかたをご紹介します。

詳細設定メニューの操作

カメラの全般的な設定は「🔧詳細設定」メニューで指定します。

メニューの操作方法については、「メニューで設定する」（p.33）を参照してください。

詳細設定メニューの設定項目

「🔧詳細設定1～3」メニューでは、以下の設定を行います。
撮影または再生モードで**MENU**ボタンを押し、十字キー（◀▶）または電子ダイヤルで「🔧詳細設定1～3」メニューを表示します。

<table>
<tr><th>メニュー</th><th colspan="2">項目</th><th>機能</th><th>参照</th></tr>
<tr><td rowspan="7">🔧1</td><td colspan="2">Language/言語</td><td>メニューやメッセージを表示する言語を切り替えます。</td><td>p.190</td></tr>
<tr><td colspan="2">日時設定</td><td>年月日の表示形式と日時を設定します。</td><td>p.187</td></tr>
<tr><td colspan="2">ワールドタイム</td><td>現在地とは別に、指定した都市の日時を画像モニターに表示できるようにします。</td><td>p.187</td></tr>
<tr><td colspan="2">電子音</td><td>電子音の音量とオン／オフを切り替えます。</td><td>p.186</td></tr>
<tr><td colspan="2">画面表示</td><td>起動画面とガイド表示のオン／オフを切り替えます。</td><td>p.192</td></tr>
<tr><td colspan="2">LCD設定</td><td>画像モニターの明るさと色味を調整します。</td><td>p.192</td></tr>
<tr><td colspan="2">フリッカー低減</td><td>ご使用の地域の電源周波数を設定し、画面のちらつきを抑えます。</td><td>p.30</td></tr>
<tr><td rowspan="3">🔧2</td><td rowspan="3">外部接続</td><td>ビデオ出力</td><td>ビデオ端子を備えたAV機器と接続するときの出力方式を設定します。</td><td>p.179</td></tr>
<tr><td>HDMI出力</td><td>HDMI端子を備えたAV機器と接続するときに設定します。</td><td>p.180</td></tr>
<tr><td>USB接続</td><td>パソコンと接続するときの転送モードを設定します。</td><td>p.209</td></tr>
</table>

メニュー	項目	機能	参照
🔧2	フォルダー名	画像が保存されるフォルダー名の付け方を設定します。	p.201
	フォルダー新規作成	SDメモリーカードに新しいフォルダーを作成します。	p.201
	著作権情報	Exifに書き込む撮影者と著作権者の情報を設定します。	p.202
	エコモード	10秒間操作しなかったときに、画像モニターの明るさを暗くしてバッテリーの消耗を抑えます。	p.194
	オートパワーオフ	自動的に電源が切れるまでの時間を設定します。	
	リセット	設定内容を初期化します。	p.196
🔧3	ピクセルマッピング	CMOSセンサーの画素の欠損部分を補完します。	p.194
	ダストリムーバル	CMOSセンサーを振動させてクリーニングします。	p.237
	センサークリーニング	CMOSセンサーをブロアーでクリーニングするために、シャッターを開けた状態に固定します。	p.238
	フォーマット	SDメモリーカードをフォーマットします。	p.199
	バージョン情報	カメラのファームウェアのバージョンを表示します。	p.197

カメラの設定

音／日時／言語を設定する

電子音を設定する

カメラ操作時の電子音の音量とオン／オフを設定できます。
設定できる項目は以下のとおりです。

- 合焦音
- AE-L（AEロック時の操作音）
- セルフタイマー
- リモコン
- ワンタッチRAW+（⦿（緑／赤）ボタンに「ワンタッチRAW+」を割り当てているときの操作音）

1 「🔧詳細設定1」メニューの「電子音」を選び、十字キー（▶）を押す

「電子音」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で音量を設定する

6段階で設定できます。🔇（0）を選択すると、すべての項目の電子音が鳴りません。

3 十字キー（▲▼）で項目を選択し、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

日時の表示を変更する

初期設定で設定した日付と時刻や表示形式を変更します。

「🔧詳細設定1」メニューの「日時設定」で設定します。

☞日時を設定する（p.52）

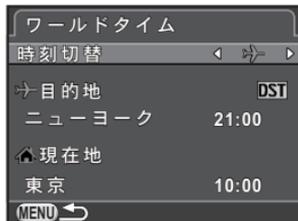
ワールドタイムを設定する

「初期設定をする」（p.50）で設定した日時は、現在地の日時として設定されます。
「ワールドタイム」で目的地を設定しておくと、海外で使用する際に画像モニターに目的地の都市の日時を表示できます。

1 「🔧詳細設定1」メニューの「ワールドタイム」を選び、十字キー（▶）を押す

「ワールドタイム」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で✈（目的地）／⌂（現在地）を切り替える

コントロールパネルに表示される日時は、この設定で切り替わります。

3 十字キー（▼）でカーソルを✈（目的地）に移動し、十字キー（▶）を押す

「✈目的地」画面が表示されます。

4 十字キー（◀▶）で目的地の都市名を選ぶ

電子ダイヤルを回すと、地図表示が切り替わります。

選択した都市の位置・時差・現在時刻が表示されます。

5 十字キー（▼）で「夏時間」を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

目的地が夏時間を採用している場合は、☑（オン）にします。

6 OKボタンを押す

目的地の設定が保存され、手順2の画面に戻ります。

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 目的地として指定できる都市については、「都市名一覧」（p.189）を参照してください。
- 手順3で⌂（現在地）を選択すると、現在地の都市や夏時間を設定できます。
- 時刻切替を✈（目的地）に設定すると、コントロールパネルに✈が表示されます。またビデオ出力方式（p.179）はその都市の初期設定に切り替わります。

● 都市名一覧

地域	都市名	ビデオ出力方式
北米	ホノルル	NTSC
	アンカレジ	NTSC
	バンクーバー	NTSC
	サンフランシスコ	NTSC
	ロサンゼルス	NTSC
	カルガリー	NTSC
	デンバー	NTSC
	シカゴ	NTSC
	マイアミ	NTSC
	トロント	NTSC
	ニューヨーク	NTSC
	ハリファックス	NTSC
中南米	メキシコシティ	NTSC
	リマ	NTSC
	サンティアゴ	NTSC
	カラカス	NTSC
	ブエノスアイレス	PAL
	サンパウロ	PAL
	リオデジャネイロ	NTSC
ヨーロッパ	リスボン	PAL
	マドリード	PAL
	ロンドン	PAL
	パリ	PAL
	アムステルダム	PAL
	ミラノ	PAL
	ローマ	PAL
	コペンハーゲン	PAL
	ベルリン	PAL
	プラハ	PAL
	ストックホルム	PAL
	ブダペスト	PAL
	ワルシャワ	PAL
	アテネ	PAL
	ヘルシンキ	PAL
	モスクワ	PAL
アフリカ・西アジア	ダカール	PAL
	アルジェ	PAL
	ヨハネスブルグ	PAL
アフリカ・西アジア	イスタンブール	PAL
	カイロ	PAL
	エルサレム	PAL
	ナイロビ	PAL
	ジッダ	PAL
	テヘラン	PAL
	ドバイ	PAL
	カラチ	PAL
	カブール	PAL
	マーレ	PAL
	デリー	PAL
	コロンボ	PAL
	カトマンズ	PAL
	ダッカ	PAL
東アジア	ヤンゴン	NTSC
	バンコク	PAL
	クアラルンプール	PAL
	ビエンチャン	PAL
	シンガポール	PAL
	プノンペン	PAL
	ホーチミン	PAL
	ジャカルタ	PAL
	香港	PAL
	北京	PAL
	上海	PAL
	マニラ	NTSC
	台北	NTSC
	ソウル	NTSC
	東京	NTSC
	グアム	NTSC
オセアニア	パース	PAL
	アデレード	PAL
	シドニー	PAL
	ヌーメア	PAL
	ウェリントン	PAL
	オークランド	PAL
	パゴパゴ	NTSC

表示言語を設定する

メニューやエラーメッセージなどを表示する言語を変更します。
「🔧詳細設定1」メニューの「Language/言語」で設定します。

☞言語を設定する （p.50）

画像モニター／メニュー表示を設定する

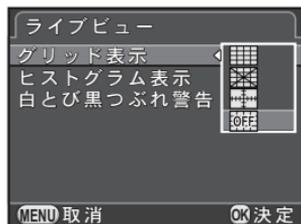
撮影待機画面の表示を設定する

撮影待機画面が標準情報表示／情報表示なしに設定されているときの画像モニターの表示を設定します。

1 「📷 撮影 3」メニューの「ライブビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

「ライブビュー」画面が表示されます。

2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）で「グリッド表示」の種類を選択してOKボタンを押す

▦（16分割）／⊠（黄金分割）／⊞（スケール）／OFF（初期設定）が選択できます。

3 十字キー（▲▼）でヒストグラム表示／白とび黒つぶれ警告を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

ヒストグラム表示	画像の明るさの分布をグラフで表示します。（p.28）
白とび黒つぶれ警告	白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。（p.29）

4 MENUボタンを2回押す

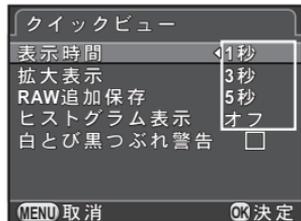
メニュー選択前の画面に戻ります。

クイックビューの表示を設定する

撮影直後に画像を再生するクイックビュー（p.57）の表示を設定します。

1 「撮影3」メニューの「クイックビュー」を選び、十字キー（▶）を押す

「クイックビュー」画面が表示されます。

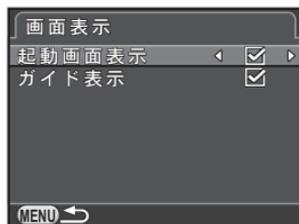
2 十字キー（▶）を押し、十字キー（▲▼）でクイックビューの表示時間を選択してOKボタンを押す

3 十字キー（▲▼）で拡大表示／RAW追加保存／ヒストグラム表示／白とび黒つぶれ警告を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

拡大表示	電子ダイヤルで拡大表示ができます。（p.157）
RAW追加保存	JPEG 形式で撮影した直前の画像のRAW画像が撮影バッファに残っているときに、☒/Avボタンを押してRAW画像を追加保存するかどうか設定します。（p.64）
ヒストグラム表示	画像の明るさの分布をグラフで表示します。（p.28）
白とび黒つぶれ警告	白とび部分を赤、黒つぶれ部分を黄色で点滅表示します。（p.29）

4 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

起動画面とガイド表示を設定する

起動画面と、撮影待機状態でモードダイヤルを回したときに表示されるガイド表示（p.75）を表示するかどうかを「🔧詳細設定1」メニューの「画面表示」で設定します。

画像モニターの明るさと色味を設定する

画像モニターの明るさと色味を調整します。

1 **「🔧 詳細設定 1」メニューの「LCD 設定」を選び、十字キー（▶）を押す**

「LCD設定」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で明るさ／色調整を選択する**

明るさ	明るさを調整します（-7～+7）
色調整（ブルー／アンバー）	ブルー－アンバー間の色味を調整します。（B7～A7）
色調整（グリーン／マゼンタ）	グリーン－マゼンタ間の色味を調整します。（G7～M7）

3 十字キー（◀▶）で調整する

ボタン・ダイヤル等の操作

◉（緑）ボタン	調整値をリセット
電子ダイヤル	撮影済み画像を背景に表示

4 OKボタンを押す

5 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

メニューの表示ページを設定する

MENUボタンを押してメニューを表示したときに最初に表示するページについて設定します。

1 「Cカスタム2」メニューの「14. メニュー選択の記憶」を選び、十字キー（▶）を押す

「14. メニュー選択の記憶」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で記憶しない／記憶するを選び、OKボタンを押す

1	記憶しない	常に「📷撮影1」（🎥モードのときは「🎥動画1」、再生モードのときは「▶再生1」）から表示する（初期設定）
2	記憶する	直前に選択したメニューのページを最初に表示する

3 MENUボタンを押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

バッテリーの消耗を抑える

一定時間操作しないときに、画像モニターを暗くしたり、自動的に電源が切れるように設定できます。

「詳細設定2」メニューのエコモード／オートパワーオフで設定します。

エコモード	撮影待機中にしばらく操作しなかったときに、画像モニターの明るさを暗くします。初期設定は☑（オン）です。いずれかのボタンを操作すると、元の明るさに戻ります。
オートパワーオフ	自動的に電源を切ります。電源が切れるまでの時間は、1分（初期設定）／3分／5分／オフから選択できます。 次のいずれかの操作で復帰します。 • 電源を入れ直す • シャッターボタンを半押しする • **PLAY**ボタン／**MENU**ボタン／**INFO**ボタンのいずれかを押す

- 動画撮影中とACアダプター接続中はエコモードには移行しません。
- スライドショウ再生中／USB接続中は、オートパワーオフは働きません。

センサー画素の欠けを補完する（ピクセルマッピング）

CMOSセンサーの画素に欠けがあった場合に補完処理を行います。
カメラにレンズを取り付けて実行してください。

1 「詳細設定3」メニューの「ピクセルマッピング」を選び、十字キー（▶）を押す

「ピクセルマッピング」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「ピクセルマッピング」を選び、OKボタンを押す

補完処理が行われ、メニュー選択前の画面に戻ります。

注意

- 補完処理は、30秒程の時間がかかります。
- バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキットK-AC1202J（別売）を使用するか、十分に充電したバッテリーを使用してください。

カメラに保存する設定を選択する（モードメモリ）

カメラの電源を切っても設定を記憶しておく機能を選択します。以下の機能について設定できます。

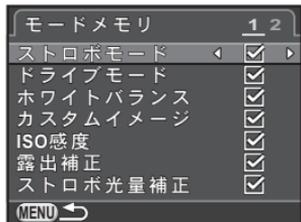
機能	初期設定
ストロボモード	☑
ドライブモード	☑
ホワイトバランス	☑
カスタムイメージ	☑
ISO感度	☑
露出補正	☑

機能	初期設定
ストロボ光量補正	☑
デジタルフィルター	□
HDR撮影	□
再生情報表示	☑
ファイルNo.	☑

1 「📷 撮影 3」メニューの「モードメモリ」を選び、十字キー（▶）を押す

「モードメモリ1」画面が表示されます。

2 十字キー（▲▼）で項目を選び、十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

電子ダイヤルで「モードメモリ2」画面に切り替えます。

☑	電源を切っても設定は記録されます。
□	電源を切ると、初期設定に戻ります。

3 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

- 「ファイルNo.」を☑（オン）にすると、フォルダーが新しくなってもファイル名の連番（4桁）が継続されます。

☑	前のフォルダーに最後に保存された画像のファイルNo.が記憶され、フォルダーが新しくなっても続きのファイルNo.になります。
□	画像を保存するフォルダーが新しくなるたびに、画像のファイルNo.が0001に戻ります。

- 「詳細設定2」メニューの「リセット」を実行すると、モードメモリの設定はすべて初期設定に戻ります。（p.196）

設定をリセットする

撮影／動画／再生／詳細設定メニューのリセット

「撮影」メニュー／「動画」メニュー／「再生」メニュー／「詳細設定」メニュー／ダイレクトキー／再生モードパレットの設定内容を初期設定に戻します。

1 「詳細設定2」メニューの「リセット」を選び、十字キー（▶）を押す

「リセット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「リセット」を選び、OKボタンを押す

設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

以下の設定はリセットされません。

- Language/言語
- 日時設定
- ワールドタイムの都市設定
- フリッカー低減
- ビデオ出力
- 「Cカスタム」メニュー

カスタムメニューのリセット

「C カスタム」メニューの設定内容をすべて初期設定に戻します。

1 **「C カスタム3」メニューの「カスタムのリセット」を選び、十字キー（▶）を押す**

「カスタムのリセット」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲）で「リセット」を選び、OK ボタンを押す**

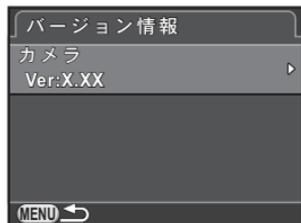
設定がリセットされ、メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラのバージョンを確認する

カメラ内のソフトウェア（ファームウェア）のバージョンを確認します。ファームウェアのアップデートファイルが公開された場合は、カメラをアップデートし、最新の状態にすることができます。

メモ　アップデートについての情報や詳しい手順は、当社ホームページをご確認ください。

1 **「詳細設定3」メニューの「バージョン情報」を選び、十字キー（▶）を押す**

「バージョン情報」画面に、カメラのファームウェアのバージョンが表示されます。
SD メモリーカード内にアップデートファイルがある場合は、このあとアップデートを実行することができます。

2 **MENU ボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

- アップデートしたカメラを元のバージョンに戻すことはできません。
- アップデートを実行する前に、SDメモリーカード内のデータをパソコンなどに保存しておいてください。
- バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためアップデートを行えません」と画像モニターに表示されます。ACアダプターキット K-AC1202J（別売）を使用するか、十分に充電したバッテリーを使用してください。

画像管理に関する設定

SDメモリーカードをフォーマットする

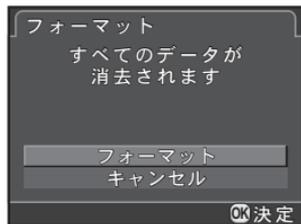
未使用または他の機器で使用したSDメモリーカードは、必ず本機でフォーマット（初期化）してからご使用ください。
フォーマットを行うと、SDメモリーカードに保存されていたすべてのデータが消去されます。

注意
- SDメモリーカードのフォーマット中は、絶対にカードを取り出さないでください。カードが破損して使用できなくなることがあります。
- フォーマットを行うと、プロテクトした画像も消去されます。ご注意ください。

1 「🔧詳細設定3」メニューの「フォーマット」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォーマット」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「フォーマット」を選び、OKボタンを押す

フォーマットが開始されます。
フォーマットが終わると、メニュー選択前の画面に戻ります。

フォーマットすると、SDメモリーカードに「K-01」というボリュームラベルが付きます。本機をパソコンに接続した場合、SDメモリーカードは「K-01」という名称のリムーバブルディスクとして認識されます。

画像を消去できないようにする（プロテクト）

画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）することができます。

> 注意
> プロテクトした画像も、SDメモリーカードをフォーマットすると消去されます。

1 **再生モードの1画像表示で十字キー（▼）を押す**

再生モードパレットが表示されます。

2 **十字キー（▲▼◀▶）でO┳（プロテクト）を選び、OKボタンを押す**

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 **十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す**

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。

4 **電子ダイヤルでプロテクトする画像を選択する**

5 **十字キー（▲）で「プロテクト」を選び、OKボタンを押す**

プロテクトを解除する場合は「解除」を選びます。

画像がプロテクトされ、画面右上にO┳が表示されます。

他の画像をプロテクトする場合は、手順4～5を繰り返します。

手順3で「全画像」を選択した場合は、再生モードに戻ります。

6 **MENUボタンを押す**

1画像表示に戻ります。

フォルダー名の付け方を選択する

本機で撮影を行うと、フォルダーが自動的に作成されて画像が格納されます。フォルダー名には、100～999の連番と5文字の文字列が付きます。フォルダー名の文字列は、「🔧詳細設定2」メニューの「フォルダー名」で設定できます。

日付	「xxx_MMDD」の形式で、画像を撮影した月／日が2桁表示でフォルダー名に付けられます。（初期設定） 「MMDD」（月日）の表示は、「日時設定」（p.52）の表示スタイルに準じます。 例）101_0125：1月25日に撮影した画像が保存されるフォルダー
PENTX	「xxxPENTX」の形式でフォルダー名が付けられます。 例）101PENTX

1つのフォルダーに保存される画像は最大で500枚です。撮影枚数が500枚を超えた場合は、新しいフォルダーが作成されて保存されます。ただし、露出ブラケット撮影のときは、500枚を超えても撮影が終了するまで同じフォルダーに保存されます。

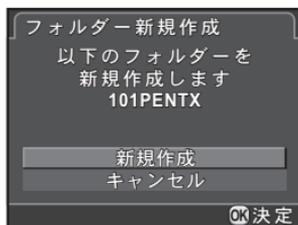
フォルダーを作成する

SDメモリーカードに新しくフォルダーを作成します。使用中フォルダーの次の番号のフォルダーを作成し、次回の撮影から新しいフォルダーに保存できます。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「フォルダー新規作成」を選び、十字キー（▶）を押す

「フォルダー新規作成」画面が表示されます。

2 十字キー（▲）で「新規作成」を選び、OKボタンを押す

新しい番号のフォルダーが作成されます。

この操作で作成されるフォルダーは1つのみです。空のフォルダーを続けて複数作成することはできません。

撮影者情報を設定する

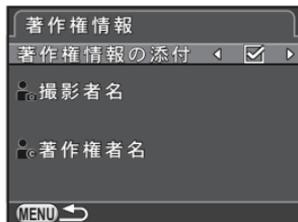
撮影した画像には、カメラの機種や撮影条件などの情報がExifというデータ形式で自動的に埋め込まれています。このExifに撮影者情報を書き込むことができます。

Exif情報は、付属のソフトウェア（p.211）などで確認できます。

1 「🔧詳細設定2」メニューの「著作権情報」を選び、十字キー（▶）を押す

「著作権情報」画面が表示されます。

2 十字キー（◀▶）で☑／□を切り替える

☑	著作権情報をExifに書き込む
□	著作権情報をExifに書き込まない（初期設定）

3 十字キー（▲▼）で「撮影者名」を選び、十字キー（▶）を押す

文字を入力する画面が表示されます。

4 文字を入力する

半角32文字までの英数字・記号が入力できます。

ボタン・ダイヤル等の操作

十字キー（▲▼◀▶）	文字選択カーソルを移動
電子ダイヤル	文字入力カーソルを移動
☒/Avボタン	大文字／小文字切り替え
OKボタン	文字選択カーソルが選択している文字を文字入力カーソルの位置に入力
⚡UP/🗑ボタン	文字入力カーソル位置の文字を消去

5 文字が全部入力できたら、文字選択カーソルを「確定」まで移動し、OKボタンを押す

「著作権情報」画面に戻ります。

6 十字キー（▲▼）で「著作権者名」を選び、「撮影者名」と同様に入力する

7 MENUボタンを2回押す

メニュー選択前の画面に戻ります。

DPOFを設定する

画像を記録したSDメモリーカードにDPOF（Digital Print Order Format）を設定することで、プリント枚数や日付印刷が指定できます。このSDメモリーカードをプリント取扱店に持っていくと、従来の写真のようにプリントが注文できます。

- RAW画像と動画は設定できません。
- DPOFが設定できるのは、最大で999画像です。

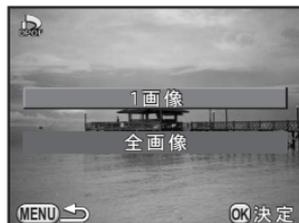
1 再生モードの1画像表示で十字キー（▼）を押す

再生モードパレットが表示されます。

2 十字キー（▲▼◀▶）で（DPOF）を選び、OKボタンを押す

設定方法を選択する画面が表示されます。

3 十字キー（▲▼）で1画像／全画像を選び、OKボタンを押す

「全画像」を選択した場合は、手順5に進みます。

4 電子ダイヤルで DPOF を設定する画像を選択する

5 十字キー（▲▼）でプリント枚数を指定する

99枚まで設定できます。

枚数を指定した画像には、画面右上にが表示されます。

DPOF設定を解除するときは、枚数を「00」に設定します。

6 INFOボタンで日付の☑／□を切り替える

☑	日付をプリントする
□	日付をプリントしない

他の画像も設定する場合は、手順4〜6を繰り返します。

7 OKボタンを押す

DPOF設定が保存され、再生モードに戻ります。

- プリンターやプリント取扱店の機器によっては、日付を ☑ にしても日付がプリントされないことがあります。
- 全画像設定では、すべての画像に同じプリント枚数が設定され、1画像ずつの設定は解除されます。プリントをする前に必ず、枚数の設定が正しいか確認してください。

8 パソコンと接続する

カメラとパソコンの接続方法や、付属ソフトウェアのインストール手順と概要を説明します。

画像をパソコンで利用するには

撮影した静止画・動画は、本機とパソコンをUSBケーブルで接続して転送したり、付属ソフトウェア「SILKYPIX Developer Studio」でRAW画像の展開ができます。
パソコンとの接続と付属ソフトウェアの使用には、以下のシステム環境が必要です。

● **Windows**

OS	Windows 7（32bit／64bit）／Windows Vista（32bit／64bit）／Windows XP（SP3以降、Home／Pro 32bit） • インストールには管理者権限が必要 • 64bit OS上では、32bitアプリケーションとして動作可能
CPU	Intel Pentium互換プロセッサ（Pentium 4／Athlon XP以上推奨） • マルチコア（Intel Core i7, i5／Core 2 Quad, Duo／AMD Phenom II X6, X4／Athlon II X4, X2等）対応
メモリ	1GB以上（2GB以上推奨）
HDD	プログラムのインストール、起動時：100MB以上の空き容量 画像ファイル保存：1ファイルあたり10MB程度
モニター	1024×768ドット、24bitフルカラー以上
その他	キーボード、マウス等の入力デバイス

● **Macintosh**

OS	Mac OS X 10.7／10.6／10.5
CPU	Intelプロセッサ対応／Power PC
メモリ	1GB以上（2GB以上推奨）
HDD	プログラムのインストール、起動時：100MB以上の空き容量 画像ファイル保存：1ファイルあたり10MB程度
モニター	1024×768ドット、24bitフルカラー以上
その他	キーボード、マウス等の入力デバイス

- 本機で撮影したRAW画像を展開するときは、付属ソフトウェアを使用してください。
- 本機で撮影した動画をパソコンで再生するときは、QuickTimeが必要です。QuickTimeは下記アドレスからダウンロードできます。
  http://www.apple.com/jp/quicktime/

画像をパソコンに保存する

転送モードを設定する

本機とパソコンを接続するときの転送モードを設定します。

1 **「🔧詳細設定2」メニューの「外部接続」を選び、十字キー（▶）を押す**

「外部接続」画面が表示されます。

2 **十字キー（▲▼）で「USB接続」を選び、十字キー（▶）を押す**

3 **十字キー（▲▼）でMSC／PTPを選択し、OKボタンを押す**

MSC	マスストレージクラス（初期設定） パソコンにUSB接続された機器を記憶装置として扱うための汎用のドライバープログラムです。
PTP	ピクチャートランスファープロトコル USBを通じてデジタル画像の転送やデジタルカメラの制御を行うためのプロトコルです。

特に指定がない限り、「MSC」を選択します。

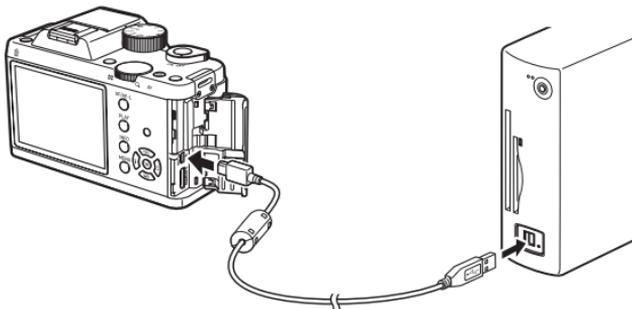
4 **MENUボタンを2回押す**

メニュー選択前の画面に戻ります。

カメラとパソコンを接続する

付属のUSBケーブル I-USB7を使用してパソコンと接続します。

1 パソコンの電源を入れる

2 カメラの電源を切り、USBケーブルでパソコンとカメラのPC/AV出力端子を接続する

3 カメラの電源を入れる

カメラは「K-01」というボリュームラベルで、リムーバブルディスクまたはSDメモリーカードとして認識されます。

カメラの電源を入れたときに「K-01」ダイアログが表示された場合は、ダイアログ内の「フォルダを開いてファイルを表示する エクスプローラ使用」を選択してOKボタンをクリックします。

4 カメラの画像をパソコンに保存する

画像ファイルまたはフォルダーをパソコンのハードディスクなどにコピーします。

5 カメラをパソコンから取り外す

パソコンと接続中は、カメラの操作はできません。撮影を行うときは、USBケーブルを抜いてください。

付属ソフトウェアを使用する

付属のCD-ROM（S-SW120）には、「SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX」が収録されています。SILKYPIX Developer Studioは、RAWファイルを展開（現像）して色調整などを行い、JPEGまたはTIFF形式で保存します。

ソフトウェアのインストール

付属のCD-ROMからソフトウェアをインストールします。
ご使用のOSで複数アカウントを設定している場合は、administrator（管理者）権限でログオンしてからインストールを始めてください。

1 パソコンの電源を入れる

他に起動しているソフトがあるときは、終了させます。

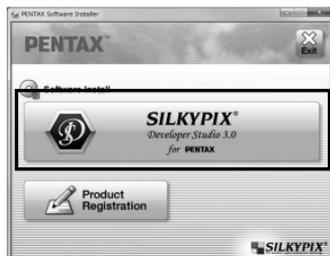
2 CD-ROMをパソコンのCD／DVDドライブにセットする

「PENTAX Software Installer」の画面が表示されます。

「PENTAX Software Installer」の画面が表示されない場合

- **Windows**
  1 スタートメニューから「マイコンピュータ」をクリックする
  2「CD／DVDドライブ(S-SW120)」のアイコンをダブルクリックする
  3「Setup.exe」のアイコンをダブルクリックする
- **Macintosh**
  1 デスクトップのCD／DVD（S-SW120）のアイコンをダブルクリックする
  2「PENTAX Installer」のアイコンをダブルクリックする

3 「SILKYPIX Developer Studio 3.0 for PENTAX」をクリックする

Macintoshの場合は、以降の操作は画面の指示に従ってください。

4 「設定言語の選択」画面で「日本語」を選択し、［OK］ボタンをクリックする

5 日本語の「InstallShield Wizard」画面が表示されたら、［次へ］ボタンをクリックする

以降の操作は画面の指示に従ってください。

ソフトウェアの詳しい使い方は、SILKYPIX Developer Studioを起動してヘルプを参照してください。

ユーザー登録のお願い

お客様へのサービス向上のため、お手数ですがユーザー登録にご協力ください。

p.212の手順3の画面で、「Product Registration」をクリックします。

右図のような地図画面が表示されたら、「Japan」をクリックしてください。パソコンがインターネットに接続できる環境にあれば、弊社ホームページのユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、登録をしてください。

ユーザー登録画面が表示されない場合は、下記アドレスから直接アクセスしてください。

https://service.pentax.jp/pentax/user

9 ストロボの活用

内蔵ストロボの詳細、および外付けストロボを使用した撮影方法をご紹介します。

内蔵ストロボの詳細

露出モードによるストロボ撮影の特徴

Tvモードでストロボを使用する

- 動きのあるものを撮影するときに、ぶれの効果を変えてストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的に絞り値が変化します。
- 1/180秒以下のシャッター速度を自由に選んでストロボ撮影ができます。

Avモードでストロボを使用する

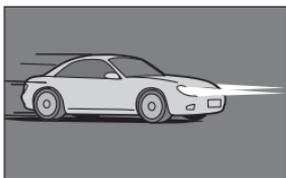
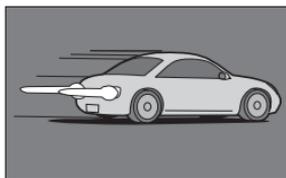
- ピントが合って見える範囲（被写界深度）を変えて撮影したいときや、より遠くのものを写したいときなどに、絞り値を自由に変えてストロボ撮影ができます。
- 周りの明るさに合わせて自動的にシャッター速度が変化します。
- シャッター速度は　1/180　秒から低速側はカメラぶれしにくいシャッター速度まで自動的に変化します（シャッター速度の低速限界は、レンズの焦点距離によって異なります）。DA・DA L・D FA・FA J・FA・Fレンズ以外のレンズを使用した場合は、シャッター速度は1/180秒固定です。

スローシンクロを利用する

夕景などを背景にして人物撮影をするときは、SCNモードの（夜景人物）や、Tvモードを使ってスローシンクロを行うと、人物も背景もきれいに撮影できます。P／Avモードのときは、ストロボモードのSLOW／SLOWが使用できます。

- スローシンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため「Shake Reduction」を（オン）に設定するか、（オフ）に設定してカメラを三脚などに固定してください。また、被写体が動いても、写真はぶれてしまいますので注意してください。
- スローシンクロは、外付けストロボでも同様に行うことができます。

後幕シンクロを利用する

後幕シンクロではシャッターが閉じる直前にストロボが発光します。動いている被写体などを低速で撮影する場合、ストロボの発光タイミングの違いにより、スローシンクロとは違う効果の写真になります。
たとえば、走っている車を後幕シンクロで撮影すると、シャッターが開いている間にライトの光跡などが露光され、ストロボ発光によって最後に車の姿を露光します。そのため、光跡が流れるような写真を撮影できます。

スローシンクロ
（先幕シンクロ）

後幕シンクロ

後幕シンクロ撮影では、シャッター速度が遅くなります。手ぶれを防ぐため「Shake Reduction」を（オン）に設定するか、（オフ）に設定してカメラを三脚などに固定してください。

内蔵ストロボ撮影時の距離と絞り

ストロボを使って撮影する場合、ストロボのガイドナンバーとカメラの絞り値、撮影距離の間には、一定の条件が必要です。
計算してみて光量が不足する場合、撮影条件を見直してください。

ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー	ISO感度	内蔵ストロボのガイドナンバー
ISO 100	約12	ISO 1600	約48
ISO 200	約17	ISO 3200	約68
ISO 400	約24	ISO 6400	約96
ISO 800	約34	ISO 12800	約136

使用絞りから撮影距離を算出する方法

絞り値が決まった場合、ストロボをどの距離まで使用できるかは、次の式で計算できます。

遠距離側の目安　距離L1＝ガイドナンバー÷絞り値
近距離側の目安　距離L2＝遠距離側目安÷5 *

*「5」という数値は、本機の内蔵ストロボを単独で使用した場合にのみ適用される数値です。

例）ISO感度がISO 200の場合、絞り値F5.6で使用すると、
L1＝17÷5.6＝約3（m）
L2＝3÷5＝約0.6（m）
すなわち、約0.6～3mの範囲でストロボが使用できます。
ただし、本機の内蔵ストロボは、0.7m以下の距離では使用できません。0.7mより近距離で撮影すると、ストロボ光のムラやケラレ、露出オーバーの原因となります。

撮影距離から使用絞りを算出する方法

撮影距離が決まっている場合は、次の式で絞り値を算出します。

絞り値F＝ガイドナンバー÷撮影距離

例）ISO感度がISO 200の場合、撮影距離4mで計算すると、
F＝17÷4＝約4.2
上記のように計算で出た数字が「4.2」のようにレンズの絞り値にない値になったときは、一般的に数字の小さい方で近い値、この例では「4.0」に設定します。

レンズと内蔵ストロボの適合

本機と組み合わせるレンズによっては、レンズフードなしで取り付けても、ケラレが発生するために内蔵ストロボが使用できなかったり、機能に制限がある場合があります。
下記の一覧表にないDA・DA L・D FA・FA J・FAレンズは、問題なく使用できます。
※一覧表はフードなしの評価です。

ケラレが発生するので使用不可

レンズ名
DA FISH-EYE 10-17mm F3.5-4.5ED (IF)
DA12-24mm F4ED AL
DA14mm F2.8ED (IF)
FA★300mm F2.8ED (IF)
FA★600mm F4ED (IF)
FA★250-600mm F5.6ED (IF)

条件付きで使用可能

レンズ名	制限
F FISH-EYE 17-28mm F3.5-4.5	焦点距離20mm未満ではケラレが発生することがあります。
DA16-45mm F4ED AL	焦点距離が28mm未満のとき、および焦点距離が28mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生することがあります。
DA★16-50mm F2.8ED AL (IF) SDM	焦点距離が35mm以下の場合と、50mmで撮影距離が1.5m未満ではケラレが発生します。
DA17-70mm F4AL (IF) SDM	焦点距離が24mm未満のとき、および焦点距離が35mmで撮影距離が1m以下のときは、ケラレが発生します。
DA18-250mm F3.5-6.3ED AL (IF)	焦点距離が35mm未満ではケラレが発生します。
FA★28-70mm F2.8AL	焦点距離が28mmで撮影距離が1m未満では、ケラレが発生することがあります。
FA SOFT 28mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。
FA SOFT 85mm F2.8	内蔵ストロボは常にフル発光になります。

外付けストロボ（別売）を利用する

別売の外付けストロボAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCを使用すると、P-TTLオートストロボ撮影が可能なほか、ストロボの機能に応じてさまざまなストロボ撮影ができます。

○：使用可
×：使用不可

ストロボ ＼ カメラの機能	内蔵ストロボ	AF540FGZ AF360FGZ	AF200FG AF160FC
赤目軽減機能	○	○	○
ストロボ自動発光	○	○	○
同調速度への自動切り替え	○	○	○
P ／**Tv** モードで絞り値自動セット	○	○	○
P-TTLオートストロボ撮影	○*1	○*1	○*1
スローシンクロ撮影	○	○	○
ストロボ光量補正	○	○	○
外付けストロボのAF補助光使用	×	○	×
後幕シンクロ撮影 *2	○	○	×
ハイスピードシンクロ撮影	×	○	×

*1 DA・DA L・D FA・FA J・FA・F・Aレンズを使用した場合のみ可
*2 シャッター速度は、1/90秒以下

極性が逆（ホットシューの中心の接点がマイナス）のストロボは使用できません。カメラやストロボが壊れるおそれがあります。

P-TTLで撮影する

AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FCと組み合わせた場合、「P-TTLオートストロボ」で撮影できます。

1 カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける

2 カメラと外付けストロボの電源を入れる

3 外付けストロボの発光モードを「P-TTL」に設定する

4 外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する

- P-TTL オートストロボ撮影は、AF540FGZ ／ AF360FGZ ／ AF200FG ／ AF160FCと組み合わせた場合のみ可能です。
- 操作のしかたや撮影できる距離など詳しい内容については、外付けストロボの使用説明書を参照してください。
- ストロボモードが⚡A／⚡A◉の場合は、撮りたいものが明るいと発光しませんので、日中シンクロ撮影では注意してください。
- カメラのホットシューにアクセサリーを取り付けた状態では、⚡UP/🗑ボタンを押しても内蔵ストロボはポップアップしません。

ハイスピードシンクロモードで使う

AF540FGZ／AF360FGZを使用すると、1/180秒より速いシャッター速度でも、ストロボを発光して撮影することができます。

1 **カメラのホットシューに付いているホットシューカバーを取り外し、外付けストロボを取り付ける**

2 **カメラのモードダイヤルをTv／Mに合わせる**

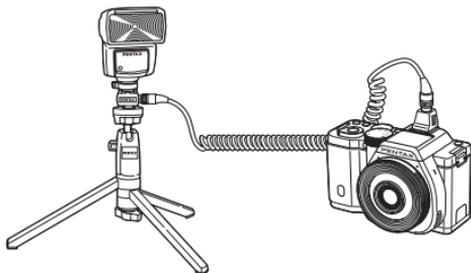
3 **カメラと外付けストロボの電源を入れる**

4 **外付けストロボのシンクロモードをHS⚡（ハイスピードシンクロ）に設定する**

5 **外付けストロボの充電完了を確認し、撮影する**

- シャッター速度が 1/180 秒を超えた場合のみハイスピードシンクロモードになります。
- **B** モードのときは、ハイスピードシンクロはできません。
- 内蔵ストロボでハイスピードシンクロは利用できません。

外付けストロボを延長コードで接続する

外付けストロボをカメラから離して使用する場合は、図のようにカメラのホットシュー部分にホットシューアダプター FG（別売）を、外付けストロボの下にオフカメラシューアダプター F（別売）を付け、延長コード F5P（別売）で接続します。オフカメラシューアダプター Fの下には三脚取り付け用のねじがあるので、三脚に固定することができます。

- ホットシューグリップなど接点数の異なるアクセサリーを組み合わせると、誤動作の原因となるので、使用しないでください。
- 他社製ストロボを組み合わせると、故障の原因になる場合があります。AF540FGZ／AF360FGZ／AF200FGの使用をお勧めします。

10 付録

初期設定一覧

工場出荷時の設定を表に示します。
カメラの電源を切っても、モードメモリ（p.195）で設定した機能は保存されます。

リセット設定
する　：リセット（p.196）で初期設定に戻る
しない：リセットしても設定が保存される

ダイレクトキー

項目	初期設定	リセット設定	参照
ISO感度	ISO AUTO （ISO 100～3200）	する	p.79
ホワイトバランス	**AWB**（オート）	する	p.130
ストロボモード	撮影モードによる	する	p.59
ドライブモード	□（1コマ撮影）	する	p.85 p.102 p.104 p.106

「撮影」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
カスタムイメージ		鮮やか	する	p.140
デジタルフィルター		フィルターオフ	する	p.144
HDR撮影	HDR撮影	オフ	する	p.135
	自動位置調整	☑（オン）	する	
記録設定	アスペクト比	3:2	する	p.126
	記録形式	JPEG	する	p.127
	JPEG記録サイズ	16M （4928×3264）	する	p.128
	JPEG画質	★★★（スーパーファイン）	する	p.129
	色空間	sRGB	する	p.129
測光方式		（分割）	する	p.88

項目		初期設定	リセット設定	参照
AF/MF設定	AF方式	（顔検出）	する	p.93
	AF時の自動拡大	□（オフ）	する	p.95
	AF補助投光	☑（オン）	する	p.92
	フォーカスアシスト	オフ	する	p.98
レンズ補正	ディストーション補正	オフ	する	p.138
	倍率色収差補正	オン	する	
多重露出	撮影回数	2回	する	p.111
	自動露出調整	□（オフ）	する	
インターバル撮影	撮影間隔	00:00'01"	する	p.108
	撮影枚数	2枚	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	
D-Range設定	ハイライト補正	オート	する	p.133
	シャドー補正	オート	する	p.134
高感度NR		オート	する	p.89
長秒時NR		オート	する	p.91
Shake Reduction		（オン）	する	p.100
焦点距離入力		35mm	する	p.234
ライブビュー	グリッド表示	（オフ）	する	p.190
	ヒストグラム表示	□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
クイックビュー	表示時間	1秒	する	p.191
	拡大表示	☑（オン）	する	
	RAW追加保存	☑（オン）	する	
	ヒストグラム表示	□（オフ）	する	
	白とび黒つぶれ警告	□（オフ）	する	
ボタンカスタマイズ	⦿（緑）	グリーンボタン	する	p.147
	⦿（赤）	動画記録	する	
	AF/AE-L（静止画）	AF作動1	する	p.152
	AF/AE-L（動画）	AF作動1	する	
	M/TAv時の動作	**P** LINE	する	p.151
	P時の電子ダイヤル	**P** SHIFT	する	p.150

項目			初期設定	リセット設定	参照
ボタンカスタマイズ	ワンタッチRAW+	撮影毎に解除	☑（オン）	する	p.149
		JPEG／RAW／RAW+からの記録形式	すべてRAW+	する	
モードメモリ	デジタルフィルター／HDR撮影		□（オフ）	する	p.195
	上記以外		☑（オン）	する	
GPS	キャリブレーション		—	—	p.244
	自動時刻修正		☑（オン）	する	

「動画」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
露出設定		**P**	する	p.113
記録設定	記録サイズ	FullHD（1920×1080、16:9）	する	
	フレームレート	30fps	する	
	画質	★★★	する	
録音レベル	内蔵マイク	3	する	
	外部マイク	5	する	
Movie SR		ON（オン）	する	
インターバル動画	撮影間隔	1秒間	する	p.119
	撮影所要時間	00:00'04"	する	
	開始トリガー	即時	する	
	撮影開始時刻	12：00AM／00：00	する	

再生モードパレット

項目	初期設定	リセット設定	参照
画像回転	—	—	p.162
デジタルフィルター	モノトーン	する	p.167
リサイズ	設定可能な最大値	—	p.165
トリミング	設定可能な最大値	—	p.166
インデックス	—	—	p.172
プロテクト	—	しない	p.200
スライドショウ	—	する	p.161
クロスプロセス登録	—	する	p.143
RAW展開	記録サイズ：16M 画質：★★★	する	p.174
動画編集	—	—	p.123
DPOF	—	しない	p.204

「▶再生」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
スライドショウ	表示間隔	3秒	する	p.160
	画面効果	OFF	する	
	繰返し再生	□（オフ）	する	
クイック拡大		オフ	する	p.156
白とび黒つぶれ警告		□（オフ）	する	
画像の自動回転		☑（オン）	する	
全画像消去		—	—	p.164

「🔧詳細設定」メニュー

項目		初期設定	リセット設定	参照
Language/言語		English	しない	p.190
日時設定		2012/01/01	しない	p.187
ワールドタイム	ワールドタイム設定	🏠（現在地）	する	p.187
	現在地（都市）	初期設定による	しない	
	現在地（夏時間）	初期設定による	しない	
	目的地（都市）	現在地と同じ	しない	
	目的地（夏時間）	現在地と同じ	しない	
電子音	音量	3	する	p.186
	設定	すべて☑（オン）		
画面表示	起動画面表示	☑（オン）	する	p.192
	ガイド表示	☑（オン）	する	
LCD設定		±0	する	p.192
フリッカー低減		50Hz	しない	p.30
外部接続	ビデオ出力	初期設定による	しない	p.179
	HDMI出力	オート	する	p.180
	USB接続	MSC	する	p.209
フォルダー名		日付	する	p.201
フォルダー新規作成		—	—	p.201
著作権情報	著作権情報の添付	□（オフ）	する	p.202
	撮影者名	—	しない	
	著作権者名	—	しない	
エコモード		☑（オン）	する	p.194
オートパワーオフ		1分	する	
リセット		—	—	p.196
ピクセルマッピング		—	—	p.194
ダストリムーバル	ダストリムーバル	—	—	p.237
	起動時の作動／終了時の作動	□（オフ）	する	
センサークリーニング		—	—	p.238
フォーマット		—	—	p.199
バージョン情報		—	—	p.197

「Cカスタム」メニュー

項目	初期設定	リセット設定	参照
1. 露出設定ステップ	1/3 EVステップ	する	p.84
2. ISO感度ステップ	1 EVステップ	する	p.80
3. 拡張感度	オフ	する	p.80
4. AFロック時のAE-L	オフ	する	p.87
5. 測距点と露出の関連付	オフ	する	p.88
6. ブラケット撮影順	0 – +	する	p.85
7. B時の撮影方法	Mode1	する	p.83
8. ストロボ発光時のWB	**AWB**	する	p.131
9. 白熱灯下のAWB	弱	する	—
10. AFの動作	フォーカス優先	する	p.93
11. リモコン時のAF	オフ	する	p.105
12. 充電中のレリーズ	オフ	する	p.63
13. 回転情報の記録	オン	する	p.156
14. メニュー選択の記憶	記憶しない	する	p.193
15. Shake Reductionの動作	Mode1	する	p.101
16. 絞りリングの使用	禁止	する	p.235
カスタムのリセット	—	—	p.197

各種レンズを組み合わせたときの機能

DA・DA L・FA Jレンズまたは絞り**A**位置があるレンズを絞り**A**位置で使用すると、カメラの撮影モードがすべて利用できます。
これ以外のレンズや絞りを**A**位置以外で使用する場合は、以下の制限があります。

○：絞りが**A**位置であれば、制限なく使用可
△：機能制限あり
×：使用不可

機能 ＼ レンズグループ［マウント名称］	DA DA L D FA	FA J FA *6	F *6	A	M P
	［KAF］ ［KAF2］ ［KAF3］	［KAF］ ［KAF2］	［KAF］	［KA］	［K］
オートフォーカス （レンズ単体使用） （AFアダプター 1.7×使用） *1	○ –	○ –	○ –	– △	– △
マニュアルフォーカス （フォーカスインジケーター表示の利用） *2	○	○	○	○	○
クイックシフトフォーカス	△ *5	×	×	×	×
測光方式（分割）	○	○	○	○	×
P モード	○	○	○	○	△ *8
Tv モード	○	○	○	○	△ *8
Av モード	○	○	○	○	△ *8
M モード	○	○	○	○	△
P-TTLオートストロボ *3	○	○	○	○	×
パワーズーム	–	×	–	–	–
レンズ焦点距離の自動取得	○	○	○	×	×
レンズ補正機能 *4	○	× *7	×	×	×

*1 レンズの開放F値がF 2.8、またはそれより明るいレンズで**A**位置でのみ使用可
*2 レンズの開放F値がF 5.6、またはそれより明るいレンズのみ使用可
*3 内蔵ストロボまたはAF540FGZ／AF360FGZ／AF200FG／AF160FC使用時
*4 「撮影1」メニューの「レンズ補正」で収差補正が可能。DA 10-17mm FISH EYE レンズは、「ディストーション補正」無効
*5 対応レンズのみ可

*6 FA・F SOFT 85mm F2.8／FA SOFT 28mm F2.8では「**C**カスタム3」メニューの「16.絞りリングの使用」で「許可」を設定した上で、手動絞りの範囲でのみ設定した絞り値で撮影可
*7 対応レンズ（FA 31mm F1.8 Limited／FA 43mm F1.9 Limited／FA 77mm F1.8 Limited）のみ可
*8 絞りは開放の**Av**自動露出（絞りリング無効）

レンズ名称とマウント名称について

DAレンズのうち超音波モーターを搭載したレンズと、FAズームレンズのうちパワーズームが可能なレンズのマウントはKAF2マウント（AFカプラーのないレンズはKAF3マウント）です。
FAの単焦点レンズ（ズームでないレンズ）と、超音波モーターを搭載していないDA・DA Lレンズ、D FA・FA J・FレンズのマウントはKAFマウントです。詳しくはレンズの使用説明書を参照してください。なお、本機にはパワーズーム機能はありません。

使用できないレンズ・アクセサリーについて

絞り**A**（オート）位置があるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、**A**位置のないレンズやオート接写リング、オートベローズなどのアクセサリーを取り付けた場合、「**C**カスタム3」メニューの「16. 絞りリングの使用」で「許可」を設定しない限り、カメラは作動しません。「絞りリングの使用を許可する」（p.235）を参照してください。

使用レンズと内蔵ストロボについて

絞り**A**（オート）位置があるレンズを絞り**A**位置以外で使用したり、Aレンズ以前のレンズやソフトレンズを使用した場合、内蔵ストロボは光量制御ができずに、常にフル発光となります。
オートストロボとしては使用できませんので、注意してください。

レンズ焦点距離を入力する

「Shake Reduction」は、レンズの焦点距離などの情報を取得して動作します。そのため、焦点距離が自動取得できないレンズを使用する場合は、手動で設定する必要があります。

1 「Shake Reduction」の設定が（オン）なっていることを確認し、電源を切る

「手ぶれ補正機能を使って撮影する」（p.100）を参照してください。

2 レンズを装着し、電源を入れる

「焦点距離入力」画面が表示されます。

3 電子ダイヤルでレンズ焦点距離を設定する

レンズ焦点距離は以下から選択します。（初期設定：35mm）

8	10	12	15	18	20	24	28	30	35
40	45	50	55	65	70	75	85	100	120
135	150	180	200	250	300	350	400	450	500
550	600	700	800						

- ご使用のレンズの焦点距離が上記にない場合は、最も近い値（例：17mmの場合は「18」、105mmの場合は「100」）を設定してください。
- ズームレンズを使用している場合も同様に、ズーム撮影時の実際の焦点距離を設定してください。

4 OKボタンを押す

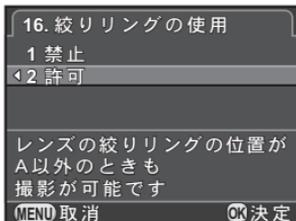
撮影できる状態になります。

- レンズ焦点距離の設定を変更する場合は、「撮影2」メニューの「焦点距離入力」で設定します。
- 絞り**A**位置がないレンズの場合または絞りを**A**位置から外して使用する場合は、「**C**カスタム3」メニューの「16. 絞りリングの使用」を「許可」に設定してください。（p.235）

絞りリングの使用を許可する

D FA・FA・F・Aレンズで絞りを **A**（オート）位置以外にしたり、**A** 位置のないレンズでも、撮影ができるようにします。

1 「Cカスタム3」メニューの「16. 絞りリングの使用」で「許可」を選択する

16. 絞りリングの使用
1 禁止
2 許可
レンズの絞りリングの位置が
A以外のときも
撮影が可能です
MENU 取消　OK 決定

この場合、次の制約があります。

<table>
<tr><th>使用レンズ</th><th>撮影モード</th><th>制約</th></tr>
<tr><td>D FA・FA・F・A・M（レンズ単体、オート接写リングKなどの自動絞り機能のアクセサリーと組み合わせた場合）</td><td>Av</td><td>絞りリングを操作しても、絞りは開放のままになります。レンズの開放絞りに連動してシャッター速度は変化しますが、露出の誤差が生じることがあります。絞り値は[F--]と表示されます。</td></tr>
<tr><td>D FA・FA・F・A・M・S（接写リングKなどの絞り込み機能のアクセサリーと組み合わせた場合）</td><td>Av</td><td rowspan="2">設定した絞り値で撮影されますが、露出の誤差が生じることがあります。絞り値は[F--]と表示されます。</td></tr>
<tr><td>レフレックスレンズなどの手動絞りのレンズ（レンズ単体）</td><td>Av</td></tr>
<tr><td>FA・F SOFT 85mm／FA SOFT 28mm（レンズ単体）</td><td>Av</td><td>手動絞りの範囲でのみ、設定した絞り値で撮影されます。絞り値は[F--]と表示されます。
被写界深度確認操作（光学プレビュー）を行うと露出の確認ができます。</td></tr>
<tr><td>すべてのレンズ</td><td>M</td><td>設定した絞り値とシャッター速度で撮影されます。絞り値は[F--]と表示されます。
被写界深度確認操作（光学プレビュー）を行うと露出の確認ができます。</td></tr>
</table>

絞りを**A**位置以外にセットした場合、**M**／🎥モード以外はモードダイヤルの位置にかかわらず、**Av**モードで動作します。

CMOSセンサーのクリーニング

CMOSセンサーに汚れやほこりが付着していると、背景が白いものなど撮影条件によっては画像に影が写り込むことがあります。そのような場合には、CMOSセンサーのクリーニングが必要です。

CMOSセンサーを振動させてほこりを落とす（ダストリムーバル）

CMOSセンサーを振動させて付着したゴミを落とします。

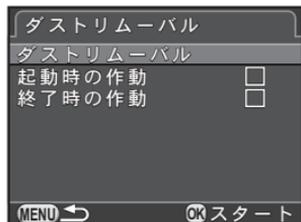
1 **「🔧詳細設定3」メニューの「ダストリムーバル」を選び、十字キー（▶）を押す**

「ダストリムーバル」画面が表示されます。

2 **OKボタンを押す**

CMOSセンサーが駆動し、ダストリムーバル機能が作動します。

電源のON／OFF時に毎回ダストリムーバルを作動させたい場合は、起動時の作動／終了時の作動を☑にします。

ダストリムーバルが終了すると、「🔧詳細設定3」メニューに戻ります。

注意
ブロアーで清掃する場合は、ブラシが付いていないものを使用してください。ブラシを使用するとCMOSセンサーが傷つくことがあります。また、CMOSセンサーは絶対に布で拭かないでください。

ブロアーでほこりを落とす

ブロアーでクリーニングするためにシャッターを開けた状態にします。CMOSセンサーは精密部品ですので、できるだけ当社の修理センターまたは、お客様窓口にご用命ください。有料にて清掃を請け賜っております。

- センサークリーニング中はセルフタイマーランプが点滅します。
- このカメラは手ぶれ補正機能に対応した CMOS センサーを使用しているので、センサークリーニング中にCMOSセンサーが振動する音がしますが、故障ではありません。

注意

- スプレー式のブロアーは使用しないでください。
- モードダイヤルを**B**にしてセンサークリーニングを行わないでください。
- カメラにレンズを装着しないときは必ずレンズマウント部にキャップを取り付け、CMOSセンサーに汚れやほこりが付着しないようにしてください。
- バッテリーの容量が少ない場合、「電池容量がたりないためクリーニングを行えません」と画像モニターに表示されます。
- クリーニングをするときは、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）のご使用をお勧めします。ACアダプターキットを使用しない場合は、容量が十分に残っているバッテリーを使用してください。クリーニングの途中でバッテリーの容量が少なくなると、セルフタイマーランプが速い点滅になります。その場合は、すぐにクリーニング作業を中止してください。
- クリーニングをするときは、ブロアーの先端をレンズマウント面より中に入れないでください。万一電源が切れた場合、シャッター機構部やCMOSセンサー部を破損するおそれがあります。

1 カメラの電源を切り、レンズを取り外す

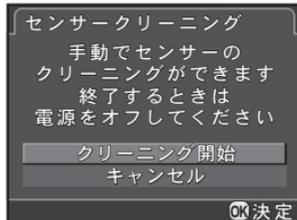
2 カメラの電源を入れる

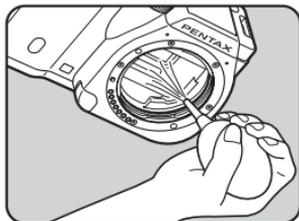
3 「詳細設定3」メニューの「センサークリーニング」を選び、十字キー（▶）を押す

「センサークリーニング」画面が表示されます。

4 十字キー（▲）で「クリーニング開始」を選び、OKボタンを押す

シャッターが開いた状態に固定されます。

センサークリーニング
手動でセンサーの
クリーニングができます
終了するときは
電源をオフしてください
クリーニング開始
キャンセル
OK 決定

5 CMOSセンサーをクリーニングする

CMOSセンサーに付着している汚れやほこりは、ブラシが付いていないブロアーで落としてください。ブラシ付きのブロアーを使用すると、CMOSセンサーがブラシで傷つくことがあります。また、絶対にCMOSセンサーを布で拭かないでください。

6 カメラの電源を切る

シャッターが閉じます。

7 レンズまたはボディマウントカバーを取り付ける

別売アクセサリー

本機には、各種専用アクセサリーが用意されています。アクセサリーの詳細については、当社のお客様相談センター、またはお客様窓口にお問い合わせください。
（※）の製品は同梱品と同じものです。

電源関連

バッテリー充電器キット K-BC90PJ（※）
（バッテリー充電器D-BC90P・ACコードD-CO2Jのセット）

充電式リチウムイオンバッテリー D-LI90P（※）

ACアダプターキット K-AC1202J
（ACアダプター D-AC120・DCカプラー D-DC120・ACコードD-CO2Jのセット）
家庭用電源からカメラへ電源を供給します。

ACアダプター／バッテリー充電器は、それぞれキットでの販売となります。

ストロボ関連

オートストロボ AF540FGZ／オートストロボ AF360FGZ
AF540FGZはガイドナンバー最大値が約54（ISO 100・m）、AF360FGZはガイドナンバー最大値が約36（ISO 100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。

AF540FGZ

AF360FGZ

オートストロボ AF200FG
ガイドナンバー最大値が約20（ISO 100・m）のP-TTL対応のオートストロボです。

AF200FG

オートマクロストロボ AF160FC
近接撮影用のストロボシステムで、小さな被写体の無影撮影などができます。従来のTTLオートストロボ機能にも対応し、同梱のアダプターリングと組み合わせて、幅広くペンタックス製品に利用できます。

AF160FC

ホットシューアダプター FG

延長コード F5P

ホットシューアダプター FG

オフカメラシューアダプター F
外付けストロボをカメラから離して使用するときのアダプターと接続コードです。

オフカメラシューアダプター F

オフカメラシュークリップ CL-10
AF540FGZ／AF360FGZを机やスタンドなどに固定するための大型クリップです。

オフカメラシュークリップ CL-10

リモートコントロール

リモコン撮影に使用します。

リモコン操作可能距離
　カメラ正面：約4m

リモートコントロール F

防水リモートコントロール O-RC1

GPSユニット O-GPS1

カメラのホットシューに装着することで、緯度・経度・高度・方位・協定世界時を画像に記録することができます。（p.244）

カメラストラップ

カメラストラップ O-ST120（※）

ハンドストラップ O-ST991

フリーレングスストラップ O-ST842

その他

ボディマウントキャップ K

ホットシューカバー FK（※）

USBケーブル I-USB7（※）

ビデオケーブル I-VC28

AVケーブル I-AVC7

GPSユニットを利用する

本機にGPSユニット O-GPS1を装着すると、以下の機能が使用できます。

電子コンパス	撮影待機中に現在地の緯度・経度・高度とカメラの向き（方位）を表示します。
自動時刻修正	GPS衛星から取得した情報を利用して、カメラの日時設定を自動的に補正します。

- GPSユニットの取り付け方や機能の詳細は、GPSユニットの使用説明書を参照してください。
- 「電子コンパス」は、撮影待機中に**INFO**ボタンを2回押して表示情報を選択する画面で「電子コンパス」を選択すると表示できます。シャッターボタンを半押しすると「標準情報表示」に戻るため、再度表示するときは**INFO**ボタンを押して選択し直してください。（p.22）

K-01では、直線ナビ／アストロトレーサーは使用できません。

エラーメッセージ

エラーメッセージ	内容
カードの空き容量がありません	SDメモリーカードの容量いっぱいに画像が保存されていて、これ以上画像を保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.45、p.163） 記録設定を変更すると、保存できる可能性があります。（p.126）
画像がありません	SDメモリーカードに再生できる画像が保存されていません。
この画像を表示できません	本機では再生できない画像を再生しようとしています。他社のカメラやパソコンでは表示できる場合があります。
カードが入っていません	カメラにSDメモリーカードがセットされていません。（p.45）
カードが異常です	SDメモリーカードの異常で、撮影／再生ともにできません。パソコンでは表示できる場合もありますが、カメラでは使用できません。
カードがフォーマットされていません	フォーマットされていないSDメモリーカードがセットされているか、他の機器でフォーマットされたSDメモリーカードがセットされています。カメラでフォーマットしてからお使いください。（p.199）
カードがロックされています	ライトプロテクトスイッチがロックされたSDメモリーカードがセットされています。SDメモリーカードのロックを外してください。
この画像を拡大表示できません	拡大不可能な画像を拡大表示しようとしています。
この画像はプロテクトされています	消去しようとしている画像がプロテクトされています。画像のプロテクトを外してください。（p.200）
電池容量がたりないためピクセルマッピングを行えません	ピクセルマッピング時にバッテリー容量が不足している場合に表示されます。十分に充電したバッテリーと交換するか、ACアダプターキットK-AC1202J（別売）を使用してください。（p.42）
電池容量がたりないためクリーニングを行えません	センサークリーニング時にバッテリー容量が不足している場合に表示されます。十分に充電したバッテリーと交換するか、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）を使用してください。（p.42）

エラーメッセージ	内容
電池容量がたりないため アップデートを行えません	アップデート時にバッテリー容量が不足している場合に表示されます。十分に充電したバッテリーと交換するか、ACアダプターキットK-AC1202J（別売）を使用してください。（p.42）
ファイルが壊れているため アップデートを行えません	アップデートファイルが壊れているためアップデートが実行できません。アップデートファイルを再度ダウンロードしてください。（p.197）
フォルダーが作成できません	最大のフォルダーNo.（999）／ファイルNo.（9999）が使用されているため、画像が保存できません。新しいSDメモリーカードをセットするか、SDメモリーカードをフォーマットしてください。（p.199）
画像を保存 できませんでした	SDメモリーカードの異常で、撮影した画像が保存できませんでした。
設定を正しく 保存できませんでした	SDメモリーカードが容量いっぱいまで使用されていて、DPOF設定が保存できません。不要な画像を消去して、再度DPOF設定をしてください。（p.163）
正しく処理できませんでした	マニュアルホワイトバランス測定（p.132）／HDR撮影（p.135）に失敗しました。もう一度やり直してください。
これ以上 選択できません	インデックス（p.172）／選択消去（p.163）処理は、上限枚数（100枚）以上は選択できません。
処理できる 画像がありません	デジタルフィルター（p.167）を適用できる画像、またはRAW展開（p.174）できる画像がありません。
この画像を処理できません	他のカメラで撮影した画像に対してリサイズ（p.165）／トリミング（p.166）／デジタルフィルター（p.167）／RAW展開（p.174）を実行した場合、または最小サイズの画像に対してリサイズ／トリミングを実行した場合に表示されます。
画像の作成に 失敗しました	インデックスで画像の作成に失敗しました。（p.172）
このモードでは 設定することができません	**AUTO**／**SCN**／モードのときに、設定できない機能を設定しようとしています。
カメラが高温になりました 電源をオフします	カメラ内部が高温になったため、電源がオフになります。しばらくしてから電源を入れてください。

困ったときは

静電気などの影響により、まれにカメラが正しい動作をしなくなることがあります。このような場合には、バッテリーを入れ直してみてください。カメラが正常に動作すれば故障ではありませんので、そのままお使いいただけます。
修理を依頼する前にもう一度、次の点をご確認ください。

現象	原因	対処方法
電源が入らない	バッテリーが入っていない	バッテリーが入っているか確認し、入っていなければ入れてください。
	バッテリーの残量がない	充電したバッテリーに交換するか、ACアダプターキット K-AC1202J（別売）を使用してください。（p.42）
シャッターがきれない	内蔵ストロボが充電中	ストロボの充電中は、赤の⚡が点滅表示します。充電が完了するまで待ってください。
	SDメモリーカードに空き容量がない	空き容量があるSDメモリーカードをセットするか、不要な画像を消去してください。（p.45、p.163）
	書き込み中	書き込みが終了するまで待ってください。
	レンズの絞りが**A**位置以外になっている	絞りを**A**位置にするか、「**C**カスタム3」メニューの「16. 絞りリングの使用」で「許可」を選択してください。（p.235）
ピントが合わない	オートフォーカスの苦手なものを撮影しようとしている	コントラストの低いもの（青空や白壁など）、暗いもの、細かい模様のもの、速く動いているもの、窓やネット越しの風景などは、オートフォーカスが苦手なものです。いったん撮りたいものと同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。またはマニュアルフォーカスを使用してください。（p.98）

現象	原因	対処方法
ピントが合わない	AF領域に被写体が入っていない	画像モニターのAF領域に、ピントを合わせたいものを入れてください。撮りたいものが、 AF領域にない場合は、いったん撮りたいものをAF領域に入れて、ピントを固定したまま、撮りたい構図に変えてシャッターをきります。(p.97)
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影してください。
	フォーカスモードが**MF**になっている	フォーカスモードレバーを**AF**にしてください。(p.92)
AEロックできない	**B**モードになっている	**B**モードではAEロックは使用できません。
内蔵ストロボが発光しない	ストロボモードが⚡A/⚡A◉になっているときは、被写体が明るいとストロボは発光しません	ストロボモードを⚡(手動発光)または⚡◉(手動発光+赤目軽減)に設定してください。(p.59)
	⚡̸モードになっている	モードダイヤルを⚡̸(ストロボオフ)以外に合わせてください。
	SCNモードの夕景/青空/夜景/夜景HDR/逆光シルエット/キャンドルライト/ステージライト/美術館を選択している	SCNモードの夕景(夕景)/青空(青空)/夜景(夜景)/夜景HDR(夜景HDR)/逆光シルエット(逆光シルエット)/キャンドルライト(キャンドルライト)/ステージライト(ステージライト)/美術館(美術館)以外を選択してください。(p.77)
パワーズームができない	本機はパワーズームに対応していません	マニュアルズームを使用してください。
パソコンとUSB接続ができない	転送モードが「PTP」になっている	「🔧詳細設定2」メニューの「外部接続」の「USB接続」を「MSC」に切り替えてください。(p.209)

現象	原因	対処方法
手ぶれ補正が効かない	手ぶれ補正機能がオフになっている	「Shake Reduction」を（オン）に設定してください。（p.100）
	レンズ焦点距離が設定されていない	レンズ焦点距離の情報が取得できないレンズを使用している場合は、「焦点距離入力」画面でレンズ焦点距離を設定してください。（p.234）
	流し撮りや夜景撮影などシャッター速度が遅くなる条件で、手ぶれ補正機能の補正範囲を超えている	手ぶれ補正機能の補正範囲を超える場合は、「Shake Reduction」を（オフ）にして、三脚などを使用してください。
	被写体が近すぎる	撮りたいものから離れて撮影するか、「Shake Reduction」を（オフ）にして、三脚などを使用してください。

主な仕様

型式

型式	レンズ交換式デジタル一眼カメラ
レンズマウント	ペンタックスバヨネットKAF2マウント（AFカプラー・情報接点・電源接点付き）
使用レンズ	KAF3、KAF2（パワーズーム非対応）、KAF、KAマウントレンズ

撮像部

撮像素子	種類：原色フィルター／CMOS、サイズ：23.7×15.7mm
有効画素数	約1628万画素
総画素数	約1649万画素
ダストリムーバル	撮像素子駆動およびSPコーティング
感度（標準出力感度）	ISO AUTO 100～12800（1 EVステップ、1/2 EVステップまたは1/3 EVステップ）、カスタム設定により拡張ISO 100～25600使用可能
手振れ補正	撮像素子シフト方式

記録形式

画像ファイル形式	RAW（DNG）、JPEG（Exif 2.3）準拠、DCF 2.0準拠
記録サイズ（画素数）	JPEG：3:2 16M（4928×3264） 12M（4224×2816） 8M（3456×2304） 5M（2688×1792） 4:3 14M（4352×3264） 11M（3840×2880） 7M（3072×2304） 4M（2304×1728） 16:9 13M（4928×2776） 10M（4224×2376） 6M（3456×1944） 4M（2688×1512） 1:1 10M（3264×3264） 8M（2880×2880） 5M（2304×2304） 3M（1728×1728） RAW：3:2 16M（4928×3264）
画質	RAW：DNG（12bit） JPEG：★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー） RAWとJPEGの同時記録可能
色空間	sRGB、AdobeRGB
記録媒体	SD、SDHC、SDXCメモリーカード
記録フォルダー	日付（100_1018、100_1019・・・）／ PENTX（100PENTX、101PENTX・・・）

画像モニター

形式	TFTカラー LCD、広視野角タイプ
イメージサイズ	3.0型
ドット数	約92.1万ドット
調整	明るさ調整、色調整
表示	視野率約100%、グリッド表示（16分割表示、黄金分割表示、スケール表示）、白とび黒つぶれ警告表示、ヒストグラム表示

ホワイトバランス

オート	撮像素子によるTTL方式
プリセット	太陽光、日陰、曇天、蛍光灯（**D**：昼光色、**N**：昼白色、**W**：白色、**L**：電球色）、白熱灯、ストロボ、**CTE**、マニュアル
マニュアル	モニター確認による設定
微調整	A-B軸、G-M軸で±7ステップで調整可

フォーカス

方式	コントラスト検出式
輝度範囲	EV 1～18 （ISO 100 50mm/F 1.4レンズ使用時）
フォーカスモード	AF／MF切り替え式
AF方式	顔検出、追尾、セレクト、スポット
AF補助光	専用LEDによるAF補助光
フォーカス補助	AF時の自動拡大（オフ／×2／×4／×6）、フォーカスアシスト MF時**OK**ボタンで拡大表示可

露出制御

測光方式	TTL撮像センサー測光、分割／中央重点／スポット
露出範囲	EV -1～21 （ISO 100 50mm/F 1.4レンズ使用時）
露出モード	オートピクチャーモード （標準、人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、夜景、青空、フォレストを自動選択） シーンモード（人物、風景、マクロ、動体、夜景人物、夕景、青空、フォレスト、夜景、夜景HDR、ナイトスナップ、料理、ペット、キッズ、サーフ＆スノー、逆光シルエット、キャンドルライト、ステージライト、美術館） プログラム、シャッター優先、絞り優先、マニュアル、バルブ、HDR（±1EV、±2EV、±3EV切り替え可） ※夜景HDR、HDRはJPEG固定
露出補正	± 3 EV
AEロック	メニューにて**AF**/**AE-L**ボタンに割り当て可能
シャッター	オート：1/4000秒～30秒、マニュアル：1/4000秒～30秒、バルブ

ドライブ

ドライブモード	1コマ、連続（Hi、Lo）、セルフタイマー（12秒後、2秒後）、リモコン（即、3秒後）、オートブラケット（3コマ）
連続撮影	約6コマ/秒（JPEG、連続Hi時） 約3コマ/秒（JPEG、連続Lo時）

ストロボ

内蔵ストロボ	オートポップアップ機能付きP-TTL内蔵ストロボ、ガイドナンバー約12（ISO 100・m）、28mmレンズの画角（35ミリ判換算）をカバー
発光方式	P-TTL、赤目軽減、スローシンクロ、後幕シンクロ （対応外付けストロボにおいて）ハイスピードシンクロ
シンクロ同調速度	1/180秒
ストロボ光量補正	-2.0～+1.0 EV

撮影機能

カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ポップチューン、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン、クロスプロセス
ノイズリダクション	高感度NR、長秒時NR
ダイナミックレンジ設定	ハイライト補正、シャドー補正
レンズ収差補正	ディストーション補正、倍率色収差補正
デジタルフィルター	色抽出、トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、シェーディング、ネガポジ反転、カラー
HDR撮影	オート、Type1、Type2、Type3、自動位置ズレ補正可
多重露出	撮影回数2～9回、自動露出調整
インターバル	撮影間隔（1秒～24時間）、最大撮影枚数999枚、開始トリガー（即時、時刻指定）

動画

ファイル形式	MPEG-4 AVC/H.264
記録サイズ	FullHD （1920×1080・16:9・30fps／25fps／24fps） HD （1280×720・16:9・60fps／50fps／30fps／25fps／24fps） VGA （640×480・4:3・30fps／25fps／24fps）
画質	★★★（スーパーファイン）、★★（ファイン）、★（エコノミー）
音声	内蔵ステレオマイク、外部ステレオマイク端子、録音レベル
記録時間	最長約25分、内部温度上昇時は自動終了
カスタムイメージ	鮮やか、ナチュラル、人物、風景、雅、ポップチューン、ほのか、銀残し、リバーサルフィルム、モノトーン、クロスプロセス
デジタルフィルター	色抽出、トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、ネガポジ反転、カラー

インターバル動画	撮影間隔（1秒、5秒、10秒、30秒、1分、5分、10分、30分、1時間）、撮影所要時間4秒～99時間、開始トリガー（即時、時刻指定） ※記録形式はMotion JPEG（AVI）

再生機能

再生方法	1画像、マルチ画像表示（4、9、16、36、81画像）、拡大（最大16倍まで、スクロール可、クイック拡大可）、回転表示、ヒストグラム表示（Yヒストグラム、RGBヒストグラム）、白とび黒つぶれ警告表示、縦位置自動回転、詳細情報表示、著作権情報表示（撮影者名、著作権者名）、GPS情報（緯度、経度、高度、方位、協定世界時）、フォルダー表示、撮影日別表示、スライドショウ
消去機能	1画像消去、全画像消去、選択消去、フォルダー消去、クイックビュー消去
デジタルフィルター	モノトーン、色抽出、トイカメラ、レトロ、ハイコントラスト、シェーディング、ネガポジ反転、カラー、ドラマチックアート、デッサン、水彩画、パステル、ポスタリゼーション、ミニチュア、ソフト、クロス、フィッシュアイ、スリム、ベースメイク
RAW展開	記録形式（JPEG)、記録設定（アスペクト比、記録サイズ、画質、色空間)、ディストーション補正、倍率色収差補正、カスタムイメージ、ホワイトバランス、増減感、高感度NR、シャドー補正
編集機能	リサイズ、トリミング（アスペクト比変更可、傾き補正可）、インデックス、動画編集（分割および不要部分消去)、動画フレーム画像JPEG保存、バッファ RAW保存

カスタマイズ機能

カスタム ファンクション	16項目
モードメモリ	11項目
カスタムボタン	⦿（緑）ボタン（グリーンボタン、ワンタッチRAW+、プレビュー、フォーカスアシスト、カスタムイメージ、デジタルフィルター） ⦿（赤）ボタン（動画記録、ワンタッチRAW+、プレビュー、フォーカスアシスト、カスタムイメージ、デジタルフィルター） **AF**/**AE-L** ボタン（AF作動1、AF作動2、AFキャンセル、AEロック）
ワールドタイム	世界75都市に対応（28タイムゾーン）
著作権情報	「撮影者名」「著作権者名」を画像ファイルに記録

電源

使用電池	充電式リチウムイオンバッテリー D-LI90P
ACアダプター	ACアダプターキット K-AC1202J（別売）
電池寿命	撮影可能枚数…ストロボ50％発光：約500枚 ストロボ発光なし：約540枚 再生時間…約320分 ※ 新品のリチウム電池使用、23℃、撮影枚数はCIPA規格に準じた測定条件による目安ですが、使用条件により変わります。

外部インターフェイス

端子	USB 2.0（ハイスピード対応）／AV出力端子、HDMI出力端子(タイプC)、ステレオマイク入力端子
USB接続	MSC／PTP
ビデオ出力方式	NTSC／PAL

外形寸法・質量

外形寸法	約121mm（幅）× 79mm（高）× 59mm（厚）（ホットシュー、操作部を除く）
質量	約560g（専用電池、SDカード付き）、約480g（本体のみ）

付属品

同梱物	USBケーブルI-USB7、ストラップ O-ST120、充電式リチウムイオンバッテリー D-LI90P、専用充電器 D-BC90P、ACコード、ソフトウェア（CD-ROM）S-SW120 <これ以降はカメラに装着状態で出荷> ホットシューカバー FK、ボディマウントカバー
ソフトウェア	SILKYPIX Developer Studio 3 for PENTAX

撮影可能枚数の目安

（2GBのSDメモリーカードを使用した場合）

アスペクト比	記録サイズ（画素数）	JPEG画質			RAW
		★★★	★★	★	
16:9	13M （4928×2776）	251枚	445枚	878枚	76枚
	10M （4224×2376）	343枚	602枚	1181枚	−
	6M （3456×1944）	507枚	890枚	1707枚	−
	4M （2688×1512）	830枚	1429枚	2672枚	−
3:2	16M （4928×3264）	214枚	379枚	749枚	76枚
	12M （4224×2816）	289枚	512枚	1007枚	−
	8M （3456×2304）	429枚	758枚	1463枚	−
	5M （2688×1792）	706枚	1229枚	2363枚	−
4:3	14M （4352×3264）	242枚	429枚	841枚	76枚
	11M （3840×2880）	311枚	548枚	1078枚	−
	7M （3072×2304）	483枚	841枚	1617枚	−
	4M （2304×1728）	841枚	1463枚	2793枚	−
1:1	10M （3264×3264）	323枚	569枚	1117枚	76枚
	8M （2880×2880）	412枚	723枚	1396枚	−
	5M （2304×2304）	640枚	1117枚	2119枚	−
	3M （1728×1728）	1117枚	1920枚	3615枚	−

* 撮影可能枚数は、被写体・撮影状況・撮影モード・使用するSDメモリーカード等により異なります。

索引

記号

数字

A

B

C

D

E

G

H

I

J

L

M

N

O

P

R

S

T

U

W

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

や行

ら行

わ行

アフターサービスについて

1. 本製品が万一故障した場合は、ご購入日から満1年間無料修理いたしますので、お買い上げ店か使用説明書に記載されている当社サービス窓口にお申し出ください。修理をお急ぎの場合は、当社のサービス窓口に直接お持ちください。修理品ご送付の際は、輸送中の衝撃に耐えられるようしっかり梱包し、発送や受け取りの記録が残る宅配便などをご利用ください。不良見本のサンプルや故障内容の正確なメモを添付していただけると原因分析に役立ちます。
2. 保証期間中［ご購入後1年間］は、保証書［販売店印および購入年月日が記入されているもの］をご提示ください。保証書がないと保証期間中でも修理が有料になります。なお、販売店または当社サービス窓口へお届けいただく諸費用はお客様にてご負担願います。また、販売店と当社間の運賃諸掛りにつきましても、輸送方法によっては一部ご負担いただく場合があります。
3. 次の場合は、保証期間中でも無料修理の対象にはなりません。
   - 使用上の誤り（使用説明書記載以外の誤操作等）により生じた故障。
   - 当社の指定するサービス機関以外で行われた修理・改造・分解による故障。
   - 火災・天災・地変等による故障。
   - 保管上の不備（高温多湿の場所、防虫剤や有害薬品がある場所での保管等）や手入れの不備（本体内部に砂・ほこり・液体かぶり等）による故障。
   - 修理ご依頼の際に保証書のご提示、添付がない場合。
   - お買い上げ販売店名や購入日等の記載がない場合ならびに記載事項を訂正された場合。
4. 保証期間以降の修理は有料修理とさせていただきます。なお、その際の運賃諸掛りにつきましてもお客様のご負担とさせていただきます。
5. 本製品の補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に保有しております。従って本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間以後であっても修理可能の場合もありますので、当社サービス窓口にお問い合わせください。
6. 海外でご使用になる場合は、国際保証書をお持ちください。国際保証書は、お持ちの保証書と交換に発行いたしますので、使用説明書記載のお客様窓口にご持参またはご送付ください。［保証期間中のみ有効］
7. 保証内容に関して、詳しくは保証書をご覧ください。

ペンタックスファミリーのご案内

ペンタックス製品をご愛用の方なら、どなたでも入会できる全国的な写真クラブです。
ペンタックスファミリーは、たくさんの会員特典や楽しいイベントであなたのフォトライフをバックアップ！あなたもペンタックスファミリーで、すばらしい写真の世界をお楽しみください。
詳しくは、下記ホームページをご覧いただくか、Pentax Family事務局までお問い合わせください。

ペンタックスファミリーホームページ　http://pentax.jp/family/

Pentax Family事務局　TEL 03-3580-2060　FAX 03-3580-2065
〒100-0014　東京都千代田区永田町1-11-1 三宅坂ビル2階
営業時間　9：00～17：00（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

ペンタックスホームページアドレス　http://www.pentax.jp/

本製品に関するお問い合わせ　http://www.pentax.jp/japan/support/

PENTAX お客様相談センター　　**ナビダイヤル　0570-001323**
（市内通話料金でご利用いただけます。）

ナビダイヤルをご利用いただけない場合は、下記の電話番号をご利用ください。

TEL 03-3960-5705（代）　FAX 03-3960-4976

営業時間　9：00～18：00（平日）　10：00～17：00（土・日・祝日）
（年末年始、ビル点検日を除く）

修理に関するお問い合わせ　http://www.pentax.jp/japan/support/repair.html

PENTAX 東京サービスセンター　　**TEL 03-3960-5140（代）　FAX 03-3960-5147**

〒174-0041　東京都板橋区舟渡1-12-11 ヘリオスⅡビル3階

営業時間　9：00～17：30（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

PENTAX 大阪サービスセンター　　**TEL 06-6271-7996（代）　FAX 06-6271-3612**

〒542-0081　大阪府大阪市中央区南船場1-17-9 パールビル2階

営業時間　9：00～17：00（土・日・祝日、弊社休業日を除く）

ペンタックスピックアップリペアサービス　　**フリーダイヤル　0120-97-0405**

全国（離島など、一部の地域を除く）どこからでも電話一本でペンタックス指定の宅配業者がお客様ご指定の日時・場所に梱包資材を持って不具合品を引き取りにお伺いし、専門修理スタッフが修理を行って、お客様ご指定の場所に完成品をお届けするサービスです。（全国一律料金）※ 弊社修理受付後のお問い合わせは、東京サービスセンターにて承ります。

受付時間　8：00～21：00（平日）　9：00～18：00（土・日・祝日・年末年始）

ショールーム・ギャラリー・修理受付

ペンタックスフォーラム　　**TEL 03-3348-2941（代）　FAX 03-3345-8076**

〒163-0690　東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービルMB（中地下1階）

営業時間　10：30～18：30（毎週火曜日、年末年始、ビル点検日を除く）

ペンタックスリコーイメージング株式会社
〒 174-8639 東京都板橋区前野町 2-35-7

☆仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。
58239
R02DTE12
Printed in Philippines